

平成 18 年度

川崎市衛生研究所年報

(第 42 号)

KAWASAKI CITY INSTITUTE
FOR PUBLIC HEALTH



KAWASAKI CITY

川崎市衛生研究所

(2006)

は　じ　め　に

平成 18 年度の衛生研究所業務概要や調査研究報告などを取りまとめた川崎市衛生研究所年報第 42 号をお届けします。

平成 18 年 5 月 29 日に食品中に残留する農薬、飼料添加物及び動物用医薬品に関するポジティブリスト制度が施行され、検査対象農薬等が従前の 250 項目から 799 項目に拡大されました。それに伴い基準値と一斉分析法が導入され、液体クロマトグラフィー質量分析計やガスクロマトグラフィー質量分析計などの最新の検査機器が必須のアイテムとなり、ようやく本年 8 月に LC/MS/MS が導入され、早速、稼働しております。

国内では、中国産輸入食品の食品衛生法違反事例や無承認無許可医薬品を含有する健康食品などの食の安全安心にかかわる事例が多発しておりました。

一方、感染症関連では中国、東南アジアに端を発した高病原性鳥インフルエンザ（H5N1）は、ヨーロッパ・アフリカ大陸まで浸潤し、現在も増加傾向にあり、一部では家族内でのヒト－ヒト感染事例が認められる事例もあり、わが国への持込が危惧されております。H5N1 は昨年 6 月に感染症法の指定感染症と同時に検疫感染症に追加され、水際防止対策の強化が図られました。当所も川崎港保健衛生協議会が主催する川崎港インフルエンザ（H5N1）対策総合訓練に参加し、国県市の担当部局と連携しつつ迅速検査態勢対応を検証しました。また、国内では多剤耐性緑膿菌による院内感染死亡事例や高齢者福祉施設におけるノロウイルス（遺伝子型 GⅡ 4）による感染症が多発し、本市においても児童福祉施設や高齢者介護の同一施設内で複数回のノロウイルス（遺伝子型 GⅡ 4）による感染事例があり、検査担当職員は多忙を極めました。

地方衛生研究所は、地域における科学的かつ技術的中核機関として「調査研究」、「試験検査」、「研修指導」、「公衆衛生情報の収集・解析・提供」の 4 本柱が業務の中心に据えられておりましたが、近年では、「健康危機管理」や「食の安全・安心」にかかわる事象に対しても関係行政部局、保健所等と緊密な連携の下、公平、公正かつ中立、迅速で正確な検査態勢の対応が求められております。当所としても、今後とも保健衛生主管部局や保健所等は勿論、近隣自治体の衛生研究所とも平時から緊密に連携し、市民の公衆衛生の向上並びに健康保持の発展に寄与する所存です。皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

平成 19 年 10 月

川崎市衛生研究所長

小川 正之

目 次

I	概 要	1
1	沿 革	1
2	施設及び建物の現状	2
3	機 構	2
	(1) 組 織	2
	(2) 事務分掌	2
4	人 員 配 置	3
5	予算及び決算	4
	(1) 歳 入	4
	(2) 歳 出	4
6	行 事	5
	(1) 学会及び研究会	5
	(2) 講習会及び研修会	5
	(3) 職場研修	7
	(4) 会 議	7
	(5) 講師派遣	9
	(6) 研修指導	10
	(7) 実務指導	10
	(8) その他の事業	10
II	業 務	11
1	微生物検査担当	11
2	理化学検査担当	20
III	試 験 検 査	41
1	月 別 検 査 件 数	41
2	依頼別・項目別検査件数	44

(1)	食品別検査項目内訳	49
(1-1)	食品別検査項目内訳（理化学検査）	49
(1-2)	食品別検査項目内訳（細菌検査）	50
(2)	水質別検査項目内訳	51
IV	調 査 研 究	52
1	調 査 研 究 報 告	53
2	学 会 発 表	74
3	論 文 発 表	75
V	職 員 名 簿	77
VI	人 事 記 録	78

I 概 要

1 沿 革

年 月	事 項
昭和27. 1	川崎市条例第2号（昭和27年1月9日）により公衆衛生の向上及び増進に寄与するため川崎市立衛生試験所設置される。
	庁舎は、川崎市砂子1丁目7番地 川崎市中央保健所2階の一部を使用する。
27. 2	川崎市事務分掌条例（昭和22年川崎市条例第16号）に基づく事務分掌規則により次の係が設置される。
	庶務係 試験係
36. 7	本市に4か所の原子炉関係施設が設置され、市民からの強い要望にこたえて、川崎市新川通り70番地 川崎市立川崎病院構内に放射能測定室を設置し、業務を開始する。
36.10	川崎市事務分掌規則の改正により試験係が廃止され、新たに、試験第1係、試験第2係が設置される。
37. 9	川崎市中央保健所庁舎が改築され、同時に同庁舎4階に移転する。
40. 4	試験第1係、試験第2係が廃止され、新たに、微生物係、臨床検査係、理化学環境検査係が設置される。
42. 7	川崎市事務分掌規則の改正により理化学環境検査係が廃止され、新たに、食品化学係、環境検査係が設置される。
44. 4	川崎市立川崎病院構内に設置の放射能測定室を閉鎖し、環境検査係内に移す。
44. 9	川崎市大島5丁目5番地2（元川崎市交通局トロリーバス車庫跡地）に庁舎新築起工する。
45. 5	新庁舎竣工する。
45. 6	川崎市条例第2号が改正され、川崎市衛生研究所条例（昭和45年3月31日条例第14号）が新たに施行される。（名称変更と設置場所の変更）
45. 6	川崎市事務分掌規則の改正により課制を施行、2課7係が設置される。
	微生物課 庶務係 細菌検査係 臨床検査係 ウイルス検査係 理化学課 食品検査係 水質検査係 環境検査係
45. 6	川崎市衛生研究所新庁舎の開庁式挙行される。
46. 4	川崎市衛生研究所条例第6条に基づく手数料一部追加により改正、施行される。（昭和46年3月23日条例第6号）
46. 8	川崎市衛生研究所放射線障害予防規程（昭和46年7月29日訓令第14号）が施行される。
46.10	川崎市事務分掌規則の改正（昭和46年10月15日規則第71号）により、1室、2課6係となる。同時に川崎市役所機構改革により公害局公害研究所が新設され、庁舎共同使用となる。
47. 4	川崎市が指定都市に指定される。（地方自治法第252条の19第1項）
48.12	公害研究所、新庁舎建設に伴い移転する。
50. 4	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。（昭和50年4月1日条例第6号）
50. 4	川崎市衛生研究所条例施行規則を全面改正施行される。（昭和50年4月1日規則第21号）
50. 7	4階に実験室を増築する。
61.10	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、課、係制を廃止し、主幹・主査制を導入する。
平成元. 3	1階に安全実験室を設置する。
3. 3	電子顕微鏡室を設置する。
4. 3	3階に有機溶媒排気装置を設置する。
4. 4	川崎市事務分掌規則等の一部改正により、事務分掌の内容を変更する。
4. 5	主査（衛生動物検査担当）及び主査（残留農薬検査担当）を増設する。
6. 4	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。（平成6年3月30日条例第13号）
6. 7	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。（平成6年3月30日条例第6号） 手数料（第7条関係別表）を大幅に改定する。

年 月	事 項
9. 5	神奈川県より医薬品検査業務が本市に移管されたことに伴い、4階に医薬品検査施設を増設する。
10. 4	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。(平成10年3月24日条例第4号) 医薬品検査手数料を新設する。
12. 4	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。(平成12年3月24日条例第12号) 手数料(第7条関係別表)を一部改定する。
16. 2	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。(平成15年12月25日条例第48号)
16. 3	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。(平成16年3月24日条例第8号)
18. 3	川崎市衛生研究所条例を一部改正施行される。(平成18年3月31日条例第34号)

2 施設及び建物の状況

(1) 敷 地 1,652.89㎡(500坪)

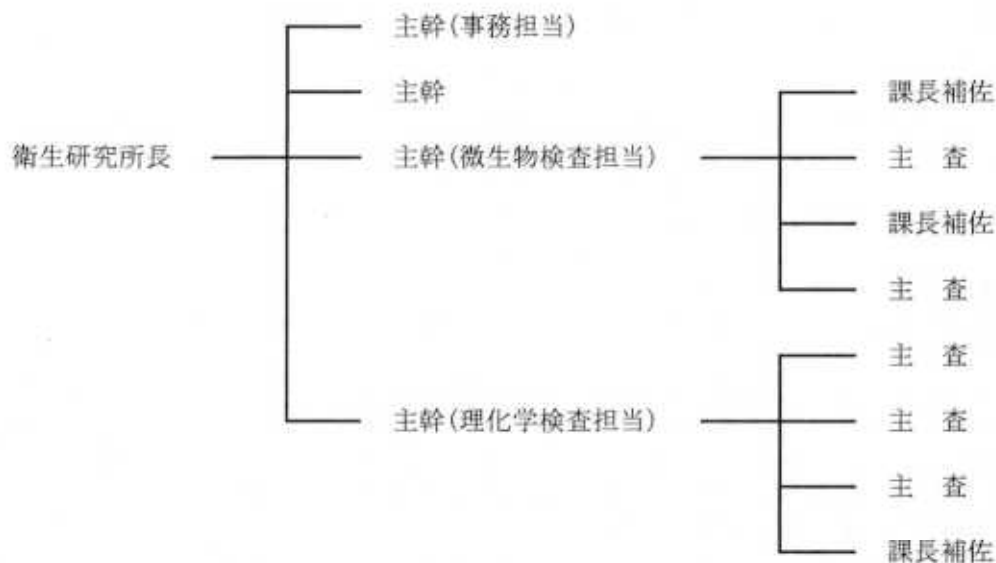
(2) 建 物 鉄筋コンクリート造 4階建 延面積2,242.60㎡

階 別 内 訳

階 別	床 面 積	屋 外 階 段	計
1 階	642.50 ㎡	4.95 ㎡	647.45 ㎡
2 階	630.00 ㎡	23.00 ㎡	653.00 ㎡
3 階	630.00 ㎡	21.85 ㎡	651.85 ㎡
4 階	290.30 ㎡	—	290.30 ㎡
計	2,192.80 ㎡	49.80 ㎡	2,242.60 ㎡

3 機 構

(1) 組 織



(2) 事務分掌

川崎市事業所事務分掌規則(昭和51年4月30日規則第39号)第3条の事務分掌は、次のとおりとする。
衛生研究所

- (1) 所の庶務に関すること。
- (2) 所の維持管理に関すること。
- (3) 試験検査の企画、調査及び統計に関すること。
- (4) 公衆衛生従事者の技術研修の企画実施に関すること。
- (5) 検査容器の消毒及び洗浄に関すること。
- (6) 微生物学的試験検査及び調査研究に関すること。
- (7) 衛生動物の試験検査及び調査研究に関すること。
- (8) 理化学的試験検査及び調査研究に関すること。
- (9) その他公衆衛生上必要な試験検査及び調査研究に関すること。

4 人 員 配 置

(平成19年4月1日現在)

担当部門別 職種別		総数	一般事務職	獣医師	薬剤師	臨床検査技師	化学職	研究職	保健師	用務員
総 数		37	4	6	10	11	3	1	1	1
所 長		1				1				
事 務 担 当	主 幹	2	1					1		
	事務ほか	6	3	1					1	1
微生物検査担当	主 幹	1		1						
	細菌検査部門	5		1	1	3				
	臨床検査部門	2				2				
	ウイルス検査部門	3		1		2				
	衛生動物検査部門	1		1						
理化学検査担当	主 幹	1			1					
	食品検査部門	5			5					
	水質検査部門	4			2	1	1			
	環境検査部門	3		1		2				
	残留農薬検査部門	3			1		2			

5 予算及び決算（平成18年度）

(1) 歳入

単位：円

款 項 目	節	予 算 額	決 算 額
使用料及び手数料			
手 数 料			
健康福祉手数料	衛生検査手数料	98,436,000	79,920,830
	証明検査手数料	39,000	37,300

(2) 歳出

単位：円

款 項 目	節	予 算 額	決 算 額
健康福祉費			
保健衛生施設費			
衛生研究所費		94,486,000	87,559,275
		(調査研究費 1,199,000)	(調査研究費 994,864)
	報 償 費	66,000	44,000
	旅 費	25,000	18,560
	需 用 費	42,615,000	38,969,269
	消 耗 品 費	28,420,000	24,924,883
	(調査研究費)	(1,174,000)	(994,864)
	燃 料 費	61,000	23,381
	食 糧 費	21,000	4,000
	印 刷 製 本 費	654,000	219,450
	光 熱 水 費	10,748,000	11,142,345
	修 繕 費	2,711,000	2,655,210
	役 務 費	2,865,000	2,397,550
	郵 便 料	64,000	64,000
	電 話 料	418,000	402,150
	手 数 料	2,383,000	1,931,400
	委 託 料	21,302,000	19,149,821
	使用料及び賃借料	24,647,000	24,482,375
	備 品 購 入 費	2,419,000	2,051,700
	(調査研究費)	(25,000)	(0)
	負担金補助及び交付金	547,000	446,000

() 内は調査研究費再掲

6 行 事

(1) 学会及び研究会

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
18. 4. 20	日本感染症学会	ホテル日航東京	小嶋
18. 5. 11~12	第91回日本食品衛生学会学術講演会	銀座プロッサム	田中 佐々木 佐藤(恵美) 佐藤(英子) 児玉
18. 6. 28	川崎市健康福祉研究発表会	中原区役所	小川(正之) 佐藤(英毅) 須藤 小嶋 駒根 飯塚 平位 奥山 清水 佐竹 田中 入口 橋口 佐々木 佐藤(恵美) 児玉 森脇 岸 竹澤 大場 横田 小川(時彦)
18. 6. 29~30	全国地研衛生微生物協議会第27回研究会	札幌コンベンションセンター	小川(正之) 須藤 加佐見
18. 8. 31	腸管出血性大腸菌シンポジウム	慈恵医大	岡田 小嶋
18. 9. 21~22	第27回日本食品微生物学会	大阪府立大学	小川(正之) 岡田
18. 9. 29~30	地研全国協議会関東甲信静支部ウイルス部会	チサンホテル宇都宮	平位 清水
18. 10. 25~26	日本公衆衛生学会	富山県民会館	駒根
18. 10. 26~27	第92回日本食品衛生学会学術講演会	中部大学春日井キャンパス	佐々木
18. 11. 1~2	第43回全国衛生化学技術協議会年会	米子コンベンションセンター	海野
18. 10. 27	第58回日本衛生動物学会東日本支部大会	自治医科大学	佐藤(英毅) 佐竹
18. 11. 14	第52回神奈川県公衆衛生学会	県立よこはま看護専門学校	小川(正之) 小嶋 飯塚 平位
18. 11. 19~21	日本ウイルス学会	名古屋国際会議場	清水
18. 12. 22	第20回関東甲信越花粉症研究会	サンシャイン60(池袋)	佐竹
19. 1. 12	日本マイコトキシシン学会	国立医薬品食品衛生研究所	橋口
19. 2. 2	平成18年度神奈川県内衛生研究所連絡協議会理化学情報部会	神奈川自治会館	田中 入口 佐々木 佐藤(恵美) 赤星 岸 竹澤 大場 海野 小川(正之) 岡田 小嶋
19. 2. 22~23	地研全国協議会関東甲信静支部細菌研究部会	さいたま共済会館	小川(正之) 田中 林 佐々木 竹澤 海野
19. 2. 23	地方衛生研究所全国協議会関東甲信静支部理化学研究部会	千葉市文化センター	佐藤(英毅) 佐竹
19. 3. 7	ねずみ駆除協議会主催平成18年度研究会	KKRホテルTOKYO	小川(正之) 岡田 駒根 奥山 清水 飯塚
19. 3. 29	平成18年度神奈川県内衛生研究所等連絡協議会微生物情報部会	横須賀市勤労福祉会館	

(2) 講習会及び研修会

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
18. 4. 24	サーモエレクトロン隣技術セミナー	衛生研究所	橋口 佐々木 佐藤(恵美) 林 森脇 岸 竹澤 大場 佐藤(英子) 海野 横田 小川(時彦)
18. 4. 25	カンピロバクター研修会	中央区立日本橋公会堂	須藤
18. 5. 16	ウォーターズLCセミナー	衛生研究所	橋口 佐々木 佐藤(恵美) 岸 竹澤 海野 横田 小川(時彦)

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
18. 5. 17	水質分析前処理技術セミナー	北とびあ	森脇
18. 5. 26	平成18年度食品安全行政講習会	厚生労働省	岡田 橋口
18. 6. 5	バリアンGC/MS/MSセミナー	衛生研究所	橋口 佐々木 岸 竹澤 大場 佐藤(英子) 海野 横田 小川(時彦)
18. 6. 8	(財)日本食品分析センター講演会	パルテノン多摩	佐々木 児玉 大場
18. 7. 12	ポジティブリスト試験法に係る技術セミナー	川崎市産業振興会館	佐々木 児玉 竹澤
18. 8. 8	GC-MS QP2010メンテナンス講習会	東京カスタマーサポートセンター	児玉
18. 8. 21～22	GC-MS QP2010操作講習会	東京カスタマーサポートセンター	佐々木 竹澤
18. 8. 31	平成18年度全国食品衛生監視員研修会第46回関東ブロック大会	千葉市文化センター	海野
18. 9. 12	レジオネラ症感染症事故防止衛生管理講習会	台東区生涯学習センター	本間
18. 9. 21	放射線取扱主任者定期講習	東京富山会館ビル	林
18. 9. 28	センサ鑑別法研修	神奈川県衛生研究所	田中 入口 佐々木 児玉
18. 10. 11	石綿健康障害講演会	中小企業婦人会館	児玉 林
18. 10. 12	平成18年度食品衛生監視員研修(食品監視コース)	神奈川県衛生研究所	佐々木
18. 10. 16	第2回川崎科学技術サロン	産業振興会館	小川(正之) 田中 横田
18. 10. 18	石綿健康障害講演会	中小企業婦人会館	田中 入口 佐々木 森脇 竹澤 海野
18. 10. 27	第3回公衆衛生専門技術研修会	神奈川県衛生研究所	奥山
18. 11. 2	環境衛生監視員研修会	神奈川県実践教育センター	駒根
18. 11. 17	住まいと健康セミナー	ミューザ川崎	海野
18. 11. 17	平成18年度公開セミナー・研究発表会	神奈川県衛生研究所	横田
18. 11. 17	川崎市感染症臨床医家の会講演会	ソリッドスクエア	小川(正之) 平位 小嶋
18. 11. 24	感染症対策関係職員研修会	教育文化会館	小川(正之) 小嶋 清水
18. 11. 27	ダイオキス技術説明会	パシフィコ横浜	岸
18. 11. 29	平成18年度日本水道協会関東支部水質研究発表会	新宿明治安田生命ホール	森脇
18. 11. 29～30	平成18年度市町村研修センター 情報(後期)研修講座	湘南NDビル	岸
18. 11. 30	情報セキュリティ責任者研修	いさご会館	小川(正之)
18. 11. 30 ～12. 1	地域保健総合推進事業全国自然毒中毒講演会・研修会	姫路市中央保健センター	佐竹
18. 12. 8	食の安全を確保するための微生物検査協議会講演会	中央区立日本橋公会堂	須藤 本間
18. 12. 12	島津ガスクロマトグラフセミナー	国際ファッションセンター	佐藤(恵美) 森脇
19. 1. 12	マイコトキシン研究会	国立医薬品食品衛生研究所	橋口
19. 1. 19	平成18年度衛生関係職員研修会	川崎区役所	横田
19. 1. 25～26	GC-MS QP5000操作講習会	東京カスタマーサポートセンター	森脇

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
19. 1. 25～26	地域保健総合推進事業微生物部門研修会	埼玉県衛生研究所	小川(正之) 須藤
19. 1. 26	LC-MS分析ワークショップ	アプライト・バイオシステムズ・ジャパン(株) 東京支店	橋口 岸
19. 2. 2	平成18年度(第28回)全国環境衛生職員団体協議会 関東ブロック会研究発表会	新潟ワシントンホテル	森脇
19. 2. 7	日本ウォーターズ LC/MS/MSデモ講習会	第5小池ビル	橋口 岸
19. 2. 7	島津FTIRスペクトル分析セミナー	東武横浜第3ビル	佐々木
19. 2. 13	2007Watersセミナー	日本ウォーターズ 東京本社	佐々木 佐藤(恵美)
19. 2. 15～16	希少感染症診断技術研修会	国立感染症研究所	岡田 清水
19. 2. 16	結核対策特別事業研修会	川崎区役所保健福祉センター	小川(正之) 小嶋 横田
19. 2. 16	臨床検査技師研修会	川崎区役所保健福祉センター	加佐見 飯塚
19. 2. 16	公衆衛生情報協議会研究会	高松市	田中
19. 2. 20	横浜市衛生研究所衛生技術研修会	横浜市衛生研究所	本間
19. 2. 20	衛生研究所職員研修会(微生物)	川崎区役所会議室	小川(正之) 岡田 加佐見 平位 奥山 清水 橋口
19. 3. 6	食品分析LC/MS/MSセミナー	第一ホテル東京シーフォート	橋口
19. 3. 9	安全衛生活動研究発表会	いさご会館	小川(正之)
19. 3. 14	神奈川県水道水質検査機関技術研修会	かながわ県民センター	岸
19. 3. 15	平成18年度建築物環境衛生管理研修会	厚生労働省	海野
19. 3. 16	県・政令4市精度管理専門委員会研修会	県総合医療会館	小川(正之)
19. 3. 16	臨床検査技師研修会	川崎区役所保健福祉センター	加佐見 飯塚
19. 3. 22～23	地域保健総合推進事業理化学部門研修会	東京都健康安全研究センター	佐々木

(3)職場研修

年 月 日	内 容	講 師 名(敬称略)	場 所
18. 11. 22	衛生研究所理化学研修会	東京都健康安全研究センター 高野 伊知郎 水石 恵子	ミューザ川崎
19. 2. 20	衛生研究所微生物研修会 ノロウイルスの消毒の現状と問題点	矢野 一好	川崎区役所

(4)会 議

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
18. 5. 11	地研全国協議会理事会・総務委員会	大阪府立公衆衛生研究所	小川(正之)
18. 5. 15	平成18年度第1回業務管理責任者等連絡協議会 理化学検査部会	衛生研究所	入口 竹澤 海野
18. 5. 17	神奈川県感染症編集委員会	神奈川県衛生研究所	岡田
18. 5. 19	第1回エイズ対策事業検討委員会	中原区役所保健福祉センター	飯塚

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
18. 5. 23	健康福祉研究発表会表彰委員会	川崎市役所第3庁舎	小川(正之)
18. 5. 25	神奈川県公衆衛生学会第1回学術部会	波止場会館	小川(正之)
18. 5. 26	業務管理責任者等連絡協議会第1回収去部会	明治安田生命ビル	岡田
18. 5. 26	地研全国協議会関東甲信静支部表彰選考委員会	ミューザ川崎	小川(正之)
18. 5. 28	エイズ日曜検査・相談事業医師連絡会	川崎市健康・検診センター	飯塚
18. 5. 30	川崎区選出議員団事業報告会	川崎区役所	小川(正之)
18. 6. 1	全国地方衛生研究所所長会議	厚生労働省	小川(正之)
18. 6. 2	地研全国協議会臨時総会	都市センターホテル	小川(正之)
18. 6. 2	第2回エイズ対策事業検討委員会	川崎市健康・検診センター	飯塚
18. 6. 9	共同研究連絡会議	神奈川県衛生研究所	児玉
18. 6. 21	地研全国協議会関東甲信静支部総会	ミューザ川崎	小川(正之) 笹野 田中
18. 6. 23	業務管理責任者等連絡協議会第2回収去部会	明治安田生命ビル	岡田
18. 6. 28	川崎市結核・感染症発生動向調査委員会第1回情報解析小委員会	中原保健所	小川(正之) 岡田 平位
18. 7. 4	臨床検査施設における精度管理委員会	川崎区役所保健福祉センター	小川(正之) 佐藤(英毅) 加佐見 飯塚
18. 7. 10	第3回エイズ対策事業検討委員会	中原区役所保健福祉センター	飯塚
18. 7. 11	地域保健総合推進事業地研ブロック長等会議	大阪府立公衆衛生研究所	小川(正之) 笹野
18. 7. 25	衛生研究所運営委員会	衛生研究所	小川(正之) 笹野 佐藤(英毅) 田中
18. 7. 13	県内衛研等連絡協議会所長会	いさご会館	小川(正之) 笹野 佐藤(英毅) 田中
18. 7. 26	神奈川県公衆衛生協会川崎支部理事会	川崎区役所	小川(正之)
18. 8. 3	平成18年度食品衛生検査施設信頼性部門責任者研修会	厚生労働省	田中
18. 8. 4	共同研究連絡会議	神奈川県衛生研究所	児玉
18. 8. 11	平成18年度第2回業務管理責任者等連絡協議会理化学検査部会	衛生研究所	入口 竹澤 海野
18. 8. 15	業務管理責任者等連絡協議会第1回微生物部会	衛生研究所	岡田 平位
18. 8. 24~25	指定都市衛生研究所所長会議	千葉市	小川(正之)
18. 8. 30	地研全国協議会第2回理事会・総務委員会	大阪府立公衆衛生研究所	小川(正之)
18. 9. 5	川崎市精度管理専門委員会	川崎市役所第3庁舎	小川(正之)
18. 9. 20	神奈川県公衆衛生学会第2回学術委員会	波止場会館	小川(正之)
18. 9. 26	業務管理責任者等連絡協議会第3回収去部会	明治安田生命ビル	岡田
18. 9. 27	第1回川崎市結核・感染症発生動向調査委員会及び第2回情報解析小委員会	中原区役所	小川(正之) 佐藤(英毅) 岡田 平位
18. 10. 12	かながわ研究協議会理事会	神奈川県庁	小川(正之)
18. 10. 20	関東東海ブロック家庭用品安全対策会議	横須賀市生涯学習センター	海野
18. 10. 24	地研全国協議会総会	富山全日空ホテル	小川(正之)

年 月 日	名 称	場 所	参 加 者
18.11. 7	地域保健総合推進事業関東甲信静ブロック会議	いさご会館	小川(正之) 笹野 佐藤(英毅) 田中
18.11.16	平成18年度第1回川崎市食の安全確保対策協議会	消費者行政センター	田中
18.11.20	健康福祉研究発表会審査委員会	川崎市役所第3庁舎	小川(正之)
18.11.24	H I V即日検査・エイズ担当者会議	川崎市検査・相談室	飯塚
18.11.27	原子力委員会	川崎市役所	田中
18.12. 5	第4回エイズ対策事業検討委員会	中原区役所保健福祉センター	飯塚
18.12.20	川崎市感染症対策協議会及び第3回情報解析小委員会	中原休日急患診療所	小川(正之) 佐藤(英毅) 岡田 平位
18.12.20	新型インフルエンザ対策専門委員会	危機管理室	小川(正之)
18.12.22	職員B型肝炎対策委員会	福祉パル川崎	小川(正之)
19. 1. 9	共同研究連絡会議	神奈川県衛生研究所	橋口 赤星
19. 1.19	第2回県・政令4市合同精度管理専門委員会	県総合医療会館	小川(正之)
19. 2. 5	地研全国協議会第2回ブロック長等会議	都市センターホテル	小川(正之) 笹野
19. 2. 7	首都圏自治体食中毒防止食品衛生検査担当者連絡会	東京都庁	岡田 平位
19. 2. 8	川崎市食の安全確保協議会	消費者行政センター	入口
19. 2.15~16	公衆衛生情報協議会研究会	香川県民ホール	田中
19. 2.13	職員B型肝炎対策委員会	川崎保健所	小川(正之)
19. 2.19	かながわ研究協議会理事会	神奈川県庁	小川(正之)
19. 3. 1	第2回臨床検査施設における精度管理検討委員会	川崎区役所保健福祉センター	小川(正之) 佐藤(英毅) 加佐見 飯塚
19. 3. 1	平成18年度第3回業務管理責任者等連絡協議会 理化学検査部会	衛生研究所	入口 竹澤 海野
19. 3. 6	業務管理責任者等連絡協議会第4回収去部会	明治安田生命ビル	岡田
19. 3.14	業務管理責任者等連絡協議会第2回微生物部会	衛生研究所	岡田 平位
19. 3.15	全国レジオネラ対策会議	厚生労働省	本間
19. 3.20	業務管理責任者等による連絡協議会	川崎市役所	小川(正之) 佐藤(英毅) 田中
19. 3.20	関東信越ブロック健康危機管理連絡協議会	さいたま新都心	小川(正之)
19. 3.23	神奈川県感染症編集委員会	神奈川県衛生研究所	岡田
19. 3.28	第2回川崎市結核・感染症発生動向調査委員会及び第4回情報解析小委員会	中原休日急患診療所	小川(正之) 佐藤(英毅) 岡田 平位
19. 3.29	県内地研等連絡協議会微生物情報部会	横須賀市健康安全科学センター	小川(正之) 岡田 駒根 飯塚 奥山 清水

(5)講師派遣

年 月 日	名 称	講 師 名	依 頼 者
18. 5. 8	食中毒と消毒・洗浄について	小川 正之	日本食品洗浄剤衛生協会
18. 7.24	院内感染と消毒について	小川 正之	川崎市病院協会
18. 9.15	H I V即日検査法について	飯塚 郁夫	臨床検査技師研修会
18.11.13	H I V即日抗体検査の概要と即日キットの実際	飯塚 郁夫	保健医療部疾病対策課

(6)研修指導

年 月 日	実 習 対 象	人 員	内 容
18. 4. 13	川崎市薬剤師会実務研修	10名	プール水検査（微生物・ 理化学検査）
18. 8. 14～16	中央卸売市場南部・北部市場 食品衛生検査所職員	1名	残留農薬検査迅速分析法

(7)実務指導

年 月 日	実 習 対 象	人 員	内 容
18. 4. 17～21	中央卸売市場北部市場・南部市場職員	2名	食品細菌検査
18. 6. 13	中央卸売市場南部市場食品衛生検査所職員	1名	
18. 8. 9～10	中央卸売市場南部市場食品衛生検査所職員	1名	
18. 8. 7～11	国際衛生株式会社	2名	
18. 9. 4～6	中央卸売市場南部市場食品衛生検査所職員	1名	
18. 10. 12～13	中央卸売市場南部・北部市場食品衛生検査所職員	1名	ノロウイルス検査
18. 11. 8～10	中央卸売市場南部市場・北部市場職員	2名	
18. 12. 19	中央卸売市場南部市場食品衛生検査所職員	1名	

(8)その他の事業

年 月 日	名 称	人 員	内 容
18. 10. 6	川崎市精度管理専門委員会	5名	登録検査所立入り検査 (専門委員会:小川正之)
18. 10. 6	川崎市精度管理専門委員会	4名	
18. 10. 26	川崎市精度管理専門委員会	10名	
18. 11. 13	川崎市精度管理専門委員会	5名	
18. 12. 21	川崎市精度管理専門委員会	5名	

Ⅱ 業 務

1 微生物検査担当

(1) 細菌検査部門

ア 腸内細菌

(ア) 業態者検便

業態者検便（給食従事者、食品取扱者、その他一般）からの赤痢菌およびサルモネラ、腸管出血性大腸菌 O 157 検出状況は表 1 に示すとおりである。検査件数は 4,801 件であり、腸管出血性大腸菌 O 157 (VT1, 2) が 2 件 (0.04%) 検出された。赤痢菌、サルモネラは検出されなかった。

(イ) 医療機関依頼の下痢症患者からの病原菌検出状況

下痢症患者からの病原菌検出状況は表 2 に示すとおりである。検査件数 773 件中、病原菌陽性件数は 91 件 (11.8%) であり、その内訳は、サルモネラ 6 件 (0.8%)、腸管病原性大腸菌 11 件 (1.4%)、腸管出血性大腸菌 2 件 (0.3%)、毒素原生大腸菌 1 件 (0.1%)、腸炎ビブリオ 5 件 (0.6%)、カンピロバクター・ジェジュニ 66 件 (8.5%)、エルシニア・エンテロコリチカ 1 件 (0.1%)、エロモナス・ソブリアが 1 件 (0.1%) であり、カンピロバクター・ジェジュニが検出病原菌の 72.5% を占めていた。腸管出血性大腸菌 2 件は、O157:H7 (VT1, VT2)、O145:H- (VT2) であった。同一患者から 2 菌種の病原菌による混合感染事例が 2 事例みられた。

表 1 業態者からの赤痢菌及びサルモネラ、O 157 の検出状況
(平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)

年 月	件 数	病 原 菌		
		赤痢菌 (%)	サルモネラ (%)	O157 (%)
18. 4	363	0	0	0
5	589	0	0	0
6	468	0	0	0
7	456	0	0	1 (0.2)
8	375	0	0	1 (0.3)
9	340	0	0	0
10	427	0	0	0
11	394	0	0	0
12	353	0	0	0
19. 1	393	0	0	0
2	350	0	0	0
3	293	0	0	0
計	4,801	0	0	2 (0.04)

イ 食中毒発生状況

平成 18 年度の市内細菌性食中毒の発生は表 3 に示すとおりである。セレウス菌によるものが 2 件、黄色ブドウ球菌によるものが 1 件であった。

ウ 感染症サーベイランス事業

(ア) 百日咳

今年度は検査依頼がなかった。

表 2 散発下痢症からの病原菌検出状況 (平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
検 体 数	44	53	64	45	62	61	63	91	93	72	62	63	773
陽 性 数	3	7	7	11	13*	17	12	7	1	4	5	4	91*
(%)	(6.8)	(13.2)	(10.9)	(24.4)	(21.0)	(27.9)	(19.0)	(7.7)	(1.1)	(5.6)	(8.1)	(6.3)	(11.8)
サ ル モ ネ ラ		1			2	1	1	1					6 (0.8)
腸 管 病 原 性 大 腸 菌	1		1		3*	1	2	1			1	1	11 (1.4)*
腸 管 出 血 性 大 腸 菌					1	1							2 (0.3)*
毒 素 原 性 大 腸 菌					1								1 (0.1)
腸 炎 ビ ブ リ オ				2	2*	1							5 (0.6)*
カンピロバクター・ジェジュニ	2	6	6	9	5*	13	8	5	1	4	4	3	66 (8.5)*
エルシニア・エンテロコリチカ							1						1 (0.1)
エロモナス・ソブリア					1*								1 (0.1)*

備考：*印は、同一人から 2 菌種の病原菌が検出された事例 (2 事例)

表 3 市内細菌性食中毒発生事例 (平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)

No.	年月日	摂食者数	患者数	死者数	原因食品	病因物質	施設	摂食場所
1	18.5.24	8	4	0	米飯	セレウス菌	飲食店	その他
2	18.6.25	9	9	0	エッグドッグ	黄色ブドウ球菌	飲食店	その他
3	18.9.2	17	8	0	不明	セレウス菌	家庭	同左

(イ) 溶連菌

溶連菌分離状況は表4に示すとおりである。今年度は全て患者（溶連菌感染症を疑われる人）であり、13名中13名（100.0%）が陽性であり、全てA群であった。A群のT型別については表5に示すとおりである。

エ 河川水の定点観測

4月、7月、10月、1月に各4ポイント計16ポイントから採水を行い、腸管系病原菌の検索を行った。腸炎ビブリオが11件、コレラ non-01 が6件、ビブリオ・パルニフィカスが4件、サルモネラが1件検出された。その他コレラ菌、腸管出血性大腸菌 O157 は検出されなかった。（表6）

オ 食品細菌

食品細菌検査は、表7に示すとおりである。平成18年度の総検体数は2,296検体であり、違反項目（食品衛生法成分規格及び川崎市の食品等の衛生指導基準による）は、延469件（20.4%）で、すべて川崎市食品衛生指導基準による違反件数であった。違反項目で検出率の多い項目は大腸菌36件（19.8%）、大腸菌群の337件（17.4%）、セレウス菌32件（10.6%）、細菌数110件（5.6%）、カンピロバクター3件（1.2%）であった。

表4 溶連菌分離状況(平成18年4月～平成19年3月)

区 分	検査 件数	陽 性 数				計
		A群	B群	C群	G群	
患 者	13	13(100.0)	-	-	-	13(100.0)
その他	0	-	-	-	-	-
計	13	13(100.0)	-	-	-	13(100.0)

備考：() 内の数字は、検査件数に対する%を表す。

表5 A群T型別

区 分	T 型							計
	1	3	4	6	12	28	UT	
株 数	1	1	4	2	1	2	2	13

違反項目の多い食品は、昨年と同様に生食用鮮魚介類、食肉、弁当類、そう菜類、豆腐、菓子類および調理器具や手指のふきとりであった。

次に、食品別の病原菌検出状況については、大腸菌群は生食用鮮魚介類、弁当類、そう菜類、菓子類、器具・手指のふきとりに、セレウス菌は豆腐に、大腸菌は食肉に、黄色ぶどう球菌は器具・手指のふきとりから多く検出され、腸炎ビブリオは生食用鮮魚介類、サルモネラ属菌やカンピロバクターは食肉から検出された。

食中毒の上位を占めるカンピロバクター、サルモネラ、腸炎ビブリオはごくわずかの検出率にとどまった。

表6 河川水および海水からの病原菌検出状況（平成18年4月～平成19年3月）

No.	採水月	採水地点	V.parahaemolyticus	V.vulnificus	v.cholerae 01	v.cholerae non-01	サルモネラ	腸管出血性大腸菌 O157
1	18年4月	市営埠頭	+	-	-	-	-	-
2		大師橋下流	-	-	-	+	-	-
3		六郷橋横	+	-	-	-	-	-
4		末吉橋	-	-	-	+	-	-
5	8月	市営埠頭	+	-	-	-	-	-
6		大師橋下流	+	+	-	-	-	-
7		六郷橋横	+	+	-	-	-	-
8		末吉橋	+	-	-	+	-	-
9	10月	市営埠頭	+	-	-	-	-	-
10		大師橋下流	+	-	-	-	+	-
11		六郷橋横	+	+	-	-	-	-
12		末吉橋	+	-	-	+	-	-
13	19年1月	市営埠頭	+	+	-	-	-	-
14		大師橋下流	-	-	-	+	-	-
15		六郷橋横	-	-	-	+	-	-
16		末吉橋	-	-	-	-	-	-
計			11/16	4/16	0/16	6/16	1/16	0/16

+: 検出 - : 不検出

表7 食品細菌規格基準・指導基準違反件数（平成18年4月～平成19年3月）

食品分類		項目	検 体 数	一 般 菌 数	大 腸 菌 群	黄色 ブドウ 球菌	サル モネラ 属菌	セレ ウス 菌	ウ エル シュ 菌	E H C O 1 5 7	E H E C	大 腸 菌	E・ coli (MPN)	腸 炎 ビ ブリ オ	腸 炎 ビ ブリ オ (MPN)	真 菌 類	カン ピロ バク ター	N A G ビ ブリ オ	コ レ ラ 菌	V・ フル ビ アリス	赤 痢 菌	Y・ エン テロ コリ チカ	その他の 食中毒 菌	リス テリ ア 菌	ボツ リヌ ス 菌	緑 膿 菌	腸 球 菌	クロ スト リ ウム 属菌	細菌 試験	その 他	総 数
魚介類および その加工品	生食用生かき	26	0	0	-	0	-	-	0	-	1	0	0	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
	生食用鮮魚介類	124	16	62	2	0	-	-	0	-	-	0	-	0	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	80
	魚肉ねり製品	19	0	0	0	0	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	そ の 他	42	0	0	0	0	-	0	0	-	-	0	-	1	0	-	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
食肉および その加工品	食 肉	176	0	0	1	5	-	0	1	-	31	0	-	-	-	-	3	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	42
	生 食 用 食 肉	8	0	0	0	0	-	0	0	-	1	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	1
	食 肉 製 品	27	3	0	0	0	-	0	0	-	0	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	3
卵および その加工品	卵	15	0	0	0	0	-	0	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	卵 加 工 品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳および その加工品	乳	3	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
	乳 製 品	18	0	1	0	0	-	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	1
	乳 類 加 工 品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
穀類・豆類 およびその 加 工 品	め ん 類	40	3	6	0	0	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9
	豆 腐	64	7	10	0	0	13	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	36
	そ の 他	15	0	0	0	0	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
野菜・果物およ びその加工品	漬 物	34	0	0	0	0	0	-	0	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	0
	野菜果物・その他	86	0	3	0	0	0	-	0	-	3	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
弁 当 類	弁 当 類	165	7	43	0	0	2	-	0	-	-	0	-	0	-	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	52
	調 理 パ ン	61	3	11	0	0	0	-	0	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
そうざい類	非加熱そう菜	218	21	0	0	0	7	0	0	-	0	3	-	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	31
	加 熱 そう 菜	415	3	59	1	0	2	0	0	-	0	0	-	0	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	-	-	65
調味料（みそ・しょうゆ等）		10	0	0	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
菓 子 類	和 生 菓 子	56	1	11	1	0	1	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	14
	洋 生 菓 子	110	7	28	0	0	0	0	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	25
清涼飲料水・粉末清涼飲料		11	0	0	-	-	0	-	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	0	-	-	-	-	0
冷 凍 食 品		14	0	0	0	0	0	-	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
氷 菓		4	0	0	0	0	0	-	0	-	0	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
レ ト ル ト		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の食品		42	0	0	0	0	1	0	0	-	0	0	-	0	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	-	-	-	-	0	1
ふきとり	器具拭取（包丁・まな板）	418	32	86	5	0	6	0	0	-	0	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	129
	手 指 拭 取	72	7	16	6	0	-	-	0	-	-	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	29
	そ の 他	2	0	0	0	-	-	-	0	-	-	-	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0
ふ き ん ・ お し ぼ り		1	0	1	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1
違 反 件 数 合 計		669	110	337	16	5	32	0	1	-	36	3	0	1	0	0	3	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	545
年 間 件 数 合 計		2,296	1,954	1,940	1,763	1,493	302	51	1,457	-	182	1,138	13	184	132	2	242	64	50	32	53	31	155	132	15	2	2	6	1	11,395	
%		20.4	5.6	17.4	0.9	0.3	10.6	0.0	0.1	-	19.8	0.3	0.0	0.5	0.0	0.0	1.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	

（注）－：検査未実施 0：違反無し

(2) 臨床検査部門

当部門の業務は、梅毒血清学検査、HBs抗原抗体検査、HIV抗体検査、HCV抗体検査、寄生虫卵検査、クラミジア・トラコマチス抗体検査、つつが虫病検査等の検査及び研究業務を行っている。

ア 梅毒血清学検査

梅毒血清学検査の結果は、表1及び表2に示すとおりである。

イ 血清学検査（HBs抗原抗体検査、HIV抗体検査、HCV抗体検査）の結果は、表3から表7に示すとおりである。

ウ 寄生虫検査

行政から1件、一般依頼99件のぎょう虫卵検査（セロファンテープ法）の依頼があったが、陽性者はいなかった。

エ つつが虫病患者血清抗体検査

間接蛍光抗体法により血清診断を行っているが、今年度の依頼検査はなかった。

オ クラミジア・トラコマチス抗体検査

エイズ日曜検査・相談事業の一環として平成16年度からクラミジア・トラコマチス抗体検査を実施している。本年度は405件の依頼があり、IgG抗体陽性数は47件、IgA抗体陽性数は10件であった。

表1 梅毒血清学検査法別成績

件数	定性		定量	TPHA		FTA - ABS
	凝集法	ガラス板法		定性法	定量法	
総数	41	41	0	40	0	0
陽性	0	0	0	0	0	0

表2 梅毒血清学検査依頼状況

	母性	婚前	一般	施設入所	減免	医院	行政	その他	計
件数	0	0	43	0	0	0	0	0	43

表3 一般依頼によるHBs抗原・抗体検査

対象	件数	HBs抗原陽性者数	HBs抗体陽性者数
一般依頼	226	1 (0.4%)	24 (10.6%)

表4 職員B型肝炎定期検診施設別件数

対象施設	区役所保健所	医療施設	看護短期大学	老人保健施設	その他	計
件数	212	14	17	3	9	255

表5 職員HBs抗原・抗体陽性者数

項目	HBs抗原陽性	HBs抗体陽性
件数（陽性率）	0 / 255	194 / 255 (76.1%)

HBsワクチン接種者195名に対して抗体陽性者165名で84.6%の保有率であった。

表6 HIV抗体検査数

	保 健 所	行 政	計
平成 18 年 4 月	42 (1)	80	122 (1)
5 月	61	115	176
6 月	59	141 (1)	200 (1)
7 月	38	159 (1)	197 (1)
8 月	67	100 (2)	167 (2)
9 月	52	123	175
10 月	54	131	185
11 月	46	145 (1)	191 (1)
12 月	79	137	216
平成 19 年 1 月	62 (1)	133	195 (1)
2 月	77 (1)	124	201 (1)
3 月	55	126 (2)	181 (1)
計	692 (3)	1514 (7)	2206 (10)

HIV抗体確認検査（ウエスタンブロット法）10件行った。（ ）内は陽性件数再掲

表7 HCV抗体依頼検査

依頼者	件 数	HCV抗体陽性者
保健所一般依頼	206	5 (2.4%)
フィブリノゲン製剤関係による依頼	3	0
	209	5 (2.4%)

(3) ウイルス検査部門

ア インフルエンザ検査（集団かぜ）

平成 18 年度シーズンは、2 月 21 日に発生しはじめ、3 月 16 日に終息するまでに、7 施設 10 学級で見られた。当施設において、1 施設 1 学級 2 名についてウイルス分離をおこなったところ、うがい液から 2 名において B 型が分離された。なお、平成 17 年度シーズンから続いていた集団発生のうち 5 月 17 日および 26 日の 2 施設 2 学級 8 名についてウイルス分離をおこなったところ、うがい液から 4 名において B 型が分離された。（表 1）

イ 風疹抗体検査

平成 18 年度の月別検査件数は表 2 に示すとおりで

ある。

ウ 感染症発生動向調査事業

（ア）39 歳以下を対象に麻疹、風疹、ムンプスならびに水痘の抗体検査を行った。それぞれのウイルスに対する検査件数と抗体保有率は、表 3 に示すとおりである。

（イ）感染性胃腸炎患者糞便から酵素抗体法（イムノクロマト法）を用いてロタウイルス、アデノウイルスの検出、PCR 法を用いてノロウイルスの検査を行った。検体 49 例中 8 例（16.3%）がロタウイルス陽性で、11 例（22.4%）がノロウイルス陽性、3 例（6.1%）がアデノウイルス陽性であった。月別ではロタウイルスは 4 月、12 月、1 月、2 月に見られた。ノロウイルスは 5 月、11 月、12 月、1 月に見られた。また、アデノウイルスは 6 月、11 月、3 月に見られた。（表 4）

(ウ) 市内医療機関に来院した、かぜ様患者についてインフルエンザウイルス分離を細胞培養法で行った。平成 18 年度は 114 例の検体が搬入され、そのうち 95 例が陽性で内訳は A 香港型が 55 株、A ソ連型が 14 株、B 型が 26 株であった。月別の分離数は表 5 に示すとおりである。

(エ) 市内医療機関に来院した、無菌性髄膜炎、咽頭結膜熱、手足口病等について、ウイルス分離を細胞培養法で行った。平成 18 年度は咽頭結膜熱の流行があり、アデノウイルス 3 型が 19 株分離された。3 月からは麻疹の流行があり、麻疹ウイルス 2 株が検出された。月別の分離数は表 6 に示すとおりである。

(オ) 市内医療機関に来院した陽性検体の疾病名別ウイルス検出状況は表 7 に示すとおりである。

エ 食品及び食中毒検査

市内に流通している食品 78 件について PCR 法を

用いてノロウイルス (NoV) の調査を行ったところ 7 件から検出された。食中毒等原因食品の検査 77 件では NoV は 2 件検出された。また、食中毒等由来吐物及び便 370 件から NoV が 141 件検出された。(表 8)

オ 西ナイルウイルス検査、デングウイルス検査

4 月から 11 月に保健所のライトトラップで捕獲した蚊について、西ナイルウイルス 138 件、デングウイルス 49 件を PCR 法で行ったが、ウイルスは検出されなかった。

また、市内 4 カ所の公園に設置したドライアイス 2 kg 併用の CDC 型トラップに捕獲された蚊についても 6 月から 10 月に西ナイルウイルス 105 件、デングウイルス 41 件を行ったが、ウイルスは検出されなかった。(表 9)

表 1 集団かぜ患者のインフルエンザ検査

検体採取日	学校名	ウイルス分離	ウイルス型
		B 型	
18. 5. 17	南大師中学校 (川崎区)	2 / 5	B 型
18. 5. 26	南河原中学校 (幸区)	2 / 3	B 型
19. 3. 13	長沢小学校 (麻生区)	2 / 2	B 型

表 2 風疹抗体検査

年 月	18.4	5	6	7	8	9	10	11	12	19.1	2	3	合 計
検体件数	1			1	7		1						10

表 3 麻疹、風疹、ムンプス、水痘抗体検査

検査項目 年齢	麻 疹		風 疹		ムンプス		水 痘	
	検査件数	抗体 保有率 (%)	検査件数	抗体 保有率 (%)	検査件数	抗体 保有率 (%)	検査件数	抗体 保有率 (%)
19 歳以上	152	151(99.3)	152	141(92.8)	152	117(77.0)	152	143(94.1)

表 4 感染性胃腸炎からのウイルス検出

発症年月	検査件数	ロタウイルス 陽性件数 (%)	アデノウイルス 陽性件数 (%)	ノロウイルス 陽性件数 (%)
18.4	4	1(25.0)	0	0
5	4	0	0	2(50.0)
6	4	0	1(25.0)	0
7	1	0	0	0
8	1	0	0	0
9	1	0	0	0
10	0	0	0	0
11	4	0	1(25.0)	2(50.0)
12	18	2(11.1)	0	6(33.3)
19.1	5	1(20.0)	0	1(20.0)
2	6	4(66.7)	0	0
3	1	0	1(100.0)	0
合計	49	8(16.3)	3(6.1)	11(22.4)

表 5 インフルエンザウイルス検査

発 症 月	検 査 件 数	分離数 (%)	ウイルス型		
			A 香港型	A ソ連型	B 型
18.4	7	6(85.7)	0	5	1
5	2	2(100.0)	1	—	1
6	3	2(66.7)	—	—	2
7	0	—	—	—	—
8	0	—	—	—	—
9	0	—	—	—	—
10	0	—	—	—	—
11	3	0	0	0	0
12	0	—	—	—	—
19.1	6	6(100.0)	5	1	0
2	72	62(86.1)	40	6	16
3	21	17(81.0)	9	2	6
合 計	114	95(83.3)	55	14	26

表6 ウイルス分離状況

発症年月	18.4	5	6	7	8	9	10	11	12	19.1	2	3	合計
検査件数	4	8	18	10	8	6	5	0	9	9	3	13	93
分離数	0	3	10	8	5	3	5	0	0	4	0	5	43
アデノ2型				1	1								2
アデノ3型		3	※8	3	2	2	1						19
アデノ8型										1		1	2
アデノ19型												2	2
アデノ37型										3			3
コクサッキーA4型			1										1
コクサッキーA9型			※1										1
コクサッキーA16型						1	1						2
エンテロ71型				4			2						6
ヘルペス1型							1						1
ムンプス					1								1
エコー18型					1								1
麻疹												2	2

※ 手足口病検体から同時にアデノ3型とコクサッキーA9型が分離された

表7 疾病名別ウイルス検出

疾病名 分離ウイルス	咽頭結膜熱	手足口病	流行性角結膜炎	無菌性髄膜炎	脳脊髄膜炎	麻疹	合計
アデノ2型	2						2
アデノ3型	15	※2	2				19
アデノ8型			2				2
アデノ19型			2				2
アデノ37型			3				3
コクサッキーA4型		1					1
コクサッキーA9型		※1					1
コクサッキーA16型		2					2
エンテロ71型		6					6
ヘルペス1型	1						1
ムンプス				1			1
エコー18型				1			1
麻疹						2	2
検査件数	18	12	25	30	13	5	103
陽性数	18	11	9	2	0	2	43
陽性率	100.0	91.7	66.7	6.7	0.0	40.0	41.7

※ 手足口病検体から同時にアデノ3型とコクサッキーA9型が分離された

表8 ノロウイルス（NoV）検査

年 月	検 査 数 食品・他	陽性数 (%)	検査数 便	陽性数 (%)
18.4	0	0	10	0
5	0	0	16	3(18.8)
6	2	0	3	0
7	4	0	3	0
8	1	0	7	0
9	0	0	0	0
10	0	0	0	0
11	27	1(3.7)	59	33(55.9)
12	90	7(7.8)	109	45(41.3)
19.1	31	1(3.2)	122	44(36.1)
2	0	0	16	5(31.3)
3	0	0	25	11(44.0)
合計	155	9(5.8)	370	141(38.1)

表9 西ナイルウイルス、デングウイルス検査

保 健 所 名	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	総計
川 崎 保 健 所		3	6	9	8	5	3	1	35
幸 保 健 所	3	1	2	2	7	3	2		20
中 原 保 健 所	1		2	2	1	1	2		9
高 津 保 健 所	1	1	2	4	5	3	5	1	22
宮 前 保 健 所				1	1		4	1	7
多 摩 保 健 所	1	1		2	3	2		1	10
麻 生 保 健 所		3	5	6	10	7	2	2	35
西 ナ イ ル 検 査 数	6	9	17	26	35	21	18	6	138
デ ン グ 検 査 数		1	6	9	10	10	5		49
西ナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子の検出結果		陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性		陰性

公 園 名	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	総計
東 扇 島 中 公 園	4	5	7	5	5	26
夢 見 ケ 崎 動 物 公 園	5	7	7	17	3	29
緑 ケ 丘 霊 園	4	7	6	5	6	28
早 野 聖 地 公 園	4	5	6	3	4	22
西 ナ イ ル 検 査 数	17	24	26	30	18	105
デ ン グ 検 査 数	7	11	10	8	5	41
西ナイルウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性
デングウイルス遺伝子の検出結果	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性	陰性

備考 検体は全てメス

(4) 衛生動物検査部門

衛生動物検査部門では、感染症を媒介する昆虫、人を刺咬したりする有害動物及び食品に混入した昆虫の検査等を行っている。

また、花粉アレルギー症対策の一環としてスギ及びヒノキ花粉の飛散状況の調査も行っている。

ア 衛生動物検査

(ア) 依頼の内訳は、下記のとおりであった。

a 哺乳類

1件（保健所依頼）

b 昆虫

92件（保健所依頼23件、その他行政機関からの依頼69件）

c 室内塵中のダニ

3件（保健所依頼2件、一般依頼1件）

d 環形動物

1件（その他行政機関からの依頼）

e 扁形動物

1件（保健所依頼）

イ スギ及びヒノキ花粉調査

健康福祉局保健医療部疾病対策課の依頼によりスギ及びヒノキ花粉の調査を行った。

衛生研究所屋上でDurham式標準捕集器とIs-rotary式捕集器を用い、24時間毎にスライドグラスに付着した花粉数を数えた。

検査方法は、スライドグラス上の花粉を染色し、鏡検により3.24 c m²当たりの花粉数を数え、1 c m²当たりの花粉数に換算した。

今シーズンのスギ及びヒノキ花粉の飛散数は少なかった。

また、市消防局航空隊のヘリコプターによる上空花粉調査を行ったので結果を表1に、平成19年2月から4月までの飛散状況を表2に示す。

表1 ヘリコプターによるスギ及びヒノキ花粉の調査結果

調査日	川 崎 橋 本		逗 子 ・ 鎌 倉		富 津	
	ス ギ	ヒノキ	ス ギ	ヒノキ	ス ギ	ヒノキ
H18/12/15	0	0	0	0	0	0
H19/1/18	0	0	0	0	0	0
H19/1/26	0	0	0.2	0	0.1	0
H19/2/6	0.1	0	1.3	0	4.7	0
H19/2/19	9.2	0	27.2	0	7.3	0
H19/3/6	38.5	2.7	230.6	3.0	68.4	5.2
H19/3/12	11.8	0.5	9.5	0.4	13.0	0.5

備考 高度：300 m、速度：40 ノット、捕集数：個／c m²、捕集時間：5 分間

表2 花粉飛散状況

捕集 開始日	durham		rotary		捕集 開始日	durham		rotary		捕集 開始日	durham		rotary	
	スギ	ヒノキ	スギ	ヒノキ		スギ	ヒノキ	スギ	ヒノキ		スギ	ヒノキ	スギ	ヒノキ
2月1日	0.6	0.0	3.4	0.0	3月1日	7.4	0.3	4.9	0.0	4月1日	12.0	4.0	45.1	18.8
2月2日	0.3	0.0	0.0	0.0	3月2日	6.2	0.3	11.7	0.3	4月2日	1.2	4.0	7.7	17.6
2月3日	0.9	0.0	4.0	0.0	3月3日	17.6	0.0	27.8	0.0	4月3日	2.2	2.5	10.8	5.6
2月4日	0.0	0.0	1.5	0.0	3月4日	27.8	0.9	64.5	0.6	4月4日	1.5	2.2	24.7	15.1
2月5日	0.3	0.0	0.9	0.0	3月5日	30.2	0.3	74.7	3.1	4月5日	0.9	1.5	9.0	9.3
2月6日	1.5	0.0	2.2	0.0	3月6日	140.1	2.5	399.4	4.6	4月6日	1.2	1.2	0.3	4.0
2月7日	0.0	0.0	3.4	0.0	3月7日	14.8	0.0	78.4	1.5	4月7日	0.3	1.2	1.5	3.7
2月8日	3.7	0.0	4.9	0.0	3月8日	10.2	0.0	13.9	0.0	4月8日	0.0	0.9	1.2	12.0
2月9日	4.6	0.0	10.5	0.0	3月9日	9.6	0.0	6.8	0.3	4月9日	2.2	3.4	3.7	2.2
2月10日	12.0	0.0	26.2	0.0	3月10日	8.0	0.6	6.2	0.0	4月10日	3.1	2.2	19.4	46.6
2月11日	11.1	0.0	39.2	0.0	3月11日	76.5	3.1	215.7	4.0	4月11日	1.5	4.0	3.4	13.3
2月12日	7.1	0.0	17.3	0.0	3月12日	10.2	0.9	19.1	0.3	4月12日	0.0	1.2	0.0	8.6
2月13日	22.8	0.0	43.2	0.0	3月13日	11.7	0.6	45.1	4.0	4月13日	0.0	0.3	0.3	1.9
2月14日	26.5	0.0	28.1	0.0	3月14日	18.5	4.3	30.9	5.6	4月14日	4.9	1.9	38.9	48.1
2月15日	27.5	0.0	306.8	0.0	3月15日	3.7	0.9	4.3	2.8	4月15日	2.2	1.2	2.2	4.3
2月16日	3.7	0.0	21.0	0.0	3月16日	7.4	0.6	9.3	1.2	4月16日	0.0	0.3	0.9	1.5
2月17日	7.1	0.0	2.5	0.0	3月17日	3.4	0.3	24.7	4.0	4月17日	0.0	0.0	0.6	2.5
2月18日	8.3	0.0	16.7	0.0	3月18日	3.4	0.3	28.7	5.6	4月18日	0.3	0.0	0.3	0.6
2月19日	27.5	0.0	51.9	0.0	3月19日	4.3	0.3	20.1	0.3	4月19日	0.0	0.0	2.8	2.2
2月20日	19.1	0.0	31.5	0.0	3月20日	1.2	0.3	12.7	3.1	4月20日	0.3	0.0	0.6	0.9
2月21日	16.7	0.0	24.4	0.0	3月21日	0.6	0.3	4.0	1.5	4月21日	0.3	0.3	0.6	2.2
2月22日	12.7	0.9	56.2	2.2	3月22日	4.9	5.6	36.7	50.6	4月22日	0.3	0.0	0.3	1.2
2月23日	57.7	0.0	276.9	2.8	3月23日	1.9	0.0	6.5	14.2	4月23日	0.9	0.0	4.0	6.8
2月24日	24.7	0.0	216.7	0.6	3月24日	4.0	4.3	16.7	4.0	4月24日	0.3	0.0	0.0	0.0
2月25日	12.7	0.0	38.9	0.0	3月25日	48.8	6.5	127.2	17.6	4月25日	0.3	0.0	0.9	1.5
2月26日	2.2	0.0	0.6	0.0	3月26日	30.6	24.1	66.0	38.6	4月26日	0.3	0.6	3.4	23.5
2月27日	53.7	0.3	90.4	0.0	3月27日	10.2	9.9	34.9	45.4	4月27日	0.0	0.9	0.3	4.0
2月28日	39.5	0.3	175.9	0.6	3月28日	10.5	5.6	42.6	57.7	4月28日	0.0	0.0	0.0	0.9
					3月29日	7.4	19.8	3.7	4.6	4月29日	0.0	0.3	0.9	1.2
					3月30日	18.8	6.2	104.0	16.0	4月30日	0.3	0.0	0.3	1.2
					3月31日	1.2	0.6	4.0	8.3					

備考 捕集数：個／c m²

2 理化学検査担当

理化学検査業務の食品検査担当では、食品等の添加物検査、成分規格検査、動物用医薬品検査、遺伝子組換え食品検査、特定原材料検査及び苦情品検査、並びに健康食品について規格基準検査及び「薬事法」に基づく検査等を実施した。また、今年度は、特定原材料検査については小麦及びそばの検査を実施した。残留農薬検査担当では、輸入農産物、国内農産物の残留農

薬や放射能検査を実施した。水質検査担当では、飲料水（井戸水、貯槽水等）、水質汚濁防止法等に基づく環境水検査などを実施した。環境検査担当では、「有機物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき家庭用品の規制対象及び対象外の検査、川崎港で採取した魚介類の重金属等の環境汚染物検査、容器・包装及び清涼飲料水の成分規格検査を実施した。

(1) 食品検査部門

市内7保健所、市場食品衛生検査所及び生活衛生課、教育委員会、学校給食会から搬入された食品等361検体、1,146項目について、食品衛生法に基づく検査を実施した。

また、G L P内部精度管理として、食品添加物（ソルビン酸塩、安息香酸塩及びタール色素）、外部精度管理として食品添加物2種類（パラオキシ安息香酸ブチル及びパラオキシ安息香酸イソプロピル）、動物用医薬品1種類（フルベンダゾール）及び遺伝子組換え食品3系統の検査を実施した。

ア 輸入食品検査

輸入食品136検体、592項目（ソルビン酸塩、ポリソルベート、T B H Q、亜硫酸塩等）について検査を実施した。（表1）

イ 残留動物用医薬品検査

国産及び輸入畜水産食品中の抗生物質、合成抗菌剤8種類、及び内寄生虫用剤1種類について検査を実施したが、すべて基準値以下であった。検査を実施した項目の内訳を表2に示す。

ウ 指定外添加物検査

国内及び輸入食品について保存料、甘味料、酸化防止剤等の検査103項目を実施した結果、全て不検出であった。

エ 遺伝子組換え食品検査

大豆及びトウモロコシの加工品・製品及びパパイヤ等計58検体の遺伝子組換え食品検査を行った。（表3）

オ 特定原材料検査

本年度は小麦6検体及びそば6検体について特定原材料検査を実施した。（表4）

カ 自然毒検査

貝毒2検体及びふぐ毒2検体について検査を実施した結果、すべて基準値以内であった。（表5）

キ 苦情食品検査

保健所へ苦情品として届けられたもののうち、当検査室へ搬入された検体は17検体であった。その結果を表6-1、表6-2に示す。

ク 医薬品検査

地域医療課から搬入された、健康食品8検体について、薬事法に基づきフェンフルラミン、N-ニトロソフェンフルラミン、フェノールフタレイン、シブトラミン、マジンドール及びセンノシドの6項目について検査を実施した。その結果、すべて不検出であった。（表7）

表1 収去検査内訳

検査内容			項目数
食品中の食品添加物	保 存 料		230 (125)
	合 成 着 色 料		75 (35)
	発 色 剤		31 (1)
	甘 味 料		52 (36)
	漂 白 剤		68 (64)
	酸 化 防 止 剤		53 (30)
	品 質 保 持 剤		31 (0)
	防 か び 剤		25 (25)
	そ の 他 の 添 加 物		11 (9)
	不 許 可 添 加 物		103 (90)
食品汚染物	小 計		679 (405)
	ふ ぐ 毒		2 (0)
	貝 毒		4 (2)
	動 物 用 医 薬 品		263 (142)
	シ ア ン		0 (0)
規格	小 計		269 (144)
	牛 乳		12 (0)
	乳 製 品		20 (1)
	食 品 添 加 物		27 (0)
	小 計		59 (1)
栄 養 分 析			0 (0)
食 品 中 の 品 質 等 の 試 験			58 (2)
遺 伝 子 組 換 え 食 品 検 査			58 (36)
特 定 原 材 料 検 査			24 (0)
そ の 他			4 (4)
総 計			1151 (592)

() 内の数字は輸入食品

表2 残留動物用医薬品検査内訳

				検 体 数	項 目 数	内寄生 虫用剤	抗生物質					合成抗菌剤						
							フル ベン ダゾ ール	テトラサイクリン類※	テトラサイクリン系	ラ サイ クリ ン	オ キ シ テ ト	ストレプトマイシン	スルファジミジン	スルファメラジン	スルファモノメトキシシン	スルファジメトキシシン	スルファキノキサリン	エンフロキサシン
畜産食品	牛 筋肉	国産	1	7		1					1	1	1	1	1		1	
		輸入	2	14		2					2	2	2	2	2		2	
	豚 筋肉	国産	10	26	10	10										2	2	2
		輸入	1	5	1	1										1	1	1
	鶏 筋肉	国産	3	18	3	3					1	1	1	1	1	2	3	2
		輸入	1	5	1	1										1	1	1
卵		国産	11	63	11	11					8	5	7	7	7		7	
乳	牛乳	国産	1	1		1												
	乳製品	国産		0														
		輸入	5	5		5												
魚 介 類		国産		0														
		輸入	16	104			16	16		12	12	12	12	12			12	
は ち み つ		国産	1	2		1				1								
		輸入	1	2		1				1								
健 康 食 品		輸入		0														

※テトラサイクリン類：オキシテトラサイクリン、クロルテトラサイクリン及びテトラサイクリンの和

表3 遺伝子組換え食品検査結果

品 目	検体数	検査対象	試験方法	結 果
大豆穀粒	16	RRS	定量PCR	不検出 16
赤 み そ	1	RRS	定性PCR	不検出 1
白 み そ	1	RRS	定性PCR	不検出 1
納豆加工品	1	RRS	定量PCR	不検出 1 ※
冷凍トウモロコシ	1	GA21	定量PCR	不検出 1 ※
		CaM	定量PCR	不検出 1 ※
		CBH351	定性PCR	不検出 1
		Bt10	定性PCR	不検出 1
トウモロコシ加工品	12	GA21	定量PCR	不検出 4 ※
		CaM	定量PCR	0.35% 1 ※
				0.36% 1 ※
				0.63% 1 ※
				0.66% 1 ※
精米（長粒種）	1	CBH351	定性PCR	不検出 8
		Cry1Ac	定性PCR	不検出 1
		LLRICE601	定性PCR	不検出 1
米加工品	5	Cry1Ac	定性PCR	不検出 5
		LLRICE601	定性PCR	不検出 3
パパイヤ	6	55-1	定性PCR	不検出 6
パパイヤ(乾燥果実)	2	55-1	定性PCR	測定不能 2
パパイヤジュース	1	55-1	定性PCR	測定不能 1

※加工品のため結果は参考値とする。

表4 特定原材料食品検査結果

検査対象	検体数	試験方法	結 果
小麦	6	日ハム ELISA キット	10 µg/g 以上 1
			10 µg/g 未満 1
			不検出 4
		森永 ELISA キット	10 µg/g 以上 1
			10 µg/g 未満 3
			不検出 2
そば	6	日ハム ELISA キット	10 µg/g 未満 2
			不検出 3
			不検出（参考値） 1 ※
		森永 ELISA キット	10 µg/g 未満 0
			不検出 5
			不検出（参考値） 1 ※

※ 包装不良のため参考値とした

表5 自然毒検査結果

項目	検体数	検出数
フグ毒（テトロドトキシン）	2	0
下痢性貝毒	2	0
麻痺性貝毒	2	0

表7 医薬品検査結果

検査項目	検体数	検出	不検出
フェンフルラミン	8	0	8
N-ニトロソフェンフルラミン	8	0	8
フェノールフタレイン	8	0	8
シブトラミン	6	0	6
マジンドール	6	0	6
セノシド	6	0	6

表6-1 苦情品検査結果

品 名	苦情内容	検 査 項 目	検 査 結 果
食肉に付着した 黒色異物と繊維 状異物	異物	黒色異物 外観 鏡検（生物顕微鏡） 金属定性試験 繊維状異物 外観 鏡検（生物顕微鏡） FT-IR	4.00mm × 3.16mm の褐色固形物質 表面に不規則な凸凹のある板状で端部は平面に対し垂直となる物質 酸分解後、原子吸光光度計により鉄を検出した。 1.47mm × 2.07mm の緑色繊維状物質 白色透明な繊維状物質に緑色物質が付着 対照として提供された繊維状物質と同様の吸収スペクトルが得られた。
赤ワインの着色	添加物	酸性タール色素	合成着色料 不検出
切り餅	異味	酵母 GC-MS 定性試験	陽性 酢酸エチルを確認
豆腐中の異物	異物	外観 鏡検（実体顕微鏡） 鏡検（生物顕微鏡）	1.99mm × 2.95mm 0.83mm × 1.73mm 0.94mm × 3.32mm の緑色物質 異物が豆腐中に入り込んでいた。 維管束組織を多数確認した。 以上の結果から、植物片と推定された。
蛭さんしょう煮 （加熱そう菜）	有症	細菌試験 添加物試験	細菌数 大腸菌群 食中毒菌 * (1g 中) 300 未満 陰性 陰性 BHA BHT ソルビン酸 安息香酸 (g/kg) (g/kg) (g/kg) (g/kg) 不検出 不検出 不検出 不検出
ふぐ干物	有症	フグ毒	5MU/g 以下
バナナの黒色異 物と繊維状異物	異物	黒色異物 外観 鏡検（実体顕微鏡） 鏡検（生物顕微鏡） 繊維状異物 外観 鏡検（実体顕微鏡） FT-IR	8.23mm × 4.60mm の黒褐色楕円状固形物質 繊維状異物に類似する繊維が表面に付着していた。 水に溶解後、多様な異物の他、黒色毛様異物を確認した。 黒色毛様異物に連鎖状の髄質を確認した。 多数の白色～白褐色繊維状物質 光沢のある扁平な繊維 CH 基 OH 基 C=O 基の吸収スペクトルを確認した。 黒色異物はネズミの糞と推定されたが、繊維状異物は特定に至らなかった。
ウーロン茶中の 異物	異物	外観 鏡検（実体顕微鏡） 鏡検（生物顕微鏡）	ゼリー状の固まり カビの絡まりあう菌糸と表面に分生子頭を確認した。 <i>Aspergillus sp.</i> 及び <i>Cladosporium sp.</i> を確認した。 カビの菌糸の固まりと推定された。
白色繊維状異物	異物	FT-IR	プロピレンを主成分とする物質と推定された。 異物は合成樹脂と推定された。
洋菓子	有症	不揮発性腐敗アミン	ヒスタミン チラミン カダベリン ブトレシン スペルミジン 不検出 不検出 不検出 不検出 不検出
トマトの着色	添加物	酸性タール色素	合成着色料 不検出
紙様異物	異物	外観 鏡検（実体顕微鏡） 鏡検（生物顕微鏡）	25mm × 15mm × 7mm の褐色紙状物質 表面に均一な網目構造が認められた。 維管束組織を確認した。 異物は植物片と推定された。
キャロットグラッセ （ニンジン甘煮）	異味	性状等 添加物試験	pH 残留塩素 4.81 不検出 亜硫酸塩 EDTA (g/kg) (g/kg) 不検出 不検出

表6-2 苦情品検査結果

品 名	苦情内容	検 査 項 目	検 査 結 果
豆腐中の異物	異物	外観 鏡検（実体顕微鏡） FT-IR	2.92mm × 1.70mm の黒色粒状物質 表面に不規則な凹凸が認められた。 特徴的な吸収ピークは認められなかった。
オイスターソース中の異物	異物	外観 鏡検（生物顕微鏡）	ソース表面及び瓶口周辺に薄茶色の固形物が確認された。 数種類のカビが確認された。 異物はカビの固まりと推定された。
うどん中の異物	異物	外観 鏡検（実体顕微鏡） FT-IR	9.51mm × 0.40mm の黒褐色棒状物質 円柱状で長手方向に沿って多数の繊維状のすじがあり、断面は繊維状構造が認められた 対照品として紫米と比較したところ、類似のスペクトルが確認された。
サンマ缶詰中の異物	異物	外観 FT-IR ヨウ素－デンプン反応	大きさ約 40mm × 34mm 重量約 7.94g 及び、大きさ約 24mm × 10mm 重量約 0.97g の表面は明るい琥珀色、内部は白色の固形物質 デンプンに類似した吸収スペクトルが確認された。 赤紫色を呈した。 穀類デンプンと推定された。

*食中毒菌17種：赤痢菌 サルモネラ 腸炎ビブリオ 病原性大腸菌 黄色ブドウ球菌 ウエルシュ菌 ナグビブリオ カンピロバクター・ジェジュニ/コリ エルシニア・エンテロコロリチカ
エロモナス・ヒドロフィラ エロモナス・ソブリア セレウス菌 ビブリオ・フルビアリス コレラ菌 パラチフス菌 チフス菌 プレジオモナス・シグロイデス

(2) 水質検査部門

ア 飲料水検査

平成18年度に実施した飲料水の飲料適否総検査件数は542件であり、前年度に比較して11.3%増加した。その結果を表1に示す。

検査内訳についてみると、井戸水は262件、また、貯槽水は206件、船舶水34件、簡易専用水道水5件、専用水道水1件、水道直結栓水34件であり、前年度に比べ、井戸水は4.4%、簡易専用水道水は78.3%、専用水道水は50.0%の減少、また、貯槽水は58.5%、船舶水は21.4%及び水道直結栓水は13.3%の増加がみられた。

次に、不適率について、前年度と比較したところ井戸水、簡易専用水道水および専用水道水については減少した。しかし、貯槽水、船舶水および水道直結栓水については増加の傾向がみられた。

イ 排出水、環境水等の検査

「水質汚濁防止法」、「海洋汚染及び海上災害の防止に関する法律」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」等の規定に基づく排出水、環境水、汚泥等615件の依頼を受け検査を実施した。検査件数を表2に示した。

ウ クリーニング排水検査

事業者の自主検査による、水質汚濁防止法に基づき、クリーニング排水5件について有機塩素系化合物（テトラクロロエチレン等）の検査を実施した。結果を表3に示す。

エ 衛生研究所排水検査

下水道法に基づき、当所からの排水について毎月2回水質検査を実施している。本年度の結果は表4に示すとおりであり、フェノール類、シアンおよび六価クロムの各項目については、すべて不検出であった。なお、1日平均の排水量は7.8m³であった。

表2 排出水、環境水等の検査件数

種類	検査件数	備考
排 出 水	55 (102)	事業所 クリーニング排水等
環 境 水	11 (11)	海域・河川・保有水
汚 泥	0 (2)	産業廃棄物
プール・ 浴 場 水	549 (508)	水質基準判定
そ の 他	0 (1)	異物
計	615 (624)	

()：前年度

表3 クリーニング排水検査結果

種 類	検査件数	基準不適合件数	基準不適合率%
テトラクロ ロエチレン	4 (10)	1 (4)	25.0 (40.0)
1, 1, 1- トリクロロエタン	0 (0)	0 (0)	0.0 (0.0)
計	4 (10)	1 (4)	25.0 (40.0)

()：前年度

表1 飲料水検査結果

() : 前年度

種 類	井戸水	貯槽水	船舶水	簡易専用水道水	専用水道水	水道直結栓水	計
検 査 件 数	262 (274)	206 (130)	34 (28)	5 (23)	1 (2)	34 (30)	542 (487)
種 類 比 率 %	48.3 (56.3)	38.0 (26.7)	6.3 (5.7)	0.9 (4.7)	0.2 (0.4)	6.3 (6.2)	100 (100)
不 適 件 数	99 (103)	10 (5)	1 (3)	0 (3)	0 (0)	0 (3)	110 (117)
不 適 率 %	37.8 (37.6)	4.9 (3.8)	2.8 (10.7)	0.0 (13.0)	0.0 (0.0)	0.0 (10.0)	20.3 (24.0)
不 適 項 目 件 数	一 般 細 菌	63 (71)	7 (4)	1 (3)	0 (0)	0 (0)	71 (80)
	大 腸 菌	23 (29)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	23 (29)
	硝 酸 態 窒 素 及 び 亜 硝 酸 態 窒 素	8 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (4)
	鉄及びその化合物	22 (22)	2 (0)	0 (0)	0 (2)	0 (1)	24 (25)
	塩 化 物 イ オ ン	0 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (1)
	カルシウム、マグネシウム等 (硬 度)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	有 機 物 (全有機炭素(TOC)の量)	0 (2)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (2)
	pH 値	1 (1)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)
	味	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	臭 気	0 (4)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (4)
	色 度	7 (12)	0 (0)	0 (0)	0 (1)	0 (0)	7 (14)
	濁 度	11 (13)	2 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	13 (13)
	ク ロ ロ ホ ル ム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ジ ブ ロ モ ク ロ ロ メ タ ン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ブ ロ モ ジ ク ロ ロ メ タ ン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ブ ロ モ ホ ル ム	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	総トリハロメタン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	鉛及びその化合物	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	亜鉛及びその化合物	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	銅及びその化合物	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	マンガン及びその化合物	12 (5)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	12 (5)
	蒸 発 残 留 物	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	テ ト ラ ク ロ ロ エ チ レ ン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	ト リ ク ロ ロ エ チ レ ン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
	1,1,1-トリクロロエタン	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)

表4 最終下水水質測定結果

項 目	p H	溶解性鉄 m g / ℓ	フェノール類 m g / ℓ	シアン m g / ℓ	六価クロム m g / ℓ
平均値	7.2	0.04	不検出	不検出	不検出
範 囲	6.3 ~ 8.1	0.00 ~ 0.13	—	—	—

(3) 環境検査部門

す有害物質の検査を実施した。

ア 家庭用品検査

その結果は、繊維製品中のホルムアルデヒドが基準値を超えたものが7検体認められた。表1に検査項目、製品の種類及び検体数、表2に違反品の内訳を示す。

「有害物質を含有する家庭用品の規制に関する法律」に基づき、市販の家庭用品 342 検体について表1に示

表1 家庭用品試買試験検査結果

検 査 項 目	対象家庭用品	検体数	不適数
ホルムアルデヒド	繊維製品等	241	7
塩化水素、硝酸	住宅用洗剤	1	0
水酸化カリウム、ナトリウム	住宅用洗剤	1	0
容器試験	住宅用洗剤	2	0
有機水銀化合物	繊維製品、ワックス等	13	0
トリフェニルスズ化合物	繊維製品、ワックス等	13	0
トリブチルスズ化合物	繊維製品、ワックス等	13	0
メタノール	家庭用エアゾール製品	14	0
テトラクロロエチレン	家庭用エアゾール製品	10	0
トリクロロエチレン	家庭用エアゾール製品	10	0
ジベンズ「a, h」アントラセン	家庭用防腐、防虫木材	8	0
ベンズ「a」アントラセン	家庭用防腐、防虫木材	8	0
ベンズ「a」ピレン	家庭用防腐、防虫木材	8	0
総 数		342	7

表2 ホルムアルデヒド基準違反の概要

No.	品 名	分 類	測定濃度範囲	件 数
1	バ ジ ャ マ	寝衣 (24ヶ月超)	85.6 ~ 154 μ g/g	4
2	T シ ャ ツ	中 衣 (24ヶ月以内)	0.137 ~ 0.370 (A-A ₀)	3

イ 清涼飲料水の規格検査

清涼飲料水 11 検体について、食品衛生法に基づく規格検査（ヒ素、鉛、カドミウム及びスズ化合物等）を実施したところ、全て適合していた。

ウ 食品添加物の規格検査

液体かんすい 2 検体及び粉末かんすい 1 検体について、食品衛生法に基づく規格検査（重金属、ヒ素等）を実施したところ、全て適合していた。

エ 器具及び容器包装の規格基準検査

ポリスチレン製輸入食器等8検体について、規格検査を実施したところ、全て適合であった。

オ 多摩川で採取した魚介類の環境汚染物質検査

多摩川で採取したアユ3検体について重金属等の検査を行った。その結果を表3、4に示す。

表3 多摩川で採取した魚介類中のPCB、重金属の検査結果

ppm

採取場所	PCB	総水銀	銅	鉛	カドミウム	マンガン
多摩地区	0.04	0.03	0.77	0.08	n d	2.03
高津地区	0.02	0.01	0.65	0.12	n d	3.21
中原地区	0.03	0.04	0.60	0.10	n d	1.84
平均	0.03	0.03	0.67	0.10	n d	2.36

採取場所	クロム	亜鉛	ヒ素	ジブチルスズ化合物	トリブチルスズ化合物	トリフェニルスズ化合物
多摩地区	0.07	8.18	n d	n d	n d	n d
高津地区	0.10	8.73	n d	n d	n d	n d
中原地区	0.08	8.39	n d	n d	n d	n d
平均	0.08	8.43	n d	n d	n d	n d

備考 PCB (KC-300 : KC-400 : KC-500 : KC-600 = 1:1:1:1) ; n d : 0.01ppm 未満

ヒ素 (As₂O₃として) ; n d : 0.01ppm 未満

重金属、有機スズ化合物 ; n d : 0.01ppm 未満

表4 多摩川で採取した魚介類中のベンゾ (a) パイレン、n-パラフィン系炭化水素の検査結果

ppm

採取場所	ベンゾ (a) パイレン	n-ペンタデカン	n-ヘプタデカン	n-ノナデカン
多摩地区	n d	2.8	3.3	n d
高津地区	n d	1.0	1.1	n d
中原地区	n d	1.0	1.4	n d
平均	n d	1.6	1.9	n d

備考 ベンゾ (a) パイレン ; n d : 0.001ppm 未満

n-パラフィン系炭化水素 ; n d : 0.001ppm 未満

エ 食品中の重金属類検査

表5に示す34検体について、食品衛生法及び食品検査指針に基づいた試験法により金属類の検査を実施した。規格のある食品は全て基準値以下であった。

表5 食品中の金属及び金属化合物等の検体数及び検査項目数

検 体 名	検体数	検 査 項 目					
		酸化フェン ブタスズ	シ ヘ キ サ チ ン	鉛及びその 化 合 物	ヒ素及びそ の 化 合 物	カ ド ミ ウ ム 及 び その化合物	その他
に ん じ ん	1		1				
ト マ ト	2	2		2	2		
こ ま つ な	2		2				
ほうれん草	3		3	3	3		
だ い こ ん	1		1				
じゃがいも	1		1				
長 ネ ギ	1		1				
た ま ね ぎ	1		1				
き ゅ う り	2	2		2	2		
ブロッコリー	1		1				
日 本 な し	4	4		4	4		4
ぶ ど う	1	1		1	1		1
玄 米	2					2	2
ベビーライマ豆	1						1
生 あ ん	1						1
栄養機能食品	10			10	10	2	
合 計	34	9	11	22	22	4	9

(4) 残留農薬検査部門

ア 残留農薬検査

生活衛生課、区役所保健所、教育委員会、(財) 学校給食会から依頼のあった食品、総数 42 検体・976 項目(内訳、農作物(39 検体・959 項目)、牛乳(1 検体・3 項目)、魚介類(2 検体・14 項目))について残留農薬検査を実施した。その結果、基準等の有るものについては全て適合していた。

(ア) 市内産農作物の検査

総数 17 検体・603 項目(内訳、果実(6 検体・233 項目)、野菜(11 検体・370 項目))について検査を実施した。その検査結果は表 1-1、表 1-2、表 1-3、表 1-4 に示した。なお鉛及びその化合物が「きゅうり」1 検体(各 0.01ppm・基準値 1 ppm)で、「トマト」2 検体(0.03ppm、0.07ppm・基準値 1 ppm)で、「梨」1 検体(0.01ppm・基準値 5ppm)で検出されたが、その他は不検出であった。

(イ) 市外産農作物の検査

総数 3 検体・73 項目(内訳、穀類(2 検体・46 項目)、野菜(1 検体・27 項目))について検査を実施した。その検査結果は表 2-1、表 2-2 に示すとおり全て不検出であった。

(ウ) 外国産農作物の検査

総数 7 検体・101 項目(内訳、豆類(1 検体・12 項目)、果実(1 検体・27 項目)、野菜(1 検体・25 項目)、冷凍野菜(4 検体・37 項目))について検査を実施した。その検査結果は、表 3-1、表 3-2 に示すとおり全て不検出であった。

(エ) 学校給食用農作物・牛乳の検査

総数 12 検体・160 項目(内訳、果実(3 検体・15 項目)、野菜(8 検体・142 項目)、牛乳(1 検体・3 項目))について検査を実施した。その検査結果は、表 4-1、表 4-2、表 5 に示すとおり全て不検出であった。

(オ) 多摩川産魚類の検査

魚類(総数 2 検体・14 項目)について、除草剤(3 項目)、及び殺虫剤(4 項目)の検査を実施した。その検査結果は表 6 に示したとおり全て不検出であった。

(カ) 苦情食品の検査

野菜 1 検体・25 項目について検査を実施した。その結果は表 7 に示すとおり全て不検出であった。

イ 放射能検査

生活衛生課、教育委員会、(財) 学校給食会から依頼のあった食品 8 検体・16 項目について放射能検査を実施した。その検査結果は、全ての検体で輸入食品中の暫定放射能濃度(セシウム 134 及び 137 の合計で 370 ベクレル(Bq)/kg)以下であった。

(ア) 市内流通輸入食品の検査

輸入食品 5 検体について、セシウム 134・セシウム 137 核種の検査を実施した。その検査結果は表 8 に示すとおり、1 検体(セシウム 134 及び 137 の合計で 0.3Bq/kg)から検出されたが、その他 4 検体は検出下限値以下であった。

(イ) 学校給食用食品の検査

学校給食用食品 2 検体について、セシウム 134・セシウム 137 核種の検査を実施した。その検査結果は表 9 に示すとおり全て検出下限値以下であった。

表 1-1 市内産農作物の検査結果

(単位:ppm)

農 薬 名	検体名	青梅	トマト	きゅうり	こまつな	大根	梨
		1	2	2	1	1	4
有機塩素系	BHC ($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	DDT (DDD・DDEを含む)	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	エンドリン	殺虫剤	---	---	---	---	---
	カブタホール	殺菌剤	---	---	---	---	---
	キャプタン	殺虫剤	---	---	---	---	---
	クロルベンジレート	殺虫剤	不検出	---	---	---	---
	ジクロフルアニド	殺菌剤	---	不検出	不検出	---	不検出
	ジコホール	殺虫剤	---	---	不検出	---	不検出
	ディルドリン (アルドリンを含む)	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出
	ピリフェノックス	阻害剤	不検出	---	不検出	---	不検出
	フルシトリネート	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出
有機リン系	EPN	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出
	エディフェンホス	殺菌剤	---	---	---	---	---
	エトプロホス	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---
	エトリムホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	カズサホス	殺虫剤	---	不検出	---	---	---
	キナルホス	殺虫剤	不検出	---	---	---	不検出
	クロルピリホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	クロルフェンビンホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出
	ジクロルボス	殺虫剤	---	不検出	不検出	不検出	不検出
	ジメトエート	殺虫剤	---	不検出	---	---	---
	ダイアジノン	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出
	テルブホス	殺菌剤	---	---	---	---	---
	トリクロロホン	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出
	トルクロホスメチル	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	パラチオン	殺虫剤	---	不検出	不検出	不検出	不検出
	パラチオンメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	ピリミホスメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	フェニトロチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出
	フェンスルホチオン	殺虫剤	---	不検出	---	---	---
	フェンチオン	殺虫剤	---	---	---	---	---
	フェントエート	殺虫剤	---	---	---	---	不検出
	ブタミホス	除草剤	---	不検出	不検出	---	---
	プロチオホス	殺虫剤	---	---	---	---	不検出
	ホスチアゼート	殺虫剤	---	---	---	---	---
	ホサロン	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---
	マラチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出

表 1-2 市内産農作物の検査結果

(単位 : ppm)

農 薬 名			検体名	青梅	トマト	きゅうり	こまつな	大根	梨
			検体数	1	2	2	1	1	4
ク ロ ル フ ル ア ズ ロ ン 系	クロルフルアズロン	阻害剤	---	不検出	不検出	不検出	---	---	不検出
	ジフルベンズロン	殺虫剤	---	不検出	---	---	---	---	不検出
	テブフェノジド	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	テフルベンズロン	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---	---	---
	フルフェノクスロン	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---	---	---
	ヘキサフルムロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ルフェヌロン	殺虫剤	---	不検出	---	---	---	---	---
含 窒 素 系	イソプロカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エスプロカルブ	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	キノメチオネート	殺菌剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	クロルプロファム	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	ジエトフェンカルブ	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	トリアジメノール	殺菌剤	---	---	不検出	---	---	---	---
	ピテルタノール	殺菌剤	---	不検出	不検出	---	不検出	---	---
	ビリダベン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---	不検出
	フェナリモル	阻害剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	フルトラニル	殺菌剤	---	不検出	不検出	---	---	---	不検出
	プレチラクロール	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	プロピコナゾール	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---	不検出
	ペンディメタリン	除草剤	不検出	不検出	---	不検出	不検出	不検出	不検出
	ミクロブタニル	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---	不検出
	メトリブジン	除草剤	---	不検出	不検出	---	---	---	---
	メフェナセット	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	メブロンル	殺菌剤	---	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出
	レナシル	除草剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---	不検出
N ー メ チ ル カ ー バ メ イ ト 系	アルジカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エチオフエンカルブ	殺虫剤	不検出	---	不検出	---	不検出	---	不検出
	オキサミル	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出
	カルバリル	殺虫剤	---	---	---	---	不検出	---	不検出
	ビリミカーブ	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出
	フェノブカルブ	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	---	不検出
	ペンダイオカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
金 属 及 び そ の 他 の 化 合 物	カドミウム及びその化合物		---	---	---	---	---	---	---
	酸化フェンブタスズ	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---	---	不検出
	シアン化合物	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	シヘキサチン	殺虫剤	---	---	---	不検出	---	---	---
	臭 素	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	不検出
	鉛及びその化合物	殺虫剤	---	0.03 ~ 0.07	不検出 ~ 0.01	---	---	---	不検出 ~ 0.01
	ヒ素及びその化合物	殺菌剤	---	不検出	不検出	---	---	---	不検出
その他	イマザリル	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---	---	不検出

表 1-3 市内産農作物の検査結果

(単位 :ppm)

農 薬 名		検体名	にんじん	白菜	ぶどう	ブロッコリー	ほうれん草
		検体数	1	1	1	1	2
有機塩素系	BHC ($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)	殺虫剤	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	DDT (DDD・DDE を含む)	殺虫剤	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	エンドリン	殺虫剤	—	—	—	—	—
	カプタホル	殺菌剤	—	—	—	—	—
	キャプタン	殺虫剤	—	—	—	—	—
	クロルベンジレート	殺虫剤	—	—	—	—	—
	ジクロフルアニド	殺菌剤	—	—	不検出	—	—
	ジコホル	殺虫剤	—	—	不検出	—	—
	ディルドリン (アルドリンを含む)	殺虫剤	—	—	—	—	—
	ピリフェノックス	阻害剤	—	—	不検出	—	—
	フルシトリネート	殺虫剤	—	不検出	不検出	不検出	不検出
有機リン系	EPN	殺虫剤	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	エディフェンホス	殺菌剤	—	—	—	—	—
	エトプロホス	殺虫剤	—	—	不検出	—	—
	エトリムホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	カズサホス	殺虫剤	—	—	—	—	—
	キナルホス	殺虫剤	—	—	不検出	—	—
	クロルピリホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	クロルフェンビンホス	殺虫剤	不検出	—	—	不検出	—
	ジクロルボス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	ジメトエート	殺虫剤	—	—	—	—	—
	ダイアジノン	殺虫剤	—	不検出	不検出	不検出	不検出
	テルブホス	殺菌剤	—	—	—	—	—
	トリクロルホン	殺虫剤	不検出	—	不検出	不検出	不検出
	トルクロホスメチル	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	パラチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	パラチオンメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	ピリミホスメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	フェニトロチオン	殺虫剤	不検出	—	不検出	—	不検出
	フェンスルホチオン	殺虫剤	—	—	—	—	—
	フェンチオン	殺虫剤	—	—	—	—	—
	フェントエート	殺虫剤	—	—	—	—	—
	ブタミホス	除草剤	不検出	不検出	—	—	—
	プロチオホス	殺虫剤	—	不検出	不検出	不検出	—
	ホスチアゼート	殺虫剤	—	—	—	—	—
	ホサロン	殺虫剤	不検出	—	—	—	—
	マラチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出

表 1-4 市内産農作物の検査結果

(単位:ppm)

農 薬 名			にんじん	白菜	ぶどう	ブロッコリー	ほうれん草
検体名			1	1	1	1	2
ク ロ ル フ ル ア ズ ロ ン 系	クロルフルアズロン	阻害剤	不検出	不検出	---	不検出	不検出
	ジフルベンズロン	殺虫剤	---	---	---	---	---
	テブフェノジド	殺虫剤	---	---	不検出	---	---
	テフルベンズロン	殺虫剤	---	---	---	不検出	---
	フルフェノクスロン	殺虫剤	---	---	---	---	---
	ヘキサフルムロン	殺虫剤	---	---	---	---	---
	ルフェヌロン	殺虫剤	---	---	不検出	---	---
含 窒 素 系	イソプロカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---
	エスプロカルブ	除草剤	---	---	---	---	---
	キノメチオネート	殺菌剤	---	---	---	---	---
	クロルプロファム	除草剤	不検出	不検出	---	---	不検出
	ジエトフェンカルブ	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	トリアジメノール	殺菌剤	---	---	不検出	---	---
	ピテルタノール	殺菌剤	不検出	不検出	---	---	---
	ピリダベン	殺虫剤	---	---	不検出	---	---
	フェナリモル	阻害剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	フルトラニル	殺菌剤	---	---	---	---	不検出
	ブレチラクロール	除草剤	---	---	---	---	---
	プロピコナゾール	殺菌剤	---	---	不検出	---	不検出
	ベンディメタリン	除草剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---
	ミクロブタニル	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出
	メトリブジン	除草剤	---	---	---	---	不検出
	メフェナセット	除草剤	---	---	---	---	---
N - メ チ ル カ ー バ メ イ ト 系	メプロニル	殺菌剤	---	---	不検出	---	不検出
	レナシル	除草剤	不検出	---	不検出	不検出	不検出
	アルジカルブ	殺虫剤	不検出	---	不検出	---	---
	エチオフェンカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	不検出
	オキサミル	殺虫剤	不検出	---	---	---	---
	カルバリル	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出
	ピリミカ-ブ	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
	フェノブカルブ	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出
金 属 及 び そ の 他 の 化 合 物	ペンダイオカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---
	カドミウム及びその化合物		---	---	---	---	---
	酸化フェンブタスズ	殺虫剤	---	---	不検出	---	---
	シアン化合物	殺虫剤	---	---	---	---	---
	シヘキサチン	殺虫剤	---	---	---	不検出	不検出
	臭 素	殺虫剤	---	---	不検出	---	---
	鉛及びその化合物	殺虫剤	---	---	不検出	---	不検出
そ の 他	ヒ素及びその化合物	殺菌剤	---	---	不検出	---	不検出
	イマザリル	殺虫剤	---	---	---	---	---

表2-1 市外産農作物の検査結果 (単位:ppm)

農薬名	検体名		玄米	大根
	産地	検体数	栃木・福島	神奈川
			2	1
有機塩素系	BHC(α・β・γ・δの和)	殺虫剤	不検出	不検出
	DDT(DDD・DDEを含む)	殺虫剤	---	不検出
	エンドリン	殺虫剤	---	---
	カプタホール	殺菌剤	---	---
	キャプタン	殺虫剤	---	---
	クロルベンジレート	殺虫剤	---	---
	ジクロフルアニド	殺菌剤	---	---
	ジコホール	殺虫剤	---	---
	ディルドリン(アルドリンを含む)	殺虫剤	---	不検出
	ピリフェノックス	阻害剤	---	---
	フルシトリネート	殺虫剤	---	不検出
有機リン系	EPN	殺虫剤	不検出	不検出
	エディフェンホス	殺菌剤	不検出	---
	エトプロホス	殺虫剤	---	---
	エトリムホス	殺虫剤	不検出	不検出
	カズサホス	殺虫剤	---	---
	キナルホス	殺虫剤	---	---
	クロルピリホス	殺虫剤	不検出	不検出
	クロルフェンビンホス	殺虫剤	---	不検出
	ジクロルボス	殺虫剤	---	不検出
	ジメトエート	殺虫剤	---	---
	ダイアジノン	殺虫剤	---	不検出
	テルブホス	殺菌剤	不検出	---
	トリクロロホン	殺虫剤	不検出	---
	トルクロホスメチル	殺菌剤	---	不検出
	バラチオン	殺虫剤	---	不検出
	バラチオンメチル	殺虫剤	不検出	不検出
	ピリミホスメチル	殺虫剤	不検出	不検出
	フェニトロチオン	殺虫剤	不検出	不検出
	フェンスルホチオン	殺虫剤	---	---
	フェンチオン	殺虫剤	不検出	---
	フェントエート	殺虫剤	---	---
	ブタミホス	除草剤	---	---
	プロチオホス	殺虫剤	---	---
	ホスチアゼート	殺虫剤	---	---
	ホサロン	殺虫剤	---	不検出
	マラチオン	殺虫剤	不検出	不検出

表2-2 市外産農作物の検査結果 (単位:ppm)

農薬名	検体名		玄米	大根
	産地	検体数	栃木・福島	神奈川
			2	1
クロルフルアズロン系	クロルフルアズロン	阻害剤	---	---
	ジフルベンズロン	殺虫剤	---	---
	テブフェノジド	殺虫剤	不検出	---
	テフルベンズロン	殺虫剤	---	---
	フルフェノクスロン	殺虫剤	---	---
	ヘキサフルムロン	殺虫剤	---	---
	ルフエスロン	殺虫剤	---	---
含窒素系	イソプロカルブ	殺虫剤	不検出	---
	エスプロカルブ	除草剤	---	---
	キノメチオネート	殺菌剤	---	---
	クロルプロファム	除草剤	---	---
	ジエトフェンカルブ	殺菌剤	---	不検出
	トリアジメノール	殺菌剤	---	---
	ピテルタノール	殺菌剤	---	不検出
	ビリダベン	殺虫剤	---	---
	フェナリモル	阻害剤	---	不検出
	フルトラニル	殺菌剤	不検出	---
	ブレチラクロール	除草剤	---	---
	プロビコナゾール	殺菌剤	不検出	---
	ベンディメタリン	除草剤	---	不検出
	ミクロブタニル	殺菌剤	---	---
	メトリブジン	除草剤	---	---
N-カーバメイト系	メフェナセット	除草剤	不検出	---
	メプロニル	殺菌剤	不検出	不検出
	レナシル	除草剤	---	---
	アルジカルブ	殺虫剤	---	---
	エチオフェンカルブ	殺虫剤	---	不検出
	オキサミル	殺虫剤	---	不検出
	カルバリル	殺虫剤	不検出	不検出
金属及びその他の化合物	ビリミカーブ	殺虫剤	---	不検出
	フェノブカルブ	殺虫剤	不検出	不検出
	ベンダイオカルブ	殺虫剤	不検出	---
	カドミウム及びその化合物		不検出	---
	酸化フェンブタスズ	殺虫剤	---	---
	シアン化合物	殺虫剤	---	---
	シヘキサチン	殺虫剤	---	---
その他	臭素	殺虫剤	不検出	---
	鉛及びその化合物	殺虫剤	---	---
	ヒ素及びその化合物	殺菌剤	---	---
その他	イマザリル	殺虫剤	---	---

表3-1 外国産農作物の検査結果

(単位:ppm)

農薬名		検体名	グレープ フルーツ	にんじん	ベビー ライマ豆	オクラ (冷凍食品)	ごぼう (冷凍食品)	こまつな (冷凍食品)	たまねぎ (冷凍食品)
		原産地	南アフリカ	米国	アメリカ	中国	中国	中国	中国
		検体数	1	1	1	1	1	1	1
有機 塩 素 系	BHC(α・β・γ・δの和)	殺虫剤	---	---	不検出	不検出	不検出	---	---
	DDT(DDD・DDEを含む)	殺虫剤	---	---	不検出	---	---	---	---
	エンドリン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	カブタホール	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	キャプタン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	クロルベンジレート	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	ジクロフルアニド	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	ジコホール	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ディルドリン(アルドリンを含む)	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ビリフェノックス	阻害剤	---	---	---	---	---	---	---
	フルシトリネート	殺虫剤	不検出	---	不検出	---	---	---	---
有機 リン 系	EPN	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エディフェンホス	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	エトプロホス	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エトリムホス	殺虫剤	不検出	不検出	---	不検出	---	---	---
	カズサホス	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	キナルホス	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	クロルピリホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出	不検出	---
	クロルフェンビンホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---	---
	ジクロロボス	殺虫剤	不検出	不検出	---	---	---	不検出	---
	ジメトエート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ダイアジノン	殺虫剤	---	---	---	---	不検出	---	---
	テルブホス	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	トリクロロホン	殺虫剤	不検出	不検出	---	---	---	不検出	---
	トルクロホスメチル	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	パラチオン	殺虫剤	---	---	不検出	---	不検出	不検出	不検出
	パラチオンメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出	不検出	不検出
	ビリミホスメチル	殺虫剤	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出	---
	フェニトロチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出
	フェンスルホチオン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	フェンチオン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	フェントエート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ブタミホス	除草剤	---	不検出	---	---	---	---	---
	プロチオホス	殺虫剤	不検出	---	不検出	---	不検出	---	不検出
	ホスチアゼート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ホサロン	殺虫剤	---	不検出	---	---	---	---	---
	マラチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---	不検出

表3-2 外国産農作物の検査結果

(単位:ppm)

農薬名		検体名	グレープ フルーツ	にんじん	ベビー ライマ豆	オクラ (冷凍食品)	ごぼう (冷凍食品)	こまつな (冷凍食品)	たまねぎ (冷凍食品)
		原産地	南アフリカ	米国	アメリカ	中国	中国	中国	中国
		検体数	1	1	1	1	1	1	1
クロロフルアズロン系	クロロフルアズロン	阻害剤	---	不検出	---	不検出	---	不検出	---
	ジフルベンズロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	テブフェノジド	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	テフルベンズロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	フルフェノクスロン	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	ヘキサフルムロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ルフェヌロン	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	不検出	---
含窒素系	イソプロカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エスプロカルブ	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	キノメチオネート	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	クロルプロファム	除草剤	---	不検出	---	---	不検出	---	---
	ジエトフェンカルブ	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	トリアジメノール	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	ピテルタノール	殺菌剤	不検出	不検出	---	---	---	---	---
	ビリダベン	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	フェナリモル	阻害剤	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出	---
	フルトラニル	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	ブレチラクロール	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	プロピコナゾール	殺菌剤	---	不検出	---	---	---	---	---
	ペンディメタリン	除草剤	不検出	不検出	---	---	---	---	---
	ミクロブタニル	殺菌剤	---	不検出	---	不検出	---	---	---
	メトリブジン	除草剤	---	不検出	---	---	---	---	---
	メフェナセット	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
N-カーバメイト系	メプロニル	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	レナシル	除草剤	不検出	不検出	---	不検出	---	不検出	---
	アルジカルブ	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	エチオフエンカルブ	殺虫剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	オキサミル	殺虫剤	不検出	不検出	---	---	---	---	---
	カルバリル	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ピリミカ-ブ	殺虫剤	不検出	不検出	---	---	---	---	---
	フェノブカルブ	殺虫剤	不検出	不検出	---	不検出	不検出	---	---
金属及びその他の化合物	ベンダイオカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	カドミウム及びその化合物		---	---	---	---	---	---	---
	酸化フェンブタスズ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	シアン化合物	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	シヘキサチン	殺虫剤	---	---	---	---	---	不検出	---
	臭素	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	鉛及びその化合物	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
その他	ヒ素及びその化合物	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	イマザリル	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---

表4-1 教育委員会農作物の検査結果

(単位:ppm)

農薬名	検体名 検体数	こまつな	じゃがいも	大根	長ねぎ	にんじん	みかん	りんご
		1	1	1	1	4	1	2
有機塩素系	BHC ($\alpha \cdot \beta \cdot \gamma \cdot \delta$ の和)	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---
	DDT (DDD・DDE を含む)	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	---	---	---
	エンドリン	殺虫剤	---	---	---	---	不検出	---
	カブタホール	殺菌剤	---	---	---	---	不検出	---
	キャプタン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	クロルベンジレート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	ジクロフルアニド	殺菌剤	---	---	---	---	不検出	---
	ジコホール	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	ディルドリン (アルドリンを含む)	殺虫剤	---	---	---	---	不検出	---
	ビリフェノックス	阻害剤	---	---	---	---	---	---
	フルシトリネート	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---	---
有機リン系	EPN	殺虫剤	---	不検出	不検出	不検出	不検出	---
	エディフェンホス	殺菌剤	---	---	---	---	---	---
	エトプロホス	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	エトリムホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	カズサホス	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	キナルホス	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	クロルビリホス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	不検出
	クロルフェンビンホス	殺虫剤	---	不検出	不検出	不検出	---	---
	ジクロルボス	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	ジメトエート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	ダイアジノン	殺虫剤	---	不検出	不検出	不検出	---	不検出
	テルブホス	殺菌剤	---	---	---	---	---	---
	トリクロロホン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	トルクロホスメチル	殺菌剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	パラチオン	殺虫剤	不検出	---	不検出	不検出	不検出	---
	パラチオンメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	ビリミホスメチル	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	フェニトロチオン	殺虫剤	---	不検出	---	不検出	不検出	不検出
	フェンスルホチオン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	フェンチオン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	フェントエート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	ブタミホス	除草剤	---	不検出	---	不検出	---	---
	プロチオホス	殺虫剤	---	---	---	---	---	不検出
	ホスチアゼート	殺虫剤	---	---	---	---	---	---
	ホサロン	殺虫剤	---	---	---	不検出	---	---
	マラチオン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	---

表4-2 教育委員会農作物の検査結果

(単位:ppm)

農 薬 名		検体名	こまつな	じゃがいも	大根	長ねぎ	にんじん	みかん	りんご
		検体数	1	1	1	1	4	1	2
クロ ル フル ア ズ ロ ン 系	クロルフルアズロン	阻害剤	---	---	---	---	---	---	---
	ジフルベンズロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	テブフェノジド	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	テフルベンズロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	フルフェノクスロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ヘキサフルムロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ルフェヌロン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
含 窒 素 系	イソプロカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エスプロカルブ	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	キノメチオネート	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	クロルプロファム	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	ジエトフェンカルブ	殺菌剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	トリアジメノール	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	ピテルタノール	殺菌剤	---	---	---	---	不検出	---	---
	ビリダベン	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	フェナリモル	阻害剤	不検出	---	---	---	---	---	---
	フルトラニル	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	ブレチラクロール	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	プロピコナゾール	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	ペンディメタリン	除草剤	不検出	---	---	不検出	---	---	---
	ミクロブタニル	殺菌剤	---	---	---	不検出	不検出	---	---
	メトリブジン	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
N ー メ チ ル カ ー バ メ イ ト 系	メフェナセット	除草剤	---	---	---	---	---	---	---
	メプロニル	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
	レナシル	除草剤	不検出	---	---	不検出	---	---	---
	アルジカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	エチオフェンカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	オキサミル	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	不検出	---	---
	カルバリル	殺虫剤	---	不検出	不検出	---	---	---	不検出
	ビリミカーブ	殺虫剤	---	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
金 属 及 び そ の 化 合 物	フェノブカルブ	殺虫剤	不検出	---	不検出	不検出	不検出	---	---
	ペンダイオカルブ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	カドミウム及びその化合物		---	---	---	---	---	---	---
	酸化フェンブタズ	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	シアン化合物	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	シヘキサチン	殺虫剤	不検出	不検出	不検出	不検出	不検出	---	---
	臭 素	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
そ の 他	鉛及びその化合物	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---
	ヒ素及びその化合物	殺菌剤	---	---	---	---	---	---	---
その他	イマザリル	殺虫剤	---	---	---	---	---	---	---

表5 学校給食用牛乳の検査結果
(単位:ppm)

農 薬 名	検 体 名	牛 乳
	検 体 数	
β - B H C		不 検 出
D D T (DDD・DDEを含む)		不 検 出
ディルドリン (アルドリンを含む)		不 検 出

*不検出 : 0.005 ppm 未満

表6 多摩川産魚類の検査結果
(単位:ppm)

農 薬 名	検 体 名	あ ゆ	あ ゆ
	検 体 数	1 (多摩川)	1 (多摩川)
除 草 剤	クロルニトロフェン (CNP)	不検出	不検出
	ニトロフェン (NIP)	不検出	不検出
	クロメキシニル (X-52)	不検出	不検出
殺 虫 剤	trans-クロルデン	不検出	不検出
	cis-クロルデン	不検出	不検出
	oxy-クロルデン	不検出	不検出
	trans-ノナクロル	不検出	不検出

*不検出 CNP類: 0.01 ppm 未満、クロルデン類: 0.005 ppm 未満

表7 苦情食品の検査結果

検査項目/検体名	キャロットグラッセ
EPN	不検出
エディフェンホス	不検出
エトプロホス	不検出
エトリムホス	不検出
カズサホス	不検出
キナルホス	不検出
クロルビリホス	不検出
クロルフェンビンホス	不検出
ジメトエート	不検出
ダイアジノン	不検出
テルブホス	不検出
トルクロホスメチル	不検出
パラチオン	不検出

検査項目/検体名	キャロットグラッセ
パラチオンメチル	不検出
ビラクロホス	不検出
ビリミホスメチル	不検出
フェントロチオン	不検出
フェンスルホチオン	不検出
フェンチオン	不検出
フェントエート	不検出
ブタミホス	不検出
プロチオホス	不検出
ホサロン	不検出
ホスチアゼート	不検出
マラチオン	不検出

表8 輸入食品の放射能検査結果

(単位: Bq/kg)

検体名	原産国	セシウム 134+137	セシウム 134	セシウム 137
NO.1 フレンドシップクリーミーハバディ (ナチュラルチーズ)	デンマーク	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
NO.2 ピザ用モッツァレラチーズ (ナチュラルチーズ)	ドイツ	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
NO.3 ポルトベッコ クリーム	アメリカ	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
NO.4 クスクス (穀類加工品)	フランス	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
NO.5 チョコクランチ 朝食シリアル (穀類加工品)	スイス	0.3	0.1 未満	0.3

備考: 濃度は、試料受付年月日・平成19年3月20日の生重量に換算

表9 学校給食食品の放射能検査結果

(単位: Bq/kg)

検体名	受付年月日	セシウム 134+137	セシウム 134	セシウム 137
NO.1 粉チーズ	18.05.09	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
NO.2 マッシュルーム缶	18.11.30	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満
NO.3 トマト缶水煮	18.11.30	0.1 未満	0.1 未満	0.1 未満

備考: 濃度は、試料受付年月日の生重量に換算

Ⅲ 試 験 検 査

1 月 別 検 査 件 数

(平成 18 年度)

区分			月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
結核	分離・同定・検査・検出															0
	核 酸 検 査															0
	化学療法剤に対する耐性検査															0
性病	梅毒		7	2	6	4	4	3	8	2	1	3	1	2		43
	その他															0
ウリ検査 イッ ルチ アス・等査	分離・同定・検出	ウイルス	111	108	120	124	156	317	89	65	65	52	89	291		1,587
		リ ケ ッ チ ャ														0
		クラミジア・マイコプラズマ														0
	抗体検査	ウイルス	1			1	159		1							162
		リ ケ ッ チ ア														0
		クラミジア・トラコマトリス				102	62	74	88	79						405
病原性微生物の動物試験															0	
原・虫等 寄生虫等	原 虫															0
	寄生虫（ぎょう虫卵）				63	36	1									100
	そ 族 ・ 節 足 動 物		73	79	96	91	108	97	95	81	45	42	39	41		887
	真 菌 ・ そ の 他															0
食中毒	病原性微生物検査	細菌	10	21	18	15	16	43			50	79	51	6	20	329
		ウイルス	10	16	3	3	7				58	108	123	18	28	374
		核 酸 検 査														0
	理 化 学 的 検 査															0
	そ の 他															0
臨床検査	血液検査（血液一般検査）															0
	血清等検査	エイズ（HIV）検査	122	176	200	197	167	175	185	191	216	195	201	181		2,206
		HBs 抗原・抗体検査	30	18	35	26	17	11	19	14	7	15	17	17		226
		そ の 他 H C V	25	17	32	25	14	11	17	12	12	14	14	16		209
	生化学検査	先天性代謝異常検査														0
		そ の 他														0
	尿 検 査	尿 一 般														0
		神 経 芽 細 胞 腫														0
		そ の 他														0
	アレルギー検査（抗原検査・抗体検査）															0
そ の 他															0	

[illegible]

区分			月別	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
環境・公害関係検査	水質検査	公 共 用 水 域	0	0	1	0	0	8	0	0	1	0	1	0	11	
		工 場 ・ 事 業 場 排 水	6	5	7	4	4	8	3	5	4	3	3	3	55	
		浄 化 槽 放 流 水	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
		そ の 他	0	0	4	5	4	0	1	0	6	9	26	0	55	
	騒 音 ・ 振 動														0	
	悪 臭 検 査														0	
	土 壌 ・ 底 質 検 査		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	0	2
	環境生物検査	藻類・プランクトン・魚介類														0
		そ の 他														0
	一 般 室 内 環 境															0
そ の 他															0	
放射能	環境試料（雨水・空気・土壌等）														0	
	食 品		0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	6	8	
	そ の 他														0	
温 泉（鉱泉）泉 質 検 査															0	
花 粉			81	82							48	75	108	121	128	643
計			1,120	1,579	1,760	1,845	1,702	1,618	1,596	1,884	1,500	1,501	1,308	1,369	18,782	

2 依頼別・項目別検査件数

		依頼によるもの				依頼によらないもの (5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)
		住民 (1)	保健所 (2)	保健所以 外の行政 機関 (3)	その他(医 療機関、 学校、事務所) (4)				
結 核	分離・同定・検出						0		
	核 酸 検 査						0		
	化学療法剤に対する 耐 性 検 査						0		
性 病	梅 毒		43				43		(81)
								1. S T S 定 性	41
								2. S T S 定 量	
								3. T P H A 定 性	40
								4. T O H A 定 量	
								5. 梅 毒 (E L I S A)	
								6. そ の 他	
	そ の 他						0		
								1. 淋 病	
								2. そ の 他	
ウ イ ル ス ・ リ ケ ッ チ ア 等 検 査	分 離 ・ 同 定 ・ 検 出	ウ イ ル ス	251	105	263	968	1587		(1749)
								1. 細 胞 培 養	654
								2. 鶏 卵 培 養	
								3. 酵 素 抗 体	228
								4. 蛍 光 抗 体	
								5. 遺 伝 子 増 幅	867
								6. そ の 他	
	リ ケ ッ チ ア						0	1. 細 胞 培 養	
								2. 鶏 卵 培 養	
								3. 酵 素 抗 体	
								4. 蛍 光 抗 体	
								5. 遺 伝 子 増 幅	
								6. そ の 他	
	ク ラ ミ ジ ア ・ マイコプラズマ						0	1. 細 胞 培 養	
								2. 鶏 卵 培 養	
								3. 蛍 光 抗 体	
								4. 遺 伝 子 増 幅	
								5. そ の 他	
								6. そ の 他	
	抗 体 検 査	ウ イ ル ス	10	152			162		(618)
								1. 中 和 試 験	
								2. H I 試 験	162
								3. C P 試 験	
								4. 酵 素 抗 体	304
								5. ワイル、フェリックス反応	
								6. そ の 他	152
		リ ケ ッ チ ア					0		
		ク ラ ミ ジ ア ・ トラコマティス		405			405		(810)
								1 性器クラミジア抗体 IgA	405
								IgG	405
	病原微生物の動物試験						0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの (5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)
		住民 (1)	保健所 (2)	保健所以外の行政 機関 (3)	その他 (医 療機関、学 校、事務所) (4)				
原虫・寄生虫	原虫						0	1. アメーバー赤痢 2. その他	
	寄生虫	100					100	1. 蟻 虫 2. その他	(100) 100
	そ族・節足動物	1	27	69	1	789	887	1. 害虫動物 2. 殺虫効力試験 3. 生態習性試験 4. その他	(887) 887
	真菌・その他						0		
	病原微生物検査		329				329	1. 食中毒病原菌20菌種 2. 腸管出血大腸菌O157 3. その他の細菌	(5535) 5480 26 29
	ウイルス (SRSV) (A型肝炎)		374				374	1. SRSV電子顕微鏡 2. NV遺伝子増幅 3. その他の細菌	(374) 374
	核酸検査						0		
食中毒 臨床検査	理化学的検査						0		
	その他						0		
	血液検査 (血液一般検査)						0		
	エイズ (HIV) 検査		692	1,514			2,206	1. P A 法 2. 確認試験 (W, B)	(2216) 2206 10
	HBs抗原、抗体検査		226				226	1. H B s 抗原 2. H B s 抗体 3. H B e 抗原 4. H B e 抗体 5. I g M H B c 抗体 6. その他	(353) 224 129
	その他		209				209	1. H C V 抗体 2. その他	(209) 209
	生化学検査						0		
	尿一般						0		
	神経芽細胞種						0		
	その他						0		
	アレルギー検査 (抗原検査・抗体検査)						0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの (5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)
		住民 (1)	保健所 (2)	保健所以 外の行政 機関 (3)	その他 (医 療機関、学 校、事務所) (4)				
食 品 等 の 検 査	細菌学的検査	0	2,205	251	240	0	2,696		(16293)
	食品細菌		1,805	251	240		2,296		(11395)
								1. 生菌数	1954
								2. 大腸菌数	1940
								3. その他の細菌	7501
	食中毒細菌 (食 品・ふき取り等)		297				297		(4743)
								1. 食中毒病原菌 20 菌種	4680
								2. 腸管出血大腸菌 0157	58
								3. その他の細菌	5
	食中毒ウイルス (食品等)		103				103		(155)
								1. 電子顕微鏡	
								2. 遺伝子増幅	155
								3. その他	
	理化学的検査 (残留農薬・食品添加物等)	0	263	48	54	4	369		(2170)
	食品添加物	0	259	25	43	0	327		(1059)
(上 記 以 外) 細菌 検 査								1. 食品添加物	687
								2. 動物医薬品	263
								3. 遺伝子組換え食品	22
								4. その他	87
	残留農薬	0	4	23	11	4	42		(1104)
								1. 残留農薬	1054
								2. 金属類	50
								3. その他	0
	動物を用いる試験	0	3	2	0	0	5		(7)
	その他	0	37	5	0	0	42		(227)
								1. 金属類	115
								2. 炭水素等	15
								3. その他	97
	分離・同定・検出		156	102	5,574		5,832		(23185)
								1. 赤痢菌	5699
								2. サルモネラ (腸・バラ含む)	5548
								3. 病原大腸菌	908
								4. 腸炎ビブリオ	916
								5. コレラ菌	878
								6. 病原ブドウ球菌	25
								7. カンピロバクター・ジェジュ/コリー	1381
								8. 腸管出血大腸菌 0157	5237
								9. その他の腸管病原菌	2580
								10. レンサ球菌	13
								11. その他の細菌	
査	核酸検査						0		
	抗体検査						0		
	化学療法剤に対する耐性検査						0		

		依頼によるもの				依頼によらないもの (5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査項目 数(小計)
		住民 (1)	保健所 (2)	保健所 以外 の行政 機関 (3)	その他(医学 機関、 診療 所、 学校、 事務 所) (4)				
医薬品・ 家庭用品等 検査	医薬品						0		
	医薬部外品						0		
	化粧品						0		
	医療用具						0		
	毒劇物						0		
	家庭用品	0	0	342	0	0	342		(342)
								1.ホルムアルデヒド	241
								2.有機水銀化合物	13
								3.トルフェニル銀化合物	13
								4.トリブチル錫化合物	13
								5.酸/アルカリ定量	2
栄養関係 検査	その他	0	0	18	0	0	18	1.健康食品等	132
								1.成分検査	
	水道原水						0		
	細菌学的検査						0		
	理化学的検査						0		
	生物学的検査						0		
	飲水	53	245	32	218	0	548		(1160)
								1.一般細菌数	548
								2.大腸菌等	548
								3.その他	64
	用水	52	247	32	219	1	551		(7981)
水道等 水質 検査	細菌学的検査							1.井戸水	4514
								2.貯槽水	2591
								3.船舶水	396
								4.簡易水道水	60
								5.専用水道水	20
								6.水道直結栓水	400
								7.その他	0
	利用水等(プール水等を含む)		109	48	371		528		(1156)
								1.一般細菌数	426
								2.大腸菌群	433
								3.その他	297
	理化学的検査		95	48	316	90	549		(1991)
								1.プール水	849
								2.その他	1142

			依頼によるもの				依頼によらないもの (5)	検査件数 合計	検査項目又は検体名	延検査 項目数 (小計)
			住民 (1)	保健所 (2)	保健所以外の行政 機関 (3)	その他(医 療機関、学 校、事業所) (4)				
廃棄物関係検査	一般廃棄物	細菌学的検査						0		
		理化学的検査						0		
		生物学的検査						0		
	産業廃棄物	細菌学的検査						0		
		理化学的検査						0	1. 汚 泥	
		生物学的検査						0		
環境、公害関係	大気検査	SO ₂ ・NO ₂ ・OX等						0		
		浮遊粒子状物質						0		
		降下煤塵						0		
		有害化学物質・重金属						0		
		酸性雨						0		
		その他						0		
	水道、公営検査	公共用水			11			11		(205)
									1. 河海水底質	160
									2. その他	45
		工場・事業場排水			14	17	24	55		(281)
									1. 工場・事業場排水	281
									2. その他	
		浄化槽放流水						0		
		その他	6	48	1			55		(175)
									1. 一般細菌数	20
									2. 大腸菌群	20
									3. その他	135
	環境生物検査	騒音・振動						0		
		土壌・底質検査	2	0	0	0	0	2		
		藻類・プランクトン・魚介類						0		
		その他						0		
	一般室内環境	その他						0	1. 落下細菌	
								0		
	放射能	環境試料(雨水・空気・土壌等)						0		
		食品	0	0	5	3	0	8		(16)
									1. セシウム 134	8
									2. セシウム 137	8
		その他						0		(0)
									1. セシウム 134	
									2. セシウム 137	
	温泉(鉱泉)泉質検査							0		
	その他				514		129	643	1. 花 粉	(643)
	計		214	5,569	3751	7,276	2,005	18,782		68,403

依頼によるもの区分

- 住 民 (1): 住民からの依頼
 保 健 所 (2): 保健所からの依頼
 保 健 所 以 外 の 行 政 機 関 (3): 保健所以外の行政機関からの依頼
 そ の 他 (医 療 機 関、学 校、事 業 所 等) (4): 病院及び診療所、学校及び事業所等からの依頼
 依 頼 に よ ら ない も の (5): 自 行 な う 調 査・研 究

(1-1) 食品別検査項目内訳 (理化学検査)

区 分		項 目	総 検 体 数	総 項 目 数	着 色 料	保 存 料	発 色 剤	漂 白 剤	甘 味 料	強 化 剤	殺 菌 料	酸 化 防 止 剤	品 質 保 持 剤	防 か び 剤	酸 味 料	その 他 の 添 加 物	不 許 可 添 加 物	水 分 活 性	品 質 検 査	シ ア ン 化 合 物	マ イ コ ト キ シ ン	魚 介 毒 C	T T C	塩 分 濃 度	酸 価 過 酸 化 物 価	動 物 用 医 薬 品	規 格 試 験	食 品 成 分	P C B	残 留 農 薬	放 射 能	重 金 属	遺 伝 子 組 換 え 食 品 検 査	そ の 他	
魚 介 類			18	198	0	0	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	96	0	0	3	46	0	33	0	12
魚介類加工品	ねり製品		21	28	7	21	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
	そ の 他		19	54	5	13	3	4	0	0	0	10	0	0	0	2	6	0	0	0	0	3	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0
食 肉 及 びその加工品	食 肉		23	182	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	81	0	0	0	96	0	0	0	5
	食 肉 製 品		29	53	7	18	28	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
卵 及 び 其 の 加 工 品			11	63	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	63	0	0	0	0	0	0	0	0
穀 類 及 び 其 の 加 工 品			56	147	1	20	0	6	0	0	0	0	31	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	58	4	4	4	4
野菜果実類 及びその加工品	漬 物		15	62	13	21	0	6	13	0	0	1	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	野菜果実・その他		56	982	6	23	0	7	3	0	0	2	0	25	1	0	12	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	901	0	0	0	2
豆 類 及 び 其 の 加 工 品			23	30	0	1	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	18	6
乳 及 び その加工品	乳 類		3	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	12	0	0	3	0	0	0	0	
	乳 製 品		19	44	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	10	20	0	0	0	6	0	0	
調 味 料			16	55	2	34	0	2	1	0	0	6	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2
菓 子 類			39	133	15	30	0	16	16	0	0	23	0	0	2	0	35	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	5
清 涼 飲 料 水			16	92	4	8	0	4	2	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	45	0	27
酒 精 飲 料 水			8	49	5	14	0	4	14	0	0	0	0	0	0	0	11	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
油 脂 類			4	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	8	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
びん詰・缶詰食品			22	107	8	29	0	14	6	0	0	10	0	0	3	0	26	0	0	0	0	0	0	0	0	4	0	0	0	0	4	0	0	0	3
健 康 食 品			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他 の 食 品			7	18	0	2	0	1	3	0	0	2	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	0	2
食 品 添 加 物			6	37	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	31	0	0	0	0	6	0	0	
器 具 及 び 容 器 包 装			8	40	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	22	0	18
お も ち や			0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
そ の 他			5	15	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	12
合 計			424	2413	77	232	31	69	52	0	0	56	31	25	6	2	106	0	0	2	0	7	0	0	10	263	63	0	3	1104	16	113	22	99	

(1-2) 食品別検査項目内訳(細菌検査)

区 分		項 目	検 体 数	一 般 細 菌 数	大 腸 菌 群	黄色 ブドウ 球菌	サル モネラ 属菌	セ レ ウ ス 菌	ウ エル シ ュ 菌	E H E C O 1 5 7	E H E C	大 腸 菌	E ・ c o l i	E ・ c o l i (MPN)	腸 炎 ビ ブ リ オ	腸 炎 ビ ブ リ オ (MPN)	真 菌 類	カン ビ ロ バク タ ー	N A G ビ ブ リ オ	コ レ ラ 菌	V ・ フ ル ビ ア リ ス	赤 痢 菌	Y ・ エン テ ロ コ リ チ カ	その他の食中毒菌	リス テ リ ア 菌	ボツ リ ヌ ス 菌	緑 膿 菌	腸 球 菌	クロ ス ト リ シ ウ ム 属 菌	細 菌 試 験	そ の 他	総 数	
魚介類および その加工品	生食用生かき	26	14	1	-	10	-	-	14	-	10	1	13	-	10	-	-	-	-	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	83
	生食用鮮魚介類	124	123	123	84	27	-	-	79	-	-	69	-	15	121	-	-	-	13	8	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	663
	魚肉ねり製品	19	19	19	16	10	8	-	13	-	-	10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	90
	その他の	42	21	21	12	11	-	-	34	-	-	14	-	20	1	-	-	-	11	11	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	167
食肉および その加工品	食肉	176	49	48	15	176	-	-	176	-	70	19	-	-	-	-	-	88	-	-	-	-	-	-	-	71	-	-	-	-	-	-	712
	生食用食肉	8	1	1	1	6	-	-	8	-	6	1	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	-	-	-	36
	食肉製品	27	25	26	23	25	-	-	22	-	1	19	-	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-	6	-	-	155
卵および その加工品	卵	15	8	8	5	15	-	-	5	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
	卵加工品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
乳および その加工品	乳	3	3	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	6
	乳製品	18	13	15	8	4	-	-	13	-	-	7	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	65
穀類・豆類お よびその加工 品	乳類加工品	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	めん類	40	40	34	40	7	14	-	31	-	-	22	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	188
	豆腐	64	63	63	63	60	54	-	48	-	-	36	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	387
野菜・果物お よびその加工 品	その他の	15	6	9	6	12	5	-	7	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	46
	漬物	34	9	7	15	31	-	-	31	-	9	18	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	9	-	-	-	-	-	-	134
弁 当 類	野菜果物・その他	86	18	18	3	74	2	-	81	-	55	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	256
	弁当類	165	165	165	157	132	74	-	145	-	-	77	-	35	-	-	-	5	9	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	964
そうざい類	調理パン	61	61	61	61	59	2	-	49	-	-	37	-	-	-	-	-	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	335
	非加熱そう菜	218	218	218	214	189	37	14	153	-	15	207	-	16	-	-	-	34	15	15	15	15	15	75	-	-	-	-	-	-	-	-	1,465
	加熱そう菜	415	415	415	389	397	70	36	339	-	15	293	-	16	-	-	-	99	15	15	15	15	15	75	34	-	-	-	-	-	-	-	2,668
調味料(みそ・しょうゆ等)		10	3	3	2	9	-	-	0	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	28
菓 子 類	和生菓子	56	56	56	56	52	7	1	32	-	-	29	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	289
	洋生菓子	110	101	101	101	110	3	-	59	-	-	70	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	545
清涼飲料水・粉末清涼飲料		11	3	11	-	-	-	-	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	2	-	-	-	20
冷凍食品		14	14	9	9	9	-	-	9	-	-	11	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	61
氷		4	4	4	1	1	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	12
レトルト		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
その他の食品		42	21	20	9	28	1	-	31	-	1	5	-	1	-	2	3	1	1	1	1	1	1	5	-	15	-	-	-	-	-	1	148
ふ き と り	器具拭取(包丁・まな板)	418	406	406	398	30	30	-	49	-	-	142	-	59	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	1,621
	手指拭取	72	72	72	72	9	-	-	17	-	-	37	-	16	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	295
	その他の	2	2	2	2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	7
ふ き ん ・ お し ぼ り		1	1	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	3
総 数		2,296	1,954	1,940	1,763	1,493	302	51	1,457	-	182	1,138	13	184	132	2	242	64	50	31	53	31	155	132	15	2	2	6	-	1	11,395		

(注) ー: 検査未実施

(2) 水質別検査項目内訳

項目 区分				検 体 数	検 査 項 目																				
					総 数	外 色 観 度・ 濁 臭 度 味	P H	窒 素 化 合 物	有 機 物	硬 度	陽 イ オン 類	陰 イ オン 類	蒸 発 残 留 物	残 留 塩 素	溶 存 酸 素	C O D	B O D	浮 遊 物 質	陰 イ オン 類	界 面 活 性 剤	n ・ ヘ キサ ン 可 溶性 物質	理 化 学 試 験 の 他 の	一 般 細 菌 数	大 腸 菌 群	細 菌 学 的 試 験 の 他 の
飲料水 検 査	水道水	浄水	貯槽水（細）	287	574																287	287	0		
			そ の 他																						
			貯槽水（理）	289	3467	1152	286	572	287	286	291	287	2	286					0	0	18				
	井戸水	井戸水	そ の 他																		261	261	64		
			井戸水（細）	261	586																				
井戸水（理）			262	4514	1036	259	518	259	259	785	298	0	259	0	0	0	0	0	0	0	841				
利用水 関 係 検 査	中水道水	中水道水	そ の 他																						
			そ の 他																						
			生物学検査																						
			生物学検査																						
下関 水 係 検 査	下水	下水	そ の 他																						
			そ の 他																						
			生物学検査																						
清 掃 関 係 検 査	し尿	し尿	浄化放流水（細）																						
			浄化槽水																						
			浄化放流水（理）																						
			浄化槽水																						
			生物学検査																						
公 害・ 一 般 環 境 検 査	河川汚濁	河川汚濁	河川水底質	11	205	0	5	9	0	0	54	19	0	0	0	7	7	7	0	5	87	0	5	0	
			産業排水	55	281	0	25	5	0	0	149	28	0	0	0	1	1	1	0	15	55	0	1	0	
			その他（コレラ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	0	0	0	0	
			その他（汚泥）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0	0	0	0	0	0	
			浴場水	590	1820	300	1	0	434		0	135	0	0							288	193	200	269	
			プール水	487	1327	227	227	0	241	0	0	0	0	151	0	0	0	0	0	0	0	3	233	233	12
			その他	39	79	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	20	20	39
温泉（鉱泉）																									
その他																									
計				2281	12853	2715	803	1104	1221	545	1279	767	2	696	0	8	8	8	0	20	1292	994	1007	384	

IV 調 査

1 調査研究報告

川崎市におけるレジオネラ菌の検出状況について

本間幸子 岡田京子 須藤始代 小嶋由香
駒根綾子 岩瀬耕一 小川正之53

川崎市におけるインフルエンザウイルスの流行状況

平位芳江 清水英明 奥山恵子 小川正之57

感染性胃腸炎患者からのウイルス検出状況

奥山恵子 平位芳江 清水英明 小川正之59

ライトトラップによる蚊成虫の採集状況

佐竹一弘 岩瀬耕一 丸山絢 村木芳夫61

ドライアイストラップによる蚊成虫の採集状況

佐竹一弘 岩瀬耕一 丸山絢 村木芳夫64

早野聖地公園の雨水枡における蚊幼虫の発生状況 第2報

佐竹一弘 岩瀬耕一67

過マンガン酸カリウム消費量と全有機炭素（TOC）の関係について（第2報）

森脇直子 石丸陽子 岸美紀 林幸子 田中幸生
川崎区役所保健福祉センター衛生課69

川崎市におけるレジオネラ属菌の検出状況について

本間幸子 岡田京子 須藤始代 小嶋由香
駒根綾子 岩瀬耕一 小川正之

レジオネラ属菌は、本来水中や湿った土壌などの自然環境に広く分布している細菌であるが、一方で循環式浴槽水、空調施設の冷却塔水、給湯水など人工環境においてもアメーバなどの原虫の細胞内で増殖する細胞内寄生菌で、現在4類感染症に指定されている。

ここでは、2004年から2006年までに本市において検出されたレジオネラ属菌（以下、L菌）の検出状況について報告する。

【材料および検査方法】

検査材料：過去3年間に当所に搬入された24時間風呂、高齢者介護施設、公衆浴場、旅館の浴槽水、クーリングタワー水、給湯水、その他の検体として公衆

浴場施設内の集毛器、ろ過器、水温計、すのこなどの拭き取りやろ石など計1,268検体

検査方法：L菌の培養方法はレジオネラ症防止指針¹⁾に準拠した。

【結果および考察】

1. L菌の検出状況

過去3年間（2004～2006年）におけるL菌の検出状況は、表1のとおりである。総検体数は1,268件で、そのうちL菌が検出されたのは91件（7.2%）であった。これは、前回調査結果（1998～2003年：10.9%）より3.7%下がり良好な結果が得られた。²⁾

各検査材料別の検出率は表2のとおりで、個人所

表1 過去3年間のレジオネラ属菌の検出状況

年	2004	2005	2006	計
検体数	375	565	328	1268
陽性数	38	38	15	91
%	10.1	6.7	4.6	7.2

有の24時間風呂が20%（1/5件）で最も多く、次に旅館の浴槽水が12.5%（3/24件）、公衆浴場7.1%（58/818件）、高齢者介護施設2.9%（9/315件）などの順であった。また、環境水以外のその他の検体から19.8%（20/101件）と高率に検出された。これは、再検査時に汚染源追求のため施設内の拭取り検査等を実施したためである。

また、前回の調査期間と比較すると、24時間風呂や高齢者介護施設の検出率が大幅に減少した。（図1）

2. 検出されたL菌の血清型別

検出されたL菌の血清型は表3のとおりである。検出されたL菌の99.0%（92/93件）が

L. pneumophila で、1件は*L. bozemanii* であった。*L. pneumophila* のうち、最多血清型（SG）はVI型（32.3%）で、次いでI型（23.7%）、V型（19.4%）と続いた。各検査材料別では、24時間風呂、旅館、公衆浴場、高齢者介護施設の浴槽水からSG I、III、IV、V、VI、VIII型と多岐にわたって検出され、その他の検体からも浴槽水と同一血清型が検出されている例があり、施設全体の汚染が示唆された。また、公衆浴場2件から2種類の血清型が同時検出された。

検出されたL菌の主要血清型（SG I～VI）について、前回調査と比較するとSG III、V型が減少し、変わってSG I、IV、VI型が増加した。（図2）

表2 各種水試料から分離されたレジオネラ属菌の検出状況

年	2004			2005			2006			合計		
	件数	陽性	%	件数	陽性	%	件数	陽性	%	件数	陽性	%
24時間風呂							5	1	20.0	5	1	20.0
高齢者介護施設	139	3	2.2	105	6	5.7	71	0	0.0	315	9	2.9
公衆浴場	182	21	11.5	425	28	6.6	211	9	4.3	818	58	7.1
旅館	8	2	25.0	12	1	8.3	4	0	0.0	24	3	12.5
クーリング*タワー水	1	0	0.0	1	0	0.0	1	0	0.0	3	0	0.0
給湯水				2	0	0.0				2	0	0.0
その他	45	12	26.7	20	3	15.0	36	5	13.9	101	20	19.8
計	375	38	10.1	565	38	6.7	328	15	4.6	1268	91	7.2

表3 各種水試料から分離されたL菌の血清型 (2004～2006)

血清型	<i>Legionella pneumophila</i> (99.0%)								<i>L.p</i> 以外の血清型 (1.0%)	合計
	<i>L.p</i> I	<i>L.p</i> II	<i>L.p</i> III	<i>L.p</i> IV	<i>L.p</i> V	<i>L.p</i> VI	<i>L.p</i> VII	<i>L.p</i> XIV		
24時間風呂			1 100.0%							1 1.0%
高齢者介護施設	2 22.2%				5 55.6%	2 22.2%				9 9.7%
公衆浴場	10* 16.7%		3 5.0%	4 6.7%	13☆ 21.7%	22*☆ 36.7%	7 11.7%		1 1.7%	60 64.5%
旅館				1 33.3%		1 33.3%		1 33.3%		3 3.2%
クーリング*タワー水										0 0.0%
その他	10 50.0%		3 15.0%			5 25.0%	2 10.0%			20 21.5%
計	22 23.7%		7 7.5%	5 5.4%	18 19.4%	30 32.3%	9 9.7%	1 1.0%	1 1.0%	93 100%

(備考) *・☆は、同一検体より分離

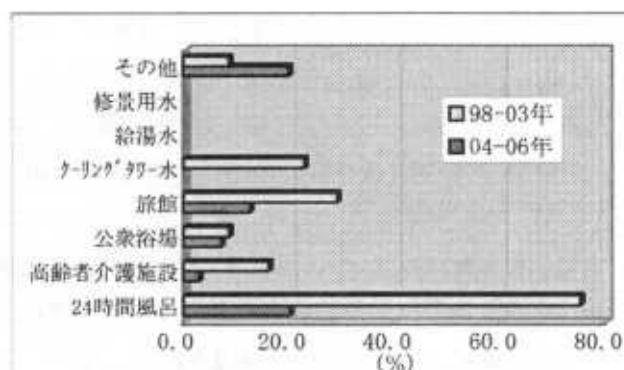


図1 各種水試料からのレジオネラ属菌の検出状況

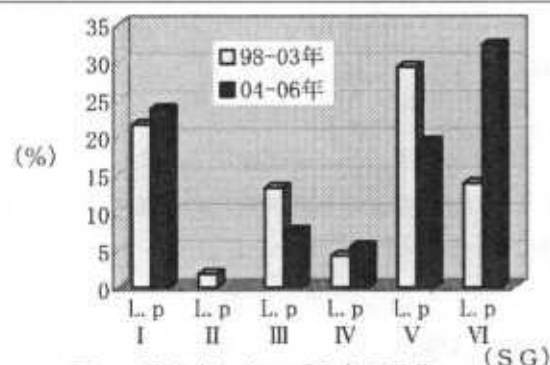


図2 検出されたレジオネラ属菌の主要血清型

3. 検出されたL菌の菌数分布

L菌が検出された各施設ごとの菌数分布は、表4のとおりである。最高菌数値はその他の検体からの560000CFU/100mlであった。浴槽水のL菌の管理基準(10CFU/100ml未満)以上検出されたのは、71件(5.5%)で、最高菌数値は11000CFU/100mlであった。

また、再検査時による施設内のすのこや水温計などその他の検体からも高率にL菌が検出され、施設全体が汚染されている可能性が示唆された。

前回の調査と比較すると検出された菌数分布は低い傾向を示した。(図3)

表4 各施設ごとの菌数分布 (2004～2006)

菌数 (CFU/100ml)	< 10		～< 100		～< 1000		～< 10000		10000 ≤ ～	
24時間風呂	4	80.0%			1	20.0%				
高齢者介護施設	306	97.1%	7	2.2%	1	0.3%	1	0.3%		
公衆浴場	760	92.9%	40	4.9%	13	1.6%	4	0.5%	1	0.1%
旅館	21	87.5%	1	4.2%	2	8.3%				
クーリング*ター水	3	100.0%								
給湯水	2	100.0%								
その他	81	80.2%	9	8.9%	2	2.0%	8	7.9%	1	1.0%
計	1177	92.8%	57	4.5%	19	1.5%	13	1.0%	2	0.2%

(備考) 点線枠内は基準値

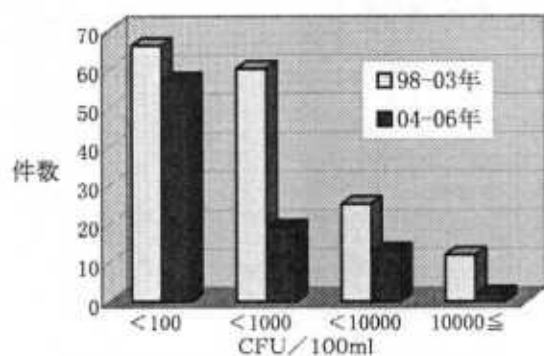


図3 検出されたレジオネラ属菌の菌数分布

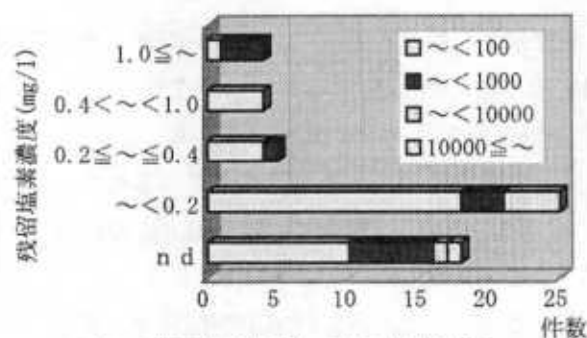


図4 残留塩素濃度とL菌の検出状況

4. 残留塩素濃度とL菌の検出状況

浴槽水中の残留塩素濃度とL菌の検出状況を図4に示した。残留塩素濃度が低いほど検出率は高く、菌数分布別にみても同様の傾向を示した。公衆浴場の管理基準指針では、営業中の残留塩素濃度を0.2～0.4mg/Lに保つことが望ましいとされている³⁾が、管理基準以下の施設では、検出率76.8%(43/56件)でL菌の検出率も高かった。また、管理基準の0.4mg/L以上の

残留塩素濃度を保っている施設からもL菌が8件検出され、3件から残留塩素濃度1.0mg/L以上であるにもかかわらず $10^2 \sim 10^3$ のL菌が検出された。これは、配管や浴槽壁などのL菌の生息場所からバイオフィルムが剥離を起こし、バイオフィルムに包まれているL菌が浴槽内に浮遊し、塩素による殺菌効果が得られなかったためと考えられた。

【まとめ】

1. 前回調査結果より検出率が下がり、監視・指導の徹底および営業者の衛生意識の浸透・向上が反映された結果となり、今後の自主検査の継続が望まれる。
2. 検出される菌数は減少傾向にあるが、検出される菌量が少ないレベルでもL菌の増殖に適した環境であれば、急速に増殖する可能性があり注意が必要である。
3. 浴槽水からはSGI、V、VI型が優位に検出され、他都市と同様の汚染状況であった。⁴⁾
4. 浴槽水の管理基準以上の塩素濃度を保持しているにもかかわらずL菌が検出されることから循環系全体の洗浄、消毒の維持管理が必要と考えられた。

【謝辞】

本調査にあたり、採水にご協力頂きました保健所の監視員の方々に深謝いたします。

【文献】

- 1) 厚生省生活衛生局企画課：新版レジオネラ症防止指針，財団法人 ビル管理教育センター，p85-94，2000
- 2) 本間幸子，他：川崎市におけるレジオネラ属菌の検出状況とその分子疫学解析について（1998～2003年），川崎市衛生研究所年報，39:64-70. 2003
- 3) 「公衆浴場における衛生等管理要領等の改正について」 厚生労働省局長通知 健発第 0214004 号 平成 15 年 2 月 14 日
- 4) 国立感染症研究所感染研感染症情報センター：特集レジオネラ症，病原微生物検出情報，24(2)：1-2，2003

川崎市におけるインフルエンザウイルスの流行状況

平位芳江 清水英明 奥山恵子 小川正之

【はじめに】

インフルエンザは毎年、冬期に全国的な流行を繰り返す疫学上重要な感染症である。ここ数年は、A香港型とB型が、冬期の流行に関与していたが、今期はA香港型、Aソ連型の混合流行で、B型は散発的に見られた。今回2005～06年シーズン、川崎市においてインフルエンザウイルスがどのような動向を示したかを調査し、疫学的解析を行ったので報告する。

【材料および方法】

1 インフルエンザの流行状況

本市におけるインフルエンザの流行状況は、川崎市結核・感染症発生動向調査の週報を資料とした。

2 インフルエンザウイルス分離状況

検体は感染症発生動向調査定点医療機関の小児科および内科で、インフルエンザ様疾患と診断された患者の咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液である。保健所を経由して搬入された検体は、CaCo-2およびMDCK細胞を用いて培養を行った。細胞変性効果(CPE)確認後、ヒトO型血球を用いて赤血球凝集能を測定した。分離株の同定には日本インフルエンザセンター(国立感染症研究所)から分与されたA/ニューカレドニア/20/99(H1N1)、A/ニューヨーク/55/2004(H3N2)、B/上海/361/2002(山形系統)、B/ブリスベン/32/2002(ビクトリア系統)の4種類のフェレット感染抗血清を用いた。

【結果および考察】

1 川崎市におけるインフルエンザ様疾患の発生状況

本市の感染症発生動向調査におけるインフルエンザ様疾患の発生状況(図1)によると患者発生が始めて

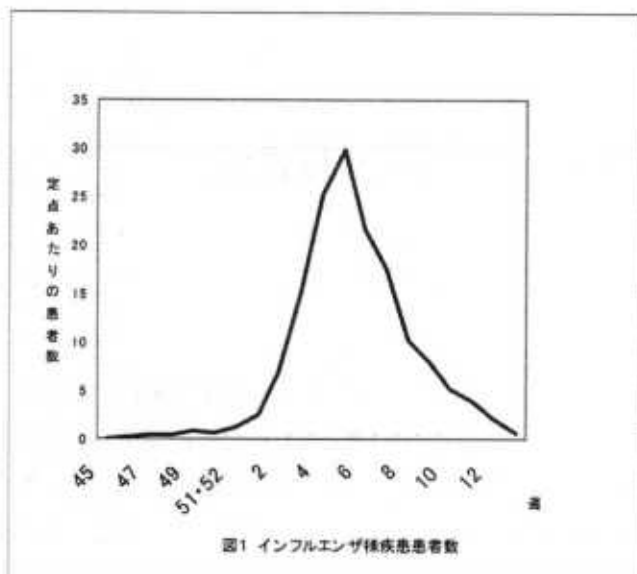
確認されたのが2005年11月の第3週(46週)であったが、12月までは患者数も少なく流行には至らなかった。本格的な流行となったのは1月に入ってからで、患者数は急増し、2月の1週(5週)で定点あたりの患者数が29.85人とピークを迎え、中等度の流行となった。その後、患者数は少しずつ減少し、4月の1週(14週)に終息した。

2 インフルエンザウイルス分離状況

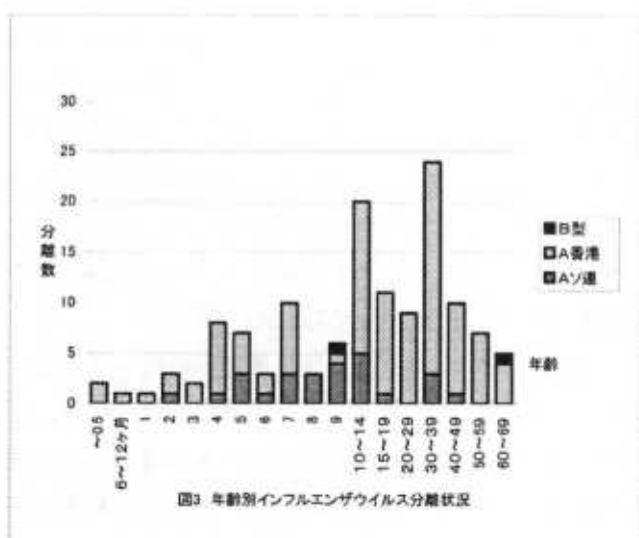
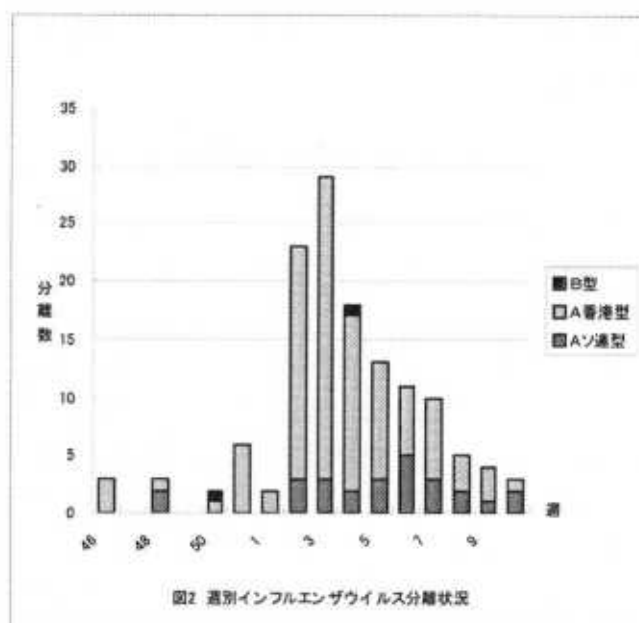
今シーズンは合計171例のインフルエンザ様疾患患者の咽頭ぬぐい液、鼻腔ぬぐい液が搬入され、そのうち132例(77.2%)からインフルエンザウイルスが分離された。

初めて分離されたのは2005年11月の第3週(46週)でA/ニューヨーク/55/2004のフェレット抗血清と反応が見られたことからA香港型と同定された。1月に入ると分離数は急激に増加し、A香港型が多く分離された。A香港型のピークは1月の第3週で26株分離され、3月6日(10週)まで、継続して分離された。Aソ連型は(48週)に2株、1月の2週から3月11日(10週)まで毎週1から5株が分離された。B型は12月13日(50週)と1月23日(4週)に1株ずつ分離された。最後に分離されたのはAソ連型の3月11日であった(図2)。年齢別の分離状況ではウイルスのタイプによって大きな差が見られた。A香港型は全年齢層に、Aソ連型は15歳以下、特に小学校、中学校に通う年齢層で多く見られた(図3)。

今期のインフルエンザ様疾患患者からは3血清型が分離されたが、A香港型、Aソ連型の混合流行で、B型は散発的に見られた。Aソ連型、A香港型の分離株は今年度のワクチン株と類似していた。一方B型はワクチン株B/上海/361/2002に代表される山形系統で



はなく、B / ブリスベン / 32/2002 に類似したウイルスであった。今シーズンB型は全国的に報告数は少なく流行はしなかったが、来シーズンに流行する可能性があり、今後の動向に注意する必要がある。



感染性胃腸炎患者からのウイルス検出状況

奥山恵子 清水英明 平位芳江 小川正之

ノロウイルス（以下NoV）は、毎年秋から春（10月～翌年3月）頃に感染性胃腸炎や食中毒の原因となるウイルスである。今回2005/06年シーズンに搬入された感染性胃腸炎事例からのウイルスの検出状況と検出したNoVの遺伝子型について検討したので報告する。

【検査材料】

2005年4月から2006年3月までにおいて、感染性胃腸炎と診断され当所に搬入された29検体を使用した。またNoVの遺伝子解析は、検出した事例およびその対照として、食品および、介護老人施設、食中毒事例から検出されたNoVを用いた。検体の年齢構成は5ヵ月から28歳で、男女構成は男性16名、女性13名であった。

【検査方法】

ウイルスの検出はPBSで10%糞便乳剤を作成後、10,000rpm、10min遠心後、上清を用いてイムノクロマト法を原理とした「ラビットテスト ロターアデノ」（第一化学）を用いてA群ロタウイルス（以下HRV）およびアデノウイルス（以下AdV）の検査を行った。HRV、AdV陰性検体については、上清を用いてQ1Aamp viral RNA mini kit（キアゲン）によりRNAを抽出し、抽出RNAはDnase I（Takara）で37℃、30分間処理した。cDNA合成には、random hexamer（Amersham社製）およびSuper script II RT（Invitrogen社製）を用いた。RT-PCRはCOG1F/G1SKR、COG2F/G2SKR、SV-F11S/SV-R1AS、SV-F2S/SV-R2AS各プライマーを用いてNoVおよびサポウイルス（以下SaV）の検出を行った。ダイレクトシークエンスはPCR陽性産物を、MinElutePCR Purification Kit（キアゲン）で精製し、G IIについてはCOG2SKF/COG2SKRによって増幅されたCapsid領域を、オートシーケンサー

CEQ2000XL（BECKMAN COULER社）を用いて塩基配列を決定した。NoV遺伝子の比較は、Capsid領域でG2は275塩基についてClustalWで行った。系統樹は、標準株の塩基配列がDDBJに登録されている株を使用し、近隣接合（Neighborjoining: NJ）法により作成した。

【結果および考察】

1. 2005/06年シーズンは、HRV（12事例）AdV（2事例）、NoV（10事例）が検出された。

2. 検出されたNoV遺伝子型はG I（1事例）G II（9事例）であった。小児が罹患しやすいSaVは検出されなかった（表1）。その他病原細菌は、サルモネラ、エルシニア・エンテロコリチカが検出された。罹患年齢はHRVは5ヵ月から9歳、AdVは3歳と4歳、NoVは0歳から28歳であった。HRV、AdVは主に小児に罹患するウイルスで、NoVは年齢に関係なく感染するウイルスであることが確認された。検出時期は、4月中はHRV（7事例）NoV（1事例）、6月と7月の搬入検体からの、ウイルスの検出はなかった。AdVは11月（1事例）12月（1事例）の検体から検出された。10月搬入の検体から今シーズン初めてNoVが検出され1月末までにNoV（9事例）が検出され、2月搬入の検体からHRV（5事例）の検出があった。

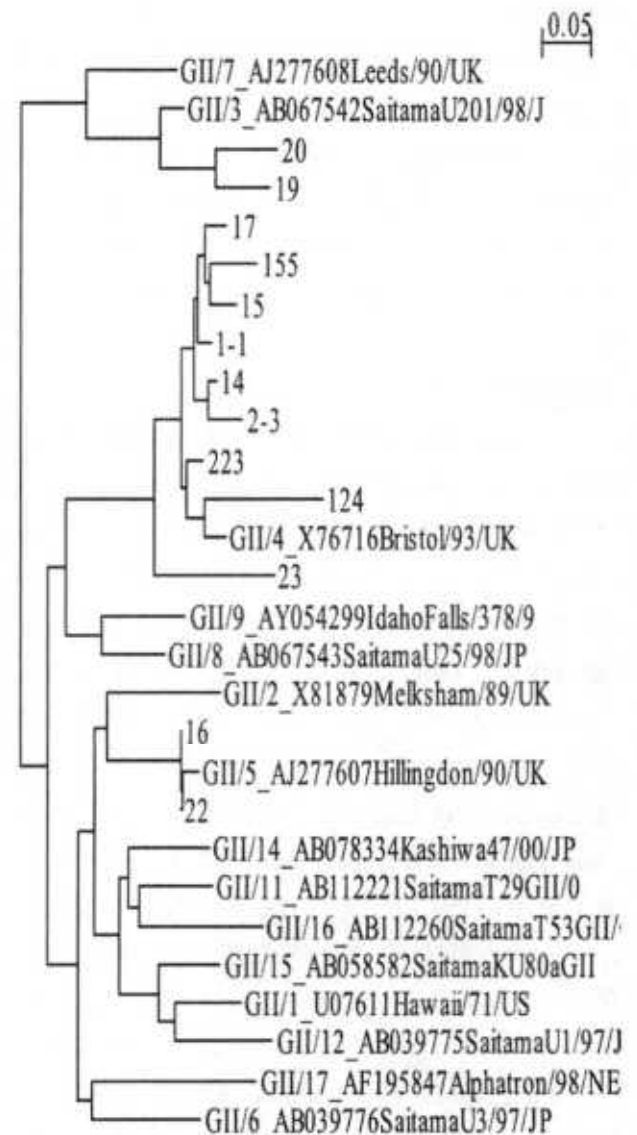
3. 2005/06年シーズンに検出解析ができた8事例（No14, 15, 16, 17, 19, 20, 22, 23）と対照検体として、カキ由来の2事例（No1-1, 2-3）、介護老人施設由来の2事例（No124, 155）、食中毒由来の1事例（No223）の遺伝子解析も行った。その結果3つの遺伝子型G- II 3, G- II 4, G- II 5に分類された。図1にNoV遺伝子型G IIの塩基配列から作成した系統樹を示した。2005/06年シーズンに感染性胃腸炎事例から検出されたNoV遺伝子型は、G- II 4遺伝子型が8事例中4事

例 (No14. 15. 17. 23) と最も多くシーズンを通して検出された。対照としたカキ由来の2事例 (No1-1, 2-3) と老人介護施設由来2事例、食中毒由来1事例 (No124. 155. 223) も G- II 4 (Bristol virus/Lordsale virus-like) であった。G- II 3 遺伝子型2事例 (No19. 20) と G- II 5 遺伝子型2事例 (No16. 22) も検出された。G- II 3. G- II 4. G- II 5 の3遺伝子型は、他都市に於いても毎年検出されている NoV 遺伝子型である。今回初めて感染性胃腸炎の遺伝子解析を行い本市にもおいても同様であることが確認された。中でも G- II 4 遺伝子型は2003 年以降急激に増加している介護老人施設における全国の NoV 感染の約 60% から検

出されており、本市においては2003 年以降の介護老人施設関連事例の遺伝子型はすべて G- II 4 であった。今回検討した感染性胃腸炎の検体は、ほとんどが小児であるため、カキ由来の感染経路は考えにくく、ヒト-ヒト感染、ヒト-モノ感染が疑われるが感染経路の特定はできなかった。NoV はシーズンにより検出される遺伝子型が変化し、G- II 4 遺伝子型に関しては、年次的な遺伝子レベルの変化が生じていることが報告もあるため、今後も G- II 4 関連事例や感染性胃腸炎の遺伝子解析が必要と思われ遺伝子疫学解析に利用できると考えている。

表1 2005 年感染性胃腸炎の結果

No.	発症日	地区	年齢	性別	結果
1	2005/4/4	宮前区	2歳	男	HRV
2	2005/4/10	宮前区	5ヶ月	男	HRV
3	不明	宮前区	9歳	男	HRV
4	2005/4/21	宮前区	2歳	男	HRV
5	2005/4/22	宮前区	25歳	男	NoV (G I)
6	2005/4/21	宮前区	7歳	男	HRV
7	2005/4/23	宮前区	9歳	女	HRV
8	2005/4/26	宮前区	1歳	女	HRV
9	2005/6/17	高津区	10ヶ月	女	陰性
10	2005/7/5	麻生区	1歳2月	男	陰性
11	2005/7/6	麻生区	9ヶ月	男	陰性
12	2005/10/3	高津区	1歳	女	NoV (G II)
13	2005/11/17	宮前区	3歳	男	AdV
14	2005/11/29	幸区	1歳1ヶ月	男	NoV (G II)
15	2005/12/14	川崎区	28歳5ヶ月	女	NoV (G II)
16	2005/12/10	幸区	0歳	女	NoV (G II)
17	2005/12/19	幸区	2歳3ヶ月	女	NoV (G II)
18	2005/12/16	幸区	1歳	女	陰性
19	2005/12/22	幸区	1歳	女	NoV (G II)
20	2005/12/26	高津区	6ヶ月	女	NoV (G II)
21	2005/12/26	宮前区	4歳	男	AdV
22	2006/1/13	麻生区	3歳9ヶ月	男	NoV (G II)
23	2006/1/16	麻生区	1歳3ヶ月	男	NoV (G II)
24	2006/1/23	麻生区	1歳3ヶ月	女	陰性
25	2006/2/5	高津区	11ヶ月	女	HRV
26	2006/2/15	宮前区	10ヶ月	男	HRV
27	2006/3/16	宮前区	(不明)	女	HRV
28	2006/3/18	高津区	1歳3ヶ月	男	HRV
29	2006/3/24	宮前区	11ヶ月	男	HRV



ライトトラップによる蚊成虫の採集状況

佐竹 一弘 岩瀬 耕一 丸山 絢※ 村木 芳夫※

我々の身の回りに見られ、夏季に頻繁に刺されるヒトスジシマカ、アカイエカ等はウエストナイルウイルスに対して高い感受性を持っている事が確認されており、実際にウエストナイルウイルスが侵入した場合には徹底した媒介蚊対策を行わなければならない。¹⁾

本市では、健康福祉局保健医療部疾病対策課の事業計画に基づきライトトラップによる蚊成虫の採集調査を行っているので、平成18年度の調査結果を報告する。

【調査方法】

平成18年第14週から第48週まで週1回、各区役所保健福祉センター及び衛生研究所の定点で退庁時から翌日の出勤時までライトトラップを稼動し蚊成虫を採集した。なお、週の表記については感染症週報に準じた。

【調査結果】

1 種毎の蚊成虫採集状況

アカイエカの採集頭数は275頭で全採集頭数に占める採集頭数の割合（以下「採集率」という。）は62.6%であった。

コガタアカイエカの採集頭数は8頭で採集率は1.8%であった。

ヒトスジシマカの採集頭数は148頭で採集率は33.7%であった。

ヤマトヤブカの採集頭数は5頭で採集率は1.1%であった。

オオクロヤブカの採集頭数は2頭で採集率は0.5%であった。

フタクロホシチビカの採集頭数は1頭で採集率は0.2%であった。

2 定点毎の蚊成虫採集状況

川崎区役所保健福祉センター（大師公園附近）の採集頭数は152頭で採集率は34.6%であった。アカイエカ68頭、コガタアカイエカ3頭及びヒトスジシマカ81頭が採集された。

幸区役所保健福祉センターの採集頭数は39頭で採集率は8.9%であった。アカイエカ30頭及びヒトスジシマカ9頭が採集された。

中原区役所保健福祉センターの採集頭数は35頭で採集率は8.0%であった。アカイエカ26頭、コガタアカイエカ3頭及びヒトスジシマカ6頭が採集された。

高津区役所保健福祉センターの採集頭数は37頭で採集率は8.4%であった。アカイエカ13頭、ヒトスジシマカ20頭、ヤマトヤブカ2頭及びオオクロヤブカ2頭が採集された。

宮前区役所保健福祉センターの採集頭数は19頭で採集率は4.3%であった。アカイエカ16頭及びヒトスジシマカ3頭が採集された。

多摩区役所保健福祉センターの採集頭数は23頭で採集率は5.2%であった。アカイエカ11頭及びヒトスジシマカ12頭が採集された。

麻生区役所保健福祉センターの採集頭数は127頭で採集率は28.9%であった。アカイエカ104頭、コガタアカイエカ2頭、ヒトスジシマカ17頭、ヤマトヤブカ3頭及びフタクロホシチビカ1頭が採集された。

衛生研究所の採集頭数は7頭で採集率は1.6%であった。アカイエカ7頭が採集された。

なお、定点毎の蚊成虫採集状況については表1に週毎の蚊成虫採集状況については表2に示した。

※ 健康福祉局保健医療部疾病対策課

【考察】

採集頭数はアカイエカが最も多く、次いでヒトスジシマカが多かった。採集率はアカイエカとヒトスジシマカで96.4%を占めた。アカイエカは調査開始時から終了時までほとんどの週で採集され、最も採集頭数が多かったのは第34週の26頭であった。ヒトスジシマカは第20週から第43週にかけて採集され、最も採集頭数が多かったのは第31週の25頭であった。

定点別の採集頭数は川崎定点が最も多く、次いで麻生定点が多かった。採集率はこの2定点で63.6%を占めた。川崎定点ではヒトスジシマカが81頭採集され、ヒトスジシマカの総採集頭数の54.7%を占めた。麻生定点ではアカイエカが104頭採集され、アカイエ

カの総採集頭数の37.8%を占めた。

総採集頭数は、平成17年度は431頭、平成18年度は439頭とほぼ同じであった。アカイエカの総採集頭数は、平成17年度の325頭から平成18年度は275頭に減少した。ヒトスジシマカの総採集頭数は、平成17年度の94頭から平成18年度は148頭に増加した。平成17年度に採集されたトラフカクイカ及びキンイロヤブカは採集されなかったが、新たにフタクロホシチビカが採集された。

【文献】

- 1) ウェストナイル熱媒介蚊対策研究会：ウェストナイル熱媒介蚊対策に関するガイドライン，（財）日本環境衛生センター，1.2003

表1 平成18年度ライトトラップによる蚊成虫採集状況（保健所毎）

定 点	計	アカイエカ コ ガ タ アカイエカ ヒトスジ シ マ カ ヤ マ ト ヤ ブ カ オオクロ ヤ ブ カ フタクロ ホシチビカ												備考
		雄 雌		雄 雌		雄 雌		雄 雌		雄 雌		雄 雌		
		雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	
川崎保健福祉 センター (大師公園付近)	152	42	26	1	2	51	30	0	0	0	0	0	0	4月第2週、4月第3週及び9月第2週未調査
幸保健福祉 センター	39	12	18	0	0	1	8	0	0	0	0	0	0	5月第1週未調査
中原保健福祉 センター	35	14	12	2	1	6	0	0	0	0	0	0	0	
高津保健福祉 センター	37	6	7	0	0	4	16	0	2	1	1	0	0	
宮前保健福祉 センター	19	10	6	0	0	2	1	0	0	0	0	0	0	5月第1週未調査
多摩保健福祉 センター	23	5	6	0	0	5	7	0	0	0	0	0	0	5月第1週未調査
麻生保健福祉 センター	127	47	57	0	2	5	12	0	3	0	0	1	0	5月第1週未調査
衛生研究所	7	4	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	439	140	135	3	5	74	74	0	5	1	1	1	0	

単位：頭

表2 平成18年度ライトトラップによる蚊成虫採集状況(週毎)

定 点	計	アカイエカ		コガタ アカイエカ		ヒトスジ シマカ		ヤマト ヤブカ		オオクロ ヤブカ		フタクロ ホシチビカ		備考
		雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	雄	雌	
4月第2週	2	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	川崎HC未調査
4月第3週	3	0	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	川崎HC未調査
4月第4週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
4月第5週	4	0	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
5月第1週	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	幸、宮前、多摩、麻生HC未調査
5月第2週	7	0	6	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	
5月第3週	2	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	
5月第4週	3	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6月第1週	7	2	2	0	0	1	2	0	0	0	0	0	0	
6月第2週	10	2	7	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
6月第3週	6	2	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
6月第4週	20	6	10	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	
7月第1週	20	5	11	0	0	1	3	0	0	0	0	0	0	
7月第2週	21	10	6	0	0	4	1	0	0	0	0	0	0	
7月第3週	22	12	4	0	0	5	1	0	0	0	0	0	0	
7月第4週	33	12	8	0	0	9	4	0	0	0	0	0	0	
7月第5週	40	5	12	0	0	14	7	0	2	0	0	0	0	
8月第1週	45	12	8	0	0	9	16	0	0	0	0	0	0	
8月第2週	18	6	3	0	0	3	6	0	0	0	0	0	0	
8月第3週	12	3	3	0	0	3	3	0	0	0	0	0	0	
8月第4週	51	20	6	0	1	15	8	0	1	0	0	0	0	
9月第1週	18	7	4	0	0	2	5	0	0	0	0	0	0	
9月第2週	9	2	5	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	川崎HC未調査
9月第3週	3	0	2	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
9月第4週	14	5	1	2	0	2	3	0	0	0	1	0	0	
9月第5週	15	5	3	0	2	1	4	0	0	0	0	0	0	
10月第1週	10	4	2	0	0	2	2	0	0	0	0	0	0	
10月第2週	8	4	2	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	
10月第3週	6	2	3	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	
10月第4週	12	5	4	1	0	0	1	0	1	0	0	0	0	
11月第1週	5	1	2	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	
11月第2週	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11月第3週	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
11月第4週	4	1	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
12月第1週	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
計	439	140	135	3	5	74	74	0	5	1	1	1	0	

単位: 頭

ドライアイストラップによる蚊成虫の採集状況

佐竹 一弘 岩瀬 耕一 丸山 絢[※] 村木 芳夫[※]

米国における急速なウエストナイルウイルス（WNV）の分布拡大はこの感染症が我が国に近い将来進入し、大規模な流行を起こすことを予見させる。¹⁾

我が国での媒介蚊の発生調査は日本脳炎の流行予測に関連して一部の地方で続けられているが、都市部における蚊の調査はほとんど行われていないのが現状である。¹⁾

本市では、健康福祉局保健医療部疾病対策課の事業計画に基づき、ドライアイストラップによる蚊成虫の採集調査を行っているので、平成18年度の調査結果を報告する。

【調査方法】

平成18年第24週から第43週まで週1回、市内の4定点にドライアイス2kg併用のCDC型トラップ（以下「ドライアイストラップ」という。）を設置し夕方から翌朝まで移動し蚊成虫を採集した。なお、週の表記については感染症週報に準じた。

【調査結果】

1 種毎の採集状況

アカイエカの採集頭数は204頭で、全採集頭数に占める採集頭数の割合（以下「採集率」という。）は35.7%であった。

コガタアカイエカの採集頭数は15頭で、採集率は2.6%であった。

オオクロヤブカの採集頭数は26頭で、採集率は4.6%であった。

ヒトスジシマカの採集頭数は263頭で、採集率は46.1%であった。

ヤマトヤブカの採集頭数は59頭で、採集率は10.3%であった。

キンバラナガハシカの採集頭数は1頭で、採集率

は0.2%であった。

ハマダラナガスネカの採集頭数は2頭で、採集率は0.4%であった。

フタクロホシチビカの採集頭数は1頭で、採集率は0.2%であった。

2 定点毎の採集状況

東扇島中公園（川崎区）の採集頭数は277頭で採集率は48.5%であった。アカイエカ172頭、コガタアカイエカ10頭、及びヒトスジシマカ95頭が採集された。

夢見ヶ崎動物公園（幸区）の採集頭数は124頭で、採集率は21.7%であった。アカイエカ8頭、コガタアカイエカ2頭、オオクロヤブカ6頭、ヒトスジシマカ53頭、ヤマトヤブカ54頭及びハマダラナガスネカ1頭が採集された。

緑ヶ丘公園（高津区）の採集頭数は138頭で、採集率は24.2%であった。アカイエカ21頭、オオクロヤブカ12頭、ヒトスジシマカ104頭及びヤマトヤブカ1頭が採集された。

早野聖地公園（麻生区）の採集頭数は32頭で、採集率は5.6%であった。アカイエカ3頭、コガタアカイエカ3頭、オオクロヤブカ8頭、ヒトスジシマカ11頭、ヤマトヤブカ4頭、キンバラナガハシカ1頭、ハマダラナガスネカ1頭及びフタクロホシチビカ1頭が採集された。

週毎の蚊成虫採集状況については表1に、定点毎の蚊成虫採集状況については表2に示した。

【考察】

採集頭数は、ヒトスジシマカが最も多く、次いでアカイエカが多かった。採集率は、ヒトスジシマカとアカイエカで81.8%を占めた。

※健康福祉局保健医療部疾病対策課

東扇島中公園は、採集頭数は最も多かったが、蚊の種類は少なく3種類であった。

夢見ヶ崎動物公園は、採集頭数は3番目であったが、種類は6種類と早野聖地公園に次いで多かった。ヒトスジシマカ及びヤマトヤブカで採集された蚊の86.3%を占めた。

緑ヶ丘公園は、採集頭数は東扇島中公園に次いで多かったが、種類は少なく4種類であった。ヒトスジシマカが採集された蚊の75.4%を占めた。

早野聖地公園は、採集頭数は最も少なかったが、採集された蚊の種類は最も多く8種類であった。他の定点では採集されなかったキンバラナガハシカ及びフタクロホシチビカが採集された。

総採集頭数は、平成17年度の954頭から平成18年度は571頭に減少した。ヒトスジシマカの総採集頭数は、平成17年度の196頭から平成18年度は263頭に増加した。アカイエカの採集頭数は、平成17年度の612頭から平成18年度は204頭に著しく減少した。平成17年度に採集されたシナハマダラカ及びカラツイエカは採集されなかったが、新たにハマダラナガスネカ及びフタクロホシチビカが採集された。

【文献】

- 1) ウエストナイル熱媒介蚊対策研究会：ウエストナイル熱媒介蚊対策に関するガイドライン。(財)日本環境衛生センター，1.2003

表1 平成18年度ドライアイストラップによる蚊成虫採集状況（週毎）

週	計	ア カ イ エ カ			コガタアカイエカ			オオクロヤブカ			ヒトスジシマカ			ヤマトヤブカ			キンバラナガハシカ			ハマダラナガスネカ			フタクロホシチビカ		
		雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計
第24週	9	2	2		0		0		0		7	7		0		0		0		0		0		0	
第25週	30	18	18		0		0	3	3		9	9		0		0		0		0		0		0	
第26週	14	5	5		0		0	1	1		6	6		1	1		0		0	1		1		1	
第27週	48	37	37		0		0	2	2		7	7		2	2		0		0	0		0		0	
第28週	53	2	2		0		0	2	2		36	36		13	13		0		0	0		0		0	
第29週	6	5	5		0		0		0		0			1	1		0		0	0		0		0	
第30週	15	7	7		0		0		0		8	8		0			0		0	0		0		0	
第31週	22	13	13		0		0	2	2		7	7		0			0		0	0		0		0	
第32週	76	10	10		0		0	1	1	2	54	56		9	9		0		0	0		0		0	
第33週	27	14	14		0		0		0		13	13		0			0		0	0		0		0	
第34週	98	20	20	14	14		0		0	14	29	43	1	18	19		1	1		1	1		0		0
第35週	23	2	2	1	1	2	2		2		17	17		0			0		1	1		0		0	
第36週	16	2	2		0		0	1	1		8	8		5	5		0		0	0		0		0	
第37週	20	13	13		0		0		0		6	6		1	1		0		0	0		0		0	
第38週	37	10	10		0		0	2	2	1	21	22		3	3		0		0	0		0		0	
第39週	5	5	5		0		0		0		0			0			0		0	0		0		0	
第40週	24	12	12		0		0	2	2	1	8	9		1	1		0		0	0		0		0	
第41週	2		0		0		0		0		2	2		0			0		0	0		0		0	
第42週	33	14	14		0		0	8	8		7	7		4	4		0		0	0		0		0	
第43週	13	13	13		0		0		0		0			0			0		0	0		0		0	
計	571	0	204	204	0	15	15	0	26	26	18	245	263	1	58	59	0	1	1	0	2	2	1	0	1

単位：頭

表2 平成18年度ドライアイストラップによる蚊成虫採集状況（定点毎）

定点	計	ア カ イ エ カ			コガタアカイエカ			オオクロヤブカ			ヒトスジシマカ			ヤマトヤブカ			キンバラナガハシカ			ハマダラナガスネカ			フタクロホシチビカ		
		雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計	雄	雌	計
東扇島中公園	277	172	172		10	10		0		0	16	79	95		0		0		0	0		0		0	
夢見ヶ崎動物公園	124	8	8		2	2		6	6		2	51	53	1	53	54		0		1	1		0		0
緑ヶ丘公園	138	21	21		0	0		12	12		104	104		1	1		0		0	0		0		0	
早野聖地公園	32	3	3		3	3		8	8		11	11		4	4		1	1		1	1	1	1	0	1
合計	571	0	204	204	0	15	15	0	26	26	18	245	263	1	58	59	0	1	1	0	2	2	1	0	1

単位：頭

早野聖地公園の雨水枡における蚊幼虫の発生状況 第2報

佐竹 一弘 岩瀬 耕一

ウエストナイル熱は、1999年にニューヨークで患者が発生し、2002年には4,000名を越す患者が発生し240名以上が死亡した。¹⁾

我が国での媒介蚊の発生調査は日本脳炎の流行予測に関連して一部の地方で続けられているが、都市部における蚊の調査はほとんど行われていないのが現状である。¹⁾

今年も、昨年に引き続き雨水枡内の蚊幼虫の発生状況を把握するため調査を行ったので結果を報告する。

【調査方法】

平成18年4月から平成19年3月まで毎月1回、麻生区早野聖地公園の雨水枡39枡に番号をつけ、柄杓による掬い取り法で調査を行った。

【調査結果】

1 水の無い雨水枡の割合

全雨水枡に対する無水枡の割合（以下「無水率」という。）は平均8.5%であった。平成17年度の無水率は10.7%だったので無水率はやや減少した。無水率が最も高いのは8月と1月の15.4%で、最も低いのは5月、7月、9月及び10月の2.6%であった。

2 蚊幼虫が発生していた雨水枡の割合

全雨水枡に対する蚊幼虫が発生していた雨水枡の割合（以下「発生率」という。）は平均51.7%であった。発生率が最も高いのは7月で79.5%、最も低いのは2月で15.4%であった。

3 蚊幼虫数

採集された蚊幼虫数は7,000頭であった。蚊幼虫数が最も多いのは6月で1,934頭、次いで11月の1,288頭であった。蚊幼虫数が最も少ないのは2月で17頭、次いで10月の71頭であった。

4 種毎の特徴

アカイエカ幼虫は1,780頭採集された。4月から12月にかけて採集され、最も多いのは6月の1,152頭であった。

ヤマトクシヒゲカ幼虫は3,814頭採集された。

4月から1月にかけて採集され、最も多いのは11月の1,208頭であった。

コガタクロウスカ幼虫は6月に2頭採集された。

トラフカクイカ幼虫は362頭採集された。7月から11月にかけて採集され、最も多いのは9月の179頭であった。

ヤマトヤブカ幼虫は1,008頭採集された。年間を通じて採集され、最も多いのは7月の489頭であった。

ヒトスジシマカ幼虫は34頭採集された。4月から9月にかけて採集され、最も多いのは7月の24頭であった。

なお、調査結果については表1に示した。

【考察】

1 無水率について

平成18年度は平成17年度に比べて無水率がやや減少した。平成17年度は年間を通じて水が全く無い雨水枡があったが、平成18年度は年間を通じて水が全く無い雨水枡は無かった。水が無ければ蚊幼虫は発生しないので水の溜まらない構造の雨水枡は蚊幼虫の発生防止対策に有効である。

2 発生率について

平成18年度は平成17年度に行った調査方法を見直し一部変更した。平成17年度は掬い取った水を現地で確認し、幼虫が発生していた水及び濁りやゴミのため幼虫の発生が判定できない水を持ち帰り調査した。平成18年度は掬い取った水をすべて持ち帰り調査した。平成17年度の発生率は42.3%であったが、平成18年度は51.7%に上昇した。これは、調査方法の見直しによる影響が大きいと考えられる。

3 蚊幼虫数について

平成18年度は8月から10月にかけて蚊幼虫数の著しい減少が見られた。平成17年度も9月を中心とする蚊幼虫数の減少が見られた。一方、トラフカ

クイカ幼虫は、蚊幼虫数の著しい減少が見られた時期に数が多かった。トラフカクイカ幼虫は、蚊幼虫を捕食することから、蚊幼虫数の著しい減少の原因は、トラフカクイカ幼虫による蚊幼虫の捕食による影響が大きいものと考えられる。

平成 17 年度の蚊幼虫数は 3,879 頭であったが、平成 18 年度は 7,000 頭に増加した。これも、調査方法の見直しによる影響が大きいと考えられる。

4 種毎の特徴について

アカイエカ幼虫数は 6 月に最も多くなったが、その後トラフカクイカ幼虫の発生とともに減少した。トラフカクイカ幼虫の発生が終息する 11 月以降も幼虫数はさほど増加しなかった。これは、水温が低下しアカイエカ幼虫の生育に適さなくなったためと考えられる。

ヤマトクシヒゲカ幼虫数は 7 月にかなり多く採集されたが、アカイエカ幼虫と同様トラフカクイカ幼虫の発生とともに減少した。しかし、その後増加し、11 月には最も数が多くなった。これは、ヤマトクシヒゲカ幼虫がアカイエカ幼虫に比べ水温の低下に強いと考えられる。

トラフカクイカ幼虫数は 9 月に最も多くなり、採集された全幼虫数の 79.6% を占めた。9 月には他の種類の蚊幼虫はわずかししか採集されなかった。これは、他の種類の蚊幼虫がトラフカクイカ幼虫に捕食されてしまったためと考えられる。

ヤマトヤブカ幼虫数は 7 月に最も多くなったが、アカイエカ幼虫等と同様トラフカクイカ幼虫の発生とともに減少した。その後の幼虫数の増加は緩やかで 3 月にやや多くなった。幼虫はどの月にも採集された。これは、ヤマトヤブカ幼虫が水温の低下に強いと考えられる。

ヒトスジシマカ幼虫数は 7 月に最も多くなったが、アカイエカ幼虫等と同様トラフカクイカ幼虫の発生とともに減少し、10 月以降は採集されなかった。これは、ヒトスジシマカ幼虫数が水温の低下に弱いと考えられる。

【文献】

- 1) ウエストナイル熱媒介蚊対策研究会：ウエストナイル熱媒介蚊対策に関するガイドライン。（財）日本環境衛生センター，1. 2003

表 1 早野聖地公園の蚊幼虫調査結果

	アカ イエカ	ヤマト クシヒゲカ	コガタ クロウスカ	トラフ カクイカ	ヤマト ヤブカ	ヒトスジ シマカ	計
4 月	8	13	0	0	64	2	87
5 月	235	57	0	0	54	1	347
6 月	1,152	570	2	0	204	6	1,934
7 月	260	765	0	35	489	24	1,573
8 月	21	134	0	143	12	0	310
9 月	16	15	0	179	14	1	225
10 月	2	60	0	3	6	0	71
11 月	74	1,208	0	2	4	0	1,288
12 月	12	881	0	0	21	0	914
1 月	0	111	0	0	15	0	126
2 月	0	0	0	0	17	0	17
3 月	0	0	0	0	108	0	108
計	1,780	3,814	2	362	1,008	34	7,000
平均	148.3	317.8	0.2	30.2	84.0	2.8	583.3

単位：頭

過マンガン酸カリウム消費量と全有機炭素（TOC）の量の関係について （第2報）

森脇直子 石丸陽子 岸美紀 林幸子 田中幸生
川崎区役所保健福祉センター 衛生課

平成15年5月30日付け厚生労働省令第101号¹⁾により水質基準が改正され、有機物量の指標²⁾として KMnO_4 消費量に代わり新たに全有機炭素（以下TOC: Total Organic Carbon）の量が加わった。

第1報³⁾では、TOC計での検査方法をプール水に適用するため、過マンガン酸カリウム消費量（以下 KMnO_4 消費量）とTOCの量について調査した。その結果、市内遊泳用プール（198検体：室内132検体、室外66検体）の水では、 $Y = 0.50X + 0.79$ （ $R^2 = 0.750$ ）と良好な回帰直線と相関が認められた。また、塩素イオンが検水中に多く存在しているプール水においてTOC計による測定法は、塩素イオンの影響を受け易い KMnO_4 消費量による測定法よりも有機物量を正確かつ迅速に測定する優れた検査方法であると報告した。

今回は、神奈川県公衆浴場法施行細則⁴⁾で有機物量の水質基準として、 KMnO_4 消費量が定められている浴槽水について、プール水同様にTOC計による測定法での測定が可能であるか、市内の浴槽水（136検体）について調査を実施した。さらに、浴槽水換水直後からの水質の経時変化を観察したところ、トリハロメタン類生成等で若干の知見を得たので報告する。

【方法】

1. 調査方法

1) 浴槽水の水質検査：市内一般公衆浴場 白湯136検体について、 KMnO_4 消費量、TOCの量の項目について調査を行った。

2) 浴槽水の水質経時変化検査：市内公衆浴場A施設（概

要を表1に示す）白湯24検体について、 KMnO_4 消費量、TOCの量、塩素イオン、総トリハロメタン、濁度、遊離残留塩素、水温の項目について調査を行った。

表1 A施設 概要

ろ過器	運転時間	12時から0時 営業終了時に停止し、営業 3時間前に運転を再開する
	清掃頻度	毎日
	清掃方法	逆洗
	ろ材	砂
	ろ材交換 頻度	H6設置後未実施 (12年間継続使用)
消毒	成分名	塩素化イソシアヌル酸
換水頻度	全換水 頻度	8日に一度
	部分換水 頻度	毎日 営業終了後、清掃などで1/ 3から1/2ほど使用した 後、新規水を毎日補給する

2. 採水日

1) 浴槽水の水質検査：平成17年4月1日～19年3月31日

2) 浴槽水の水質経時変化検査：平成18年12月14日～12月21日

3. 調査項目

KMnO_4 消費量、TOCの量、塩素イオン、総トリハロメタン、濁度、遊離残留塩素、水温

4. 測定方法

1) KMnO_4 消費量

上水試験方法(2001年版):酸性法によった。

2) TOCの量

厚生労働省告示第261号:全有機炭素計測定法によった。

試料に1mol/L塩酸を1.5%添加し、1.5分爆気処理後、TOC計に導入した。燃焼温度は680℃、酸通気には純窒素G3を用い、通気量は130ml/分とした。酸添加、通気処理及び試料導入はオートサンプラーを用いた。

3) 塩素イオン

上水試験方法(2001年版):モール法によった。

4) 総トリハロメタン

厚生労働省告示第261号:ヘッドスペースガスクロマトグラフィー質量分析計による一斉分析法によった。

5) 濁度

厚生労働省告示第261号:積分球式光電光度法によった。

6) 遊離残留塩素

上水試験方法(2001年版):DPD法によった。

5. 試薬及び装置

1) KMnO_4 消費量

硫酸:関東化学(有害金属測定用)

2mmol/L過マンガン酸カリウム溶液:関東化学

5mmol/Lシュウ酸ナトリウム溶液:関東化学

2) TOCの量

TOC標準原液(炭素濃度1mg/ml):
120℃で1時間加熱し放冷した特級フタル酸水素カリウム(ナカライテクス㈱)2.125gを精製水に溶かして1Lとした。

TOC計:島津製作所製

全有機炭素計TOC- $V_{\text{CHI/CPN}}$

3) 塩素イオン

0.01mol/L硝酸銀溶液:和光純薬

クロム酸カリウム溶液:和光純薬

0.01mol/L塩化ナトリウム溶液:関東化学

4) 総トリハロメタン

揮発性有機化合物混合標準液II:関東化学

4-ブロモフルオロベンゼン標準原液:関東化学

塩化ナトリウム:関東化学(残留農薬試験・PCB試験用)

メチルアルコール:和光純薬(トリハロメタン測定用)

ガスクロマトグラフィー質量分析計:島津製作所製 QP2010

ヘッドスペースガスクロマトグラフィー質量分析計:パーキンエルマー製 HS-40

5) 濁度

濁度計:日本電色工業株式会社製 Water Analyzer 2000N(ポリスチレン校正)

6) 遊離残留塩素

N,N-ジエチル-p-フェニレンジアミン硫酸塩:和光純薬

無水硫酸ナトリウム:和光純薬

リン酸緩衝液(0.2mol/Lリン酸二水素カリウム:和光純薬、0.2mol/L水酸化ナトリウム:関東化学)

【結果及び考察】

1. 市内浴槽水の水質について

市内浴槽水(136検体)の白湯を検査したところ、 KMnO_4 消費量は最大20mg/L、最小0.5mg/L(平均6.8mg/L)であり、神奈川県公衆浴場法施行細則の浴槽水水質基準(25mg/L)を超えた検体はなかった。

また、図1に示すようにTOCの量は最大13.7mg/L、最小0.6mg/L(平均4.0mg/L)であり、両者の関係は $Y=0.51X+0.52$ ($R^2=0.741$)で良好な回帰直線を示していた。

2. 浴槽水の経時変化について

A施設において換水日から8日間連続で、ろ過器運転前、営業開始前、営業終了時ごとに KMnO_4 消費量とTOCの量及び消毒副生成物である総トリハロメタン等の経時変化を調査し、その結果を表2に示した。また、 KMnO_4 消費量とTOCの量の相関

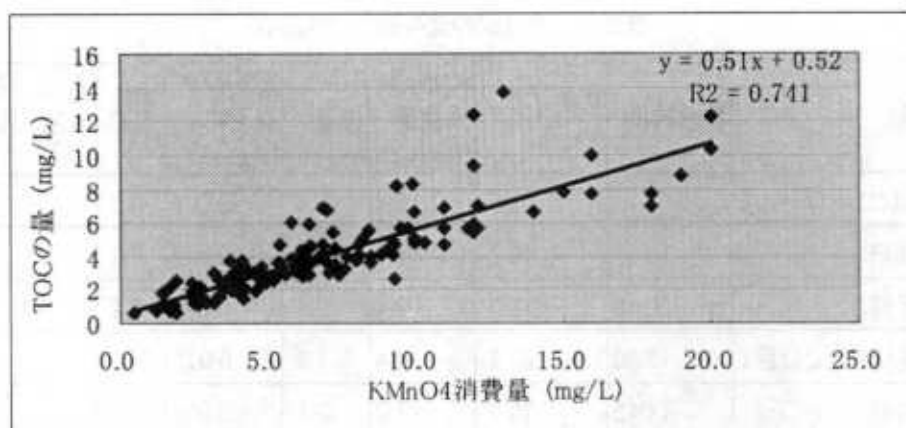


図1 市内浴槽水 (n = 136) における KMnO_4 消費量とTOCの量の相関図

は、図2に示すように $Y = 0.45X + 1.12$ ($R^2 = 0.889$) であった。

また、有機物量は、水温が高くなり入浴者数が多い日に上昇傾向であった。(図3)

逆に水中の総トリハロメタンの濃度は、水温が上昇すると低下する傾向であった。これは、揮発性有機物であるトリハロメタン類が、水温の上昇により揮発しているためと考えられる。

塩素イオンは、最大 42.4 mg/L 、最小 19.2

mg/L 、平均 34.2 mg/L ($n = 24$) であった。浴槽水の塩素イオン濃度は、消毒剤の投入や入浴者由来の汗等により、増加すると予測していたが、この施設では毎日部分換水をしており、それほどの増加はみられなかった。

濁度は最大 0.9 度、最小 0.0 度であり、神奈川県公衆浴場法施行細則の浴槽水水質基準(5度)を超えた検体はなかった。

表2 8日間の経時変化 (A施設)

検体 番号	名称	採水時間	塩素イオン (mg/L)	KMnO ₄ 消費量 (mg/L)	TOC の量 (mg/L)	総トリハ ロメタン (mg/L)	濁度 (度)	入浴 人数 (人)	遊離残 留塩素 (mg/L)	水温 (℃)
1	浴槽水 (コントロール)		22.5	0.4	0.4	0.009	0.0		—	15
2	営業開始前	12:10	19.2	0.5	0.6	0.007	0.4		0.1	40
3	営業終了時	0:10	25.3	2.4	2.4	0.002	0.4	90	0.3	41
4	ろ過器運転前 (2日目)	12:00	29.6	1.4	1.8	0.015	0.0		0.3	29
5	営業開始前	14:45	30.6	1.7	2.1	0.002	0.0		0.5	41
6	営業終了時	0:10	31.5	3.2	3.0	0.003	0.0	90	0.3	40
7	ろ過器運転前 (3日目)	12:30	30.6	1.5	1.9	0.01	0.0		0.3	17
8	営業開始前	14:40	36.2	1.9	2.5	0.008	0.0		0.5	41
9	営業終了時	0:05	37.7	10	4.8	0.005	0.1	100	0.5	41
10	ろ過器運転前 (4日目)	7:00	42.4	6.2	3.7	0.015	0.0		0.3	23
11	営業開始前	8:30	41.0	8.1	4.6	0.004	0.0		0.5	41
12	営業終了時	0:10	39.7	8.2	5.0	0.006	0.0	120	0.3	40
13	ろ過器運転前 (5日目)	12:00	33.4	3.4	2.5	0.017	0.0		0.3	28
14	営業開始前	14:40	41.0	6.8	3.9	0.02	0.1		0.5	41
15	営業終了時	0:15	38.1	4.8	3.4	0.016	0.0	90	0.3	39
16	ろ過器運転前 (6日目)	12:00	34.4	4.0	2.9	0.015	0.1		0.3	29
17	営業開始前	14:40	40.0	5.4	3.6	0.017	0.0		0.5	41
18	営業終了時	0:15	37.2	6.5	4.6	0.006	0.9	90	0.3	39
19	ろ過器運転前 (7日目)	12:10	30.6	2.7	2.1	0.016	0.0		0.3	28
20	営業開始前	15:00	38.1	6.4	4.4	0.003	0.0		0.5	41
21	営業終了時	0:15	36.7	6.1	4.4	0.006	0.0	80	0.3	40
22	ろ過器運転前 (8日目)	12:20	32.0	3.3	2.6	0.014	0.0		0.3	28
23	営業開始前	14:45	38.6	4.2	3.5	0.018	0.0		0.5	41
24	営業終了時	0:15	31.0	3.9	3.1	0.008	0.0	80	0.3	39

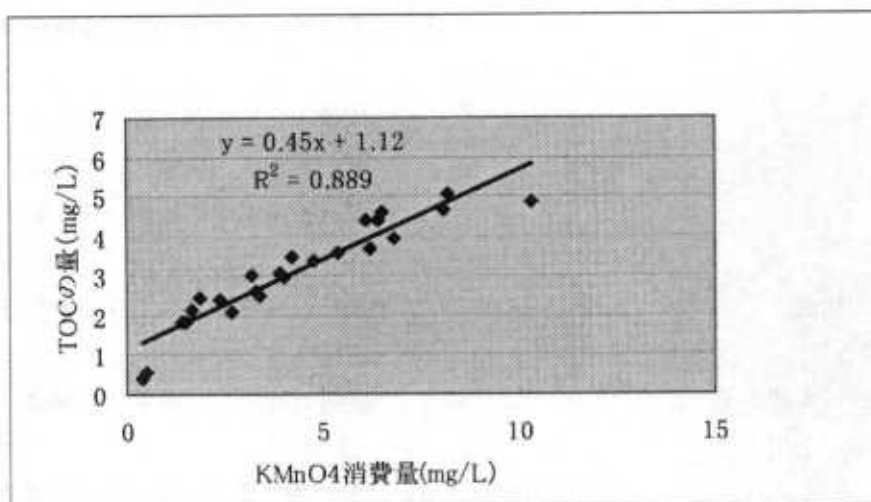


図2 A施設における KMnO_4 消費量とTOCの量の相関図 ($n = 24$)

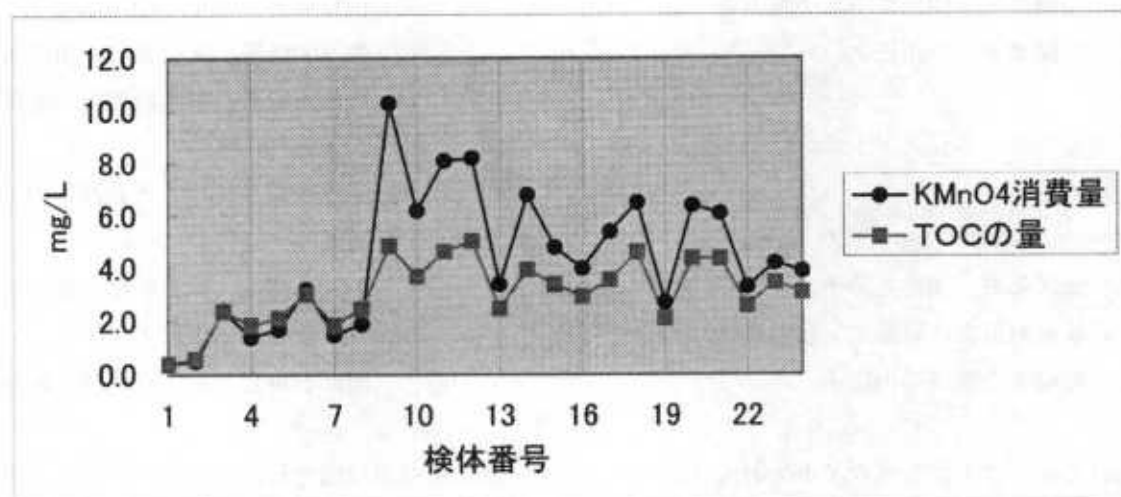


図3 KMnO_4 消費量とTOCの量の経時変化

【まとめ】

市内浴槽水 (136 検体) の白湯を検査したところ、 KMnO_4 消費量は最大 20.0 mg/L 、最小 0.5 mg/L (平均 6.8 mg/L) であり、神奈川県公衆浴場法施行細則の浴槽水水質基準 (25 mg/L) を超えた検体はなかった。

浴槽水における KMnO_4 消費量とTOCの量は $Y = 0.51X + 0.52$ ($R^2 = 0.741$) と良好な回帰直線と相関が認められた。このことからTOCの量は、有機物量を正確かつ迅速に測定できる方法であり、浴槽水の水質基準項目である KMnO_4 消費量と同等以上の優れた検査方法と考えられる。

【参考文献】

- 1) 厚生労働大臣「水質基準に関する省令」厚生労働省令101号、平成15年5月30日
- 2) 厚生労働大臣「水質基準に関する省令の規定に基づき厚生労働大臣が定める方法」厚生労働省告示第261号、平成15年7月22日
- 3) 森脇直子、他：過マンガン酸カリウム消費量と全有機炭素 (TOC) の関係について (第1報)、川崎市衛生研究所年報、第41号、2005
- 4) 神奈川県公衆浴場法施行細則 第7条 浴槽水等の水質基準

2 学会発表

◆ 川崎市健康福祉研究発表会

日時 平成18年6月28日

会場 川崎市中原区役所

散発下痢症患者からの病原菌検出状況

(1996～2005年)

小嶋由香 須藤始代 本間幸子

駒根綾子 岡田京子 小川正之

LAMP法による食品からのサルモネラ菌検査

須藤始代 岡田京子 小嶋由香

本間幸子 小川正之

自動化測定可能なクラミジア・トラコマチス抗体 検査試薬

—「Ct オート・F(KW) - IgG - IgA」の検討—

飯塚郁夫 加佐見洋子

疾病対策課 泉基広 泉谷博

健康増進課 福土律子

川崎市におけるインフルエンザウイルスの流行状況

平位芳江 清水英明 奥山恵子

小川正之

川崎市における手足口病の流行状況と遺伝子解析

清水英明 奥山恵子 平位芳江

小川正之

感染性胃腸炎からのウイルス検出状況

奥山恵子 清水英明 平位芳江

小川正之

早野聖地公園の雨水枡における蚊成虫の発生状

佐竹一弘 佐藤英毅

市内8定点でのライトトラップによる蚊成虫の捕 獲状況

佐竹一弘 佐藤英毅

疾病対策課 田頭晃 岩瀬耕一

各区役所保健福祉センター衛生課一同

スギ・ヒノキ花粉の飛散状況2006年の特徴

佐藤英毅 佐竹一弘

疾病対策課 田頭晃 岩瀬耕一

HPLCを用いた動物用医薬品一斉分析法の検討 (第2報)

橋口成喜 児玉千絵

佐々木清隆 入口政信 田中幸生

南部市場食品衛生研究所 佐藤亮

前処理用カートリッジを使用した食品中のパラオキシ 安息酸エステル類の一斉分析について

佐々木清隆 児玉千絵 橋口成喜

入口政信 田中幸生

南部市場食品衛生研究所 佐藤亮

医薬品成分が検出された中国製ダイエット用健康 食品について(第2報)

児玉千絵 佐々木清隆 橋口成喜

入口政信 田中幸生

南部市場食品衛生研究所 佐藤亮

特定原材料(卵)の検出に対する加工処理の影響

児玉千絵 田中幸生

神奈川県衛生研究所

渡邊裕子 関戸晴子 山田利治

過マンガン酸カリウム消費量と全有機炭素(TOC) の関係について(第2報)

森脇直子 石丸陽子 岸美紀

林幸子 田中幸生

食品中に残留する農薬のポジティブリスト制度に
関する試験法の検討 (第1報)

—畜水産物中の塩素系農薬について—
大場初義 佐藤英子 竹澤英二
田中幸生

食品中に残留する農薬のポジティブリスト制度に
関する試験法の検討 (第2報)

—農作物中の塩素系農薬について—
佐藤英子 大場初義 竹澤英二
田中幸生

◆ 神奈川県公衆衛生学会

日時 平成18年11月14日
会場 県立よこはま看護専門学校

散発下痢症患者からの病原菌検出状況

(1996～2005年)
小嶋由香 須藤始代 本間幸子
駒根綾子 岡田京子 小川正之

川崎市におけるインフルエンザウイルスの流行状況

平位芳江 清水英明 奥山恵子
小川正之

川崎市における手足口病の流行状況

清水英明 奥山恵子 平位芳江
小川正之

◆ 地研全国協議会関東甲信静支部

第19回細菌研究部会
日時 平成19年2月22-23日
会場 さいたま共済会館

散発下痢症患者からの腸管病原菌検出状況

(1997～2006年)
小嶋由香 須藤始代 本間幸子
駒根綾子 岡田京子 小川正之

◆ 関東甲信静ウイルス研究部会

日時 平成18年9月29日～30日
会場 チサンホテル宇都宮

川崎市におけるインフルエンザウイルスの流行状況

平位芳江 清水英明 奥山恵子
小川正之

◆ 第54回日本ウイルス学会

日時 平成18年11月19日～21日
会場 名古屋国際会議場

日本、中国およびタイで検出されたアデノウイルス
41型の Genome Type

清水英明 顔海念
Pattara Khamrin 沖津祥子
牛島廣治

3 論文発表

◆ 川崎市の下痢症患者からの腸管病原菌検出状況
(平成17年)

小嶋由香 本間幸子 須藤始代
赤木英則 岡田京子 小川正之
神奈川県の感染症 (平成17年)

◆ Shimizu H, Okuyama K, Hirai Y, Ogawa M
First isolation of influenza B virus in
Kawasaki City, Kanagawa Prefecture,
Japan in the 2005-2006 season. Jpn J
Infect Dis. 2006;59(2):143-4.

◆ Phan TG, Shimizu H, Nishimura S, Okitsu
S, Maneekarn N, Ushijima H
Human adenovirus type 1 related to feline
adenovirus: evidence of interspecies
transmission. Clin Lab. 2006;52(9-10):515-8.

◆ Shimizu H, Phan TG, Nisimura S, Okitsu

S, Maneekam N, Ushijima H

An outbreak of adenovirus serotype 41
infection in infants and children with acute
gastroenteritis in Maizuru City, Japan.

Infect Genet Evol. 2007;7(2):279-84.

V 職 員 名 簿

(平成 19 年 4 月 1 日現在)

衛生研究所長 技術職員 小 川 正 之

主 幹 技術職員 田 中 幸 生
(理化学検査担当)

主 幹 事務職員 笹 野 悦 洋
(事務担当)

[食品検査部門]

主 幹 技術職員 亦 野 博

主 査 技術職員 海 野 一 彦

主 査 事務職員 鈴 木 美都治

主 任 同 橋 口 成 喜

同 浅 野 明 美

同 佐々木 清 隆

同 川 原 明 子

同 佐 藤 恵 美

技術職員 百 瀬 順 子

同 赤 星 千 絵

主 幹 技術職員 香 妻 正 一

[水質検査部門]

業務職員 笠 井 光 樹

主 査 技術職員 林 幸 子

主 幹 技術職員 岩 瀬 耕 一
(微生物検査担当)

主 任 同 森 脇 直 子

主 任 同 岸 美 紀 子

同 石 丸 陽 子

[細菌検査部門]

[環境検査部門]

課 長 補 佐 技術職員 岡 田 京 子

主 査 技術職員 大 場 初 義

主 査 同 須 藤 始 代

主 任 同 横 田 佳 子

主 査 同 小 嶋 由 香

同 加 納 敦 子

主 査 同 本 間 幸 子

[残留農薬検査部門]

同 駒 根 綾 子

課 長 補 佐 技術職員 竹 澤 英 二

主 査 同 佐 藤 英 子

[臨床検査部門]

同 田 中 佑 典

主 査 技術職員 飯 塚 郁 夫

同 菊 池 春 香

[ウイルス検査部門]

課 長 補 佐 技術職員 平 位 芳 江

主 査 同 奥 山 恵 子

主 任 同 清 水 英 明

[衛生動物検査部門]

主 査 技術職員 佐 竹 一 弘

VI 人 事 記 錄

平成18年4月2日～平成19年4月1日

□異動(出)

年 月 日	補 職 名	氏 名	配 属
19. 3. 31	主 幹	佐 藤 英 毅	退職
19. 3. 31	主 査	加 佐 見 洋 子	退職
19. 3. 31	主 任	小 川 時 彦	退職
19. 4. 1	所 長	入 口 政 信	北部市場食品衛生検査所
19. 4. 1		森 田 良 子	中部地域療育センター

□異動（入）

年 月 日	補 職 名	氏 名	前 職
19. 4. 1	主 幹	岩 瀬 耕 一	健康福祉局保健医療部疾病対策課主査
19. 4. 1	主 査	浅 野 明 美	健康福祉局盲人図書館主査
19. 4. 1	主 査	香 妻 正 一	健康福祉局保健医療部地域保健課主査
19. 4. 1		菊 池 春 香	多摩区役所地域保健福祉課
19. 4. 1		加 納 敦 子	環境局廃棄物指導課
19. 4. 1		田 中 佑 典	(新 任)

☐ 内部異動

年 月 日	補 職 名	氏 名	前 職
19. 4. 1	課長補佐	岡 田 京 子	副主幹
19. 4. 1	課長補佐	平 位 芳 江	副主幹
19. 4. 1	課長補佐	竹 澤 英 二	主査
19. 4. 1	主 査	飯 塚 郁 夫	主査
19. 4. 1	主 査	海 野 一 彦	主査
19. 4. 1	主 査	大 場 初 義	主査
19. 4. 1	主 査	小 嶋 由 香	主任
19. 4. 1	主 査	本 間 幸 子	主任
19. 4. 1	主 任	岸 美 紀	

交通のご案内



バスの便

市営バス 10系統

横浜銀行前より

水江町行……………約 10 分

大島五丁目下車徒歩2分

臨港バス 21系統

駅前バスターミナル

水江町行 } ……約 10 分
日立造船行 }

大島五丁目下車徒歩2分

川崎市衛生研究所年報編集委員

小 川 正 之 (委員長)

笹 野 悦 洋

亦 野 博

岩 瀬 耕 一

平 位 芳 江

田 中 幸 生

林 幸 子

川崎市衛生研究所年報 第42号

平成19年10月発行

発 行： 川崎市

編 集： 川崎市衛生研究所

所在地 〒210-0834

川崎市川崎区大島5-13-10

TEL 044(244)4985

FAX 044(246)2606

Eメール 35eiken@city.kawasaki.jp

印 刷 有限会社 ファースト